

2018年度

事業報告書

社会福祉法人 聖ヨハネ会

# 社会福祉法人聖ヨハネ会

## 基本理念

カトリックの精神に基づき、永遠の生命を有する人間性を尊重し、「病める人、苦しむ人、弱い立場の人」に奉仕します。

## 基本方針

1. 援助を必要とする人々をかけがえのない存在として関わり、人間の尊厳にふさわしい医療または福祉を追求しながら、共にいのちの質を高め合う全人格的な援助を行います。
2. 社会福祉の事業として、良質なサービスを提供し、公正に運営します。
3. 法令及び規程に則り、事業を運営します。
4. 地域社会に立脚した事業として、地域の福祉または医療に貢献します。

## 職員の心得

1. 私たちは法人の理念を理解し、その具体的な実現に努めます。
2. 私たちは自己の使命を認識し、その職能の専門性を十分に発揮するように努力し、各々が役割に応じた自己啓発に努めます。
3. 私たちは社会福祉事業である各施設を相互に理解のもとに、連携、協力を努めます。

## 活動の理念

病に苦しむ人、ハンディを負った人、自立の困難な人の隣人となって、援助の手を差しのべ、その必要に応じて最善を尽くします。

# 2018 年度事業報告

## 目 次

一	法人本部事業報告	1
二	事業経営	8
	1 障害福祉部門	8
	2 高齢福祉部門	32
	3 医療部門	70
	4 公益事業部門	83
	5 収益事業部門	86
三	理事会並びに評議員会	87
四	経営会議	90

## 一 法人本部事業報告

### 【はじめに】

昨年度 2017 年度に社会福祉法の一部改正が全面施行され、経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組を実施する責務といった改正内容に対し、2018 年度はこの大きな変革の流れを引き継ぎ、さらに加速させていくこととなる年となった。昨年度は手探りでスタートしたことが多く、その検証を行いながらさらに充実させていくことを意識して取り組んだ。

地域包括ケアシステムの構築について、これまで以上に法人内の連携が必要という認識のもと、経営会議で具体的な連携イメージを作り、そこに各事業所がどのように関わっていくかを構想し、現場レベルへ落とし込んでいくという作業にも着手した。今年度は医療と介護の連携について、わかりやすい案内を策定することとした。

また本年 6 月に発生した大阪北部地震によるブロック塀崩落事故を受けて、行政からも法人内の各施設におけるブロック塀の点検調査依頼があり、桜町地区敷地の東側及び南側擁壁が建築基準法による基準値を超えた高さとなっていることが判明した。このため基準適合するための改修工事を実施した。

### 【事業報告】

- 1 理事会において、理事長及び業務執行理事の業務執行状況を報告した。(6 月及び 11 月)
- 2 会計監査人による 2017 年度の会計監査を実施した。
- 3 所轄庁への現況報告書を整備した。また財務規律の強化として作成義務のある財務諸表等電子開示システムに関する各種データを作成し、社会福祉充実残額を算出した。
- 4 桜町地区敷地の一団地認定のための道路確保工事と、ブロック塀の改修工事を実施した。  
総工費：65,234,940 円（工事請負費、測量費、設計監理費等）
- 5 法人機能の強化
  - (1)サービスの質の向上
    - (ア) 定款によって定められた「運営協議会」の第三回を 2018 年 8 月に、第四回を 2019 年 1 月に開催した。利用者家族や民生委員から構成される協議会で、要望や意見を聴く機会となり今後のサービスに反映していくこととなった。  
開催日：第三回 2018 年 8 月 6 日（月）10：30－11：30  
第四回 2019 年 1 月 28 日（月）10：30－11：30
    - (イ) 法人内の全事業所を対象とした研修会を開催した。  
○開催日：2018 年 7 月 31 日（木）18：00－20：00  
場 所：本館戸塚ホール

研修名：介護職の接遇マナー

講師：一般社団法人アクティブケアアンドサポート 丸山みどり氏

参加者：桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門東京事業所、障害福祉部門山梨事業所から計 67 名

○開催日：2018 年 8 月 28 日（火）18：00－20：00

場 所：本館戸塚ホール

研修名：人間成長の道しるべ

講師：タッチランゲージ 代表 来栖裕子氏

参加者：桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門東京事業所、障害福祉部門山梨事業所から計 47 名

○開催日：2018 年 9 月 10 日（月）18：00－20：00

場 所：本館戸塚ホール

研修名：リーダー職のためのコミュニケーションの考え方

講師：株式会社ウィ 代表 秋山信悟氏

参加者：桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門東京事業所から計 17 名

○開催日：2018 年 9 月 25 日（火）18：00－20：00

場 所：本館戸塚ホール

研修名：防ごう！「気づかない虐待」など高齢者・障害者への現場リスク

講師：公益財団法人東京都人権啓発センター 小嶋洋明氏

参加者：桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門東京事業所、障害福祉部門山梨事業所から計 55 名

○開催日：2018 年 10 月 16 日（火）18：00－20：00

場 所：桜町高齢者在宅サービスセンター 1 階ダイルーム

研修名：持ち上げない介護

講師：日本社会事業大学 社会福祉学部 特任教授 佐々木由恵氏

参加者：桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門東京事業所、小金井訪問看護ステーションから計 22 名

○開催日：2018 年 11 月 22 日（木）13：30－15：30

場 所：桜町病院 1 階会議室

研修名：誤嚥を防ぐ食事時のポジショニングと食事介助

講師：日本赤十字広島看護大学 客員教授 迫田綾子氏

参加者：桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門東京事業所、障害福祉部門山梨事業所、小金井訪問看護ステーションから計 17 名

○開催日：2018年12月10日（月）18：00－19：30

場 所：本館戸塚ホール

研修名：介護職が行う医行為ではない行為

講 師：品川介護福祉専門学校 教務主任 大牟田佳織氏

参加者：桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門東京事業所、障害福祉部門山梨事業所から計50名

○開催日：2019年1月17日（木）18：00－19：30

場 所：本館戸塚ホール

研修名：笑顔のあふれる職場づくり

講 師：(株)メディカルプラネット 教育研修課専任講師 平野裕子氏

参加者：桜町病院、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門東京事業所、障害福祉部門山梨事業所から計35名

○開催日：2019年2月14日（木）18：00－20：00

場 所：本館戸塚ホール

研修名：福祉現場におけるサービスマインド向上

講 師：東京YMCA 医療福祉専門学校 就職市道室長 渡邊義昭氏

参加者：桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、本町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門東京事業所から計12名

(ウ) 法人内に有する機能をお互い理解し、「コラボレーション」することで、患者さんや利用者さん、地域により貢献できるようになるのではという課題に対応するため、「コラボヨハネ」というチームを結成して進めていくこととした。今年度は地域包括ケアシステムや地域共生社会と言われる中で、テーマを絞り、まずは「認知症」をテーマとした医療と介護の連携を検討しパンフレットを作成した。

## (2)地域における公益的な取組の推進

(ア) 関係団体（全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、小金井市社会福祉協議会等）が主催する連絡会等へ参加し、法人間の連携や広域的な取り組みに協力した。

○開催日：2018年5月9日（水）15：00－17：00

場 所：商工会館会議室

会議名：2018年度第1回協議員総会

主 催：全国福祉医療施設協議会

○開催日：2018年5月16日（水）14：00－17：00

場 所：新宿ワシントンホテル

会議名：2018年度第1回医療部会

主 催：東京都社会福祉協議会

○開催日：2018年7月3日（火）15：00－17：00

場 所：全国社会福祉協議会会議室

会議名：2018年度第1回総務委員会

主 催：全国福祉医療施設協議会

- 開催日：2018年7月18日（水）15：00－17：00  
場 所：飯田橋セントラルプラザ  
会議名：2018年度第2回医療部会委員会  
主 催：東京都社会福祉協議会
- 開催日：2018年9月11日（火）  
場 所：ベルサール飯田橋ファースト  
内 容：福祉ニーズを抱える方へのフィッティングサポート  
演 者：桜町聖ヨハネホーム 園長 藤井律治
- 開催日：2018年9月19日（水）15：30－17：00  
場 所：飯田橋セントラルプラザ  
会議名：2018年度第2回医療部会  
主 催：東京都社会福祉協議会
- 開催日：2018年9月20日（木）～21日（金）  
場 所：メルパルク長野  
内 容：内部管理体制の構築に向けた取り組み  
演 者：法人本部事務局長 竹川和宏
- 開催日：2018年10月1日（月）14：00－16：00  
場 所：商工会館会議室  
会議名：2018年度第2回総務委員会  
主 催：全国福祉医療施設協議会
- 開催日：2018年10月12日（金）10：00－11：30  
場 所：小金井市社会福祉協議会会議室  
会議名：2018年度第1回小金井市社会福祉法人連絡会  
主 催：小金井市社会福祉協議会
- 開催日：2018年10月17日（水）17：00－19：00  
場 所：京王プラザホテル  
会議名：院長事務長会議  
主 催：東京都社会福祉協議会
- 開催日：2018年10月23日（火）11：00－12：00  
場 所：メルパルク京都  
会議名：2018年度第2回協議員総会  
主 催：全国福祉医療施設協議会
- 開催日：2018年10月23日（火）～24日（水）  
場 所：メルパルク京都  
会議名：第29回全国福祉医療施設大会  
主 催：全国福祉医療施設協議会
- 開催日：2018年12月12日（水）15：00－17：00  
場 所：飯田橋セントラルプラザ  
会議名：2018年度第5回医療部会委員会  
主 催：東京都社会福祉協議会

- 開催日：2019年1月16日（水）14：30－17：00  
場 所：飯田橋セントラルプラザ  
会議名：2018年度第3回医療部会  
主 催：東京都社会福祉協議会
- 開催日：2019年2月28日（木）13：30－15：30  
場 所：尚友会館会議室  
会議名：2018年度第3回総務委員会  
主 催：全国福祉医療施設協議会
- 開催日：2019年3月1日（金）10：00－11：30  
場 所：小金井市社会福祉協議会会議室  
会議名：2018年度第2回小金井市社会福祉法人連絡会  
地域公益活動ネットワークに関する実践報告会  
演 者：法人本部事務局長 竹川和宏
- 開催日：2019年3月18日（月）15：00－16：00  
場 所：飯田橋セントラルプラザ  
会議名：2018年度第4回医療部会  
主 催：東京都社会福祉協議会
- 開催日：2019年3月20日（水）15：00－17：00  
場 所：尚友会館会議室  
会議名：2018年度第3回協議員総会  
主 催：全国福祉医療施設協議会

### (3)信頼と協力を得るための情報発信

- (ア) 2018年度事業計画及び予算、2017年度事業報告及び決算を法人のホームページへ掲載した。また各事業活動、提供するサービスの内容、公益的な取り組みの実施状況等について、広報誌等を作成し利用者や家族、地域住民に発信した。

### (4)人材の確保に向けた取り組みの強化

- (ア) 2018年度福祉業人材確保ネットワーク事業合同採用説明会に参加した。

- 開催日：2018年5月13日（日）  
場 所：ベルサール泉ガーデンギャラリー  
主 催：東京都福祉人材センター
- 開催日：2018年9月30日（日）  
場 所：ベルサール秋葉原  
主 催：東京都福祉人材センター

### (イ) 魅力発信チームの組成

各職場の魅力や職員の活躍している状況等を法人内及びステークホルダー（利用者、家族、就業希望者、行政等）へ発信していくことを目的に、若手職員でチームを組成し取り組んだ。

- メンバー：法人本部、桜町病院、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、障害福祉部門東京事業所、障害福祉部門山梨事業



所から代表者各1名  
活 動：法人の魅力を SNS で発信していくことを検討し、facebook を活用した取り組みを進めている。

(5)組織統治（ガバナンス）の確立

(ア) 昨年度整備した内部管理体制の基本方針に基づき、監事主導のもと外部機関の協力を得ながら、内部統制を担保するチェックリストを各部門で作成し、法人本部、高齢福祉部門、障害福祉部門についてのヒヤリングを実施した。

(イ) 社会福祉法人会計基準が統一されたことによる法人全体の経理に関する説明会を開催した。

○日 時：2019年3月25日（月）14：00～15：30

場 所：本館戸塚ホール

出席者：各会計責任者・各経理担当者

(ウ) 消費税率変更に伴う研修会を実施した。

○日 時：2018年12月5日（水）14：00～15：30

場 所：本館戸塚ホール

講 師：(株)小金井会計センター 保坂税理士

6 事業運営に沿った規程類の整備について

経理規程、給与規程、就業規則、組織規程、運営規程等について改訂した。

7 職員交流を目的としたレクリエーションを実施した。

○レク名：西沢溪谷ハイキング

開催日：2018年5月19日（土）

参加者：職員、ご家族含め14名

○レク名：富士山登山

開催日：2018年9月1日（土）～2日（日）

参加者：職員、ご家族含め15名

○レク名：第5回理事長杯争奪ボーリング大会

開催日：2018年11月18日（日）

参加者：31名

8 小金井訪問看護ステーション、聖ヨハネホスピスケア研究所、シニアハイムさくら及び障害者地域生活支援センター関連の、会計業務及び事務業務をサポートした。

その他活動については、後述の経営会議の活動実績を参照されたい。

9 庶務・登記・監査事項等

1) 定款変更認可申請

なし

## 2) 登記

登記年月日	登記内容
2018年6月29日	資産の総額(5,597,265,588円) (2018年3月31日変更)

## 3) 指導監査等

実施年月日	内容	監査人等
2018年5月25日	会計監査人監査	会計監査人
2018年5月30日	監事監査	監事
2018年4月26日	2018年度小金井市障害者日中活動系サービス推進事業補助金実績報告に係る実地調査	小金井市
2018年5月29日	指定訪問看護ステーションに対する集団指導(介護保険・医療保険)	東京都福祉保健局指導監査部・関東信越厚生局健康福祉部
2018年6月18日	児童福祉法第59条第1項に基づく立入検査	東京都福祉保健局
2018年7月17日	東京都実地検査(特養、併設型一般型通所介護、ショートステイ、介護予防等)	東京都福祉保健局指導監査部
2018年7月18日	生活保護法第50条第2項に基づく指定医療機関に対する指導	東京都福祉保健局
2018年11月1日	2018年度社会福祉法人等指導監査(富士聖ヨハネ学園)	山梨県
2018年11月29日	2018年度指定障害福祉サービス事業者等の実地指導及び業務管理体制確認検査	山梨県

## 4) 調査等

提出年月	提出内容	提出先
2018年5月	障害者雇用状況報告書	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
2018年6月	社会福祉法人調査票 現況報告書	東京都福祉保健局指導監査部指導調整課指導調整係
2018年7月	事業報告書	独立行政法人 福祉医療機構

## 二 事業経営

### 1. 障害福祉部門

#### 【 総 括 】

##### 部門の方針及び事業について

障害福祉部門は組織統合 2 年目となり、山梨と東京それぞれの事業運営の良いところを継承しつつ部門の一本化に取り組んだ。特に人事や人材確保・定着については情報の流れがスムーズになり、障害福祉部門としてのスケールメリットを活かすことができた。

2018 年度、部門では障害のある方々の重度化・高齢化や強度行動障害及び就労支援等々が課題となっている。重度化・高齢化については、2017 年富士吉田市に開設したグループホーム（以下、GH という）及び 2020 年小金井市に開設予定の日中サービス支援型 GH を基盤として、既存の GH を含めた形での生活支援や環境整備のあり方を総合的に勘案して検討を進めているところである。強度行動障害については、資格取得等で専門性の確立を目指している。就労支援については、新制度下の就労定着支援事業を開設したことで就労を前提とした在宅支援をさらに推進していくことになる。これらは日中・夜間に係わらず同様の支援が必要とされるため、利用者を中心においた総合的な支援体制の構築を図りながらの事業展開を進めていくことになる。

##### 財務状況について

障害福祉部門は、東京都民及び山梨県民向けの事業を行っており、事業内容も入所・通所施設から相談支援まで幅広い。性質上採算が見合わない事業もあるが、障害者支援における聖ヨハネ会の実践等を勘案すると、どの事業も必要不可欠であるとともに相互の協働・補完関係にあることから部門全体で取り組むことを指針としている。部門全体としては黒字決算の状況であるが、2018 年度の報酬改定や一部事業の状況から事業継続に支障が出るようなことも想定されたため、これらについては 3 年間を目処として事業の建て直しを図ることとした。

令和元年 10 月から新たな処遇改善の仕組みが予定されているが、介護職を中心とした制度のため、対象とならない職員との乖離が大きくなることが想定される。部門としては職員全体を対象として、法制度との整合性を図りつつ対応していくことを基本として進めることにした。

##### 中期経営計画について

法人理念に則した経営のために、利用率の向上と利用者のニーズに向き合った支援体制の構築に取り組んだ。利用者支援では利用者の重度化・高齢化が進む中で、可能な限り地域での生活を継続していくための仕組みが必要である。また、就労支援も重要な課題となっている。

国の方針として、これらに対応する制度が 2018 年度に法制化されたため、制度を見据えつつ対応していくことが必要となる。部門として長年培ってきた支援とあきらめない指針を継続しつつ今後も取り組んでいきたい。

一方でそれらを支える人材の確保と育成も急務であるが、介護・福祉の人材確保は聖ヨハネ会だけではなく社会全体の課題となっている。このため、新たに人材対策に取り組む部署の設置を図ったが、ままならない状況であることからさらに強化していく必要がある。

次年度は中期計画最終年度に当たるため、成果に向けての取り組みを進めてゆきたい。

◆障害福祉部門 山梨事業所

I 事業所名	: 富士聖ヨハネ学園
サービス区分名	: 施設入所支援事業・短期入所事業・生活介護事業

【2018年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (2018度)	利用率 (2017度)	利用率 (2016度)
生活介護 2018.4～	154人	142人	142人	92.2%	93.0%	92.8%
施設入所支援 2018.4～	122人	120人	120人	98.3%	98.6%	98.3%
短期入所 2018.4～	8人	—	5.5人	68.8%	62.0%	57.2%

平均年齢 50.2歳（最高 81歳、最低 20歳）  
 男女比率 74名（男子）：70名（女子） 51：49  
 平均在所期間 25.7年（最長 46.8年）  
 年間入所 2名 年間退所 2名（死亡） ※生活介護

【職 員】

	2018年4月1日 の職員数			年間退任・就任						2019年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
園長	1		1							1		1
副園長	1		1							1		1
生活支援員	74	29	103	1	1	6	2	7	3	74	33	107
事務員	4		4							4		4
栄養士・ 調理員	7	7	14			1	1	1	1	7	7	14
設備等	2	5	7							2	5	7
医師		1	1								1	1
看護師	2		2		2	2		2	2	2		2
医療事務員		1	1								1	1
合計	91	43	134	1	3	9	3	10	6	91	47	138

\*非正規職員については、拠点間異動を含むため合計数値が一致しない。

## 【施設運営状況】

学園では、高齢知的障害の利用者と強度行動障害のある利用者が「豊かな生活」（豊かな時間）を送ることができるための支援に取り組んでいる。その取り組みの根幹として、日々の支援の中で利用者の意思の形成と表出のための支援に取り組んでいる。

また、ターミナル期の支援を模索しながら取り組んでいるが、昨年度は桜町病院の協力により連携に取り組むことができたことは、大きな糧となった。そうした取り組みが評価を得て、入所を希望される方が多くなっている。運営経営面からも、要望に応えられるように迅速な入所に取り組みたい。

職員の確保は、大きな課題になっている。職員の確保ができないために支援に滞りが生じないように、採用への取り組みは最優先課題になっている。

## 【利用者支援状況】

虐待防止・権利擁護の取り組みの一環として、強度行動障害者支援者養成研修に全職員が参加するように取り組み、受講者が40%となっている。また入所を希望される利用者の多くが、強度行動障害のある方であることから入所施設の使命の1つが、行動課題のある利用者の支援であり、重点的に取り組んでいきたい。

また加齢による疾患により3名の利用者がお亡くなりになっている。終末期の支援スキルの獲得のため介護技術の研修の頻度を多くするとともに、学園内の連携（支援員、看護師、管理栄養士、作業療法士、理学療法士等）に取り組んでいる。

## 【施設整備状況】

フィリア棟では、感染症の予防の観点から加湿機能の増強のための増設を行ったが、結果として感染の拡大の防止につながっていた。（これまでの感染者数の減少、感染拡大の防止等の効果がみられた。）

観察カメラの設置も、転倒の原因の解明やてんかん発作の様子の確認等に効果がみられている。

敷地内の既存の建物の活用に取り組んでいるが、活用の方向性を模索している。今後の事業の展開や日中活動の方向性を検討しながら整備に取り組みたい。

## 【教育研修】 施設支援事業部（富士聖ヨハネ学園）

日時	研修名	会場	出席者
3月27～28日	新任職員研修（障害福祉部門）	富士聖ヨハネ学園	8名
4月2日	2018年度法人入職者研修	小金井 法人本部	10名
4月24日	介護リーダー研修	富士吉田市民会館	3名
4月12日	知的障害者施設部会会議研修	メルパルク東京	1名
5月7日	おむつに関する学習会（外部講師）	富士聖ヨハネ学園	24名
5月16日	摂食嚥下セミナー（口から食べる）	ピュア総合	2名
5月21日	山梨県障害福祉従事者スキルアップ研修	山梨県立博物館	1名
5月28日	コミュニケーション研修（外部講師）	富士聖ヨハネ学園	14名
5月29～30日	第1回強度行動障害者支援者養成研修基礎	青少年センター	5名

5月31日	山梨県障害福祉従事者スキルアップ研修	ピュア総合	1名
6月12日	意思決定の支援(交流会)	富士聖ヨハネ学園	15名
6月12~13日	第1回強度行動障害者支援者養成研修実践	青少年センター	4名
6月15日	AED研修(応急手当)	富士聖ヨハネ学園	14名
6月15~16日	東社協 新任職員研修	いこいの村	4名
6月20日	メンタルヘルスマネジメント研修	富士聖ヨハネ学園	14名
6月26日	食事提供研修(はまなし寮)	はまなし寮	3名
7月6日	AED研修(応急手当)	富士聖ヨハネ学園	18名
7月10日	山梨県虐待防止、権利擁護研修	青少年センター	2名
7月12~13日	関東地区知的障害福祉関係職員研究大会	京王プラザホテル	6名
7月20日	AED研修(応急手当)	富士聖ヨハネ学園	18名
7月31日	法人研修 介護マナー	富士聖ヨハネ学園	40名
8月3日	AED研修(応急手当)	富士聖ヨハネ学園	16名
8月7日	新人の育成のための研修	優和福祉専門学校	1名
8月17日	支援の悩みと課題に向き合う 学習会	青少年センター	4名
8月28~29日	強度神津障害者支援者養成研修	青少年センター	6名
8月28日	法人研修 人間成長の道しるべ	富士聖ヨハネ学園(本部)	32名
8月30日	メンタルヘルスとコミュニケーション研修	健康科学大学	2名
8月30日	苦情解決の法律 研修	ピュア総合	1名
8月31日	コミュニケーション技法と回想法	山梨県立大学	1名
9月3日5日	サービス管理責任者研修	ピュア総合	1名
9月10日	法人研修 リーダーのコミュニケーション力	富士聖ヨハネ学園(本部)	30名
9月11~12日	強度行動障害者支援者養成研修基礎	青少年センター	6名
9月12日	意思決定支援と成年後見制度	飯田橋セントラルプラザ	1名
9月15~16日	個別支援計画の作成と運用の研修	サンライズ戸山	1名
9月16日	障害児のこころ 学習会	大月総合福祉センター	1名
9月20日	強度行動障害者支援者養成研修実践	富士聖ヨハネ学園	2名
9月25日	法人研修 気づかない虐待 現場のリスク	富士聖ヨハネ学園(本部)	32名
9月28日	アンガーマネジメント研修	山梨県福祉プラザ	3名
10月10日	介護現場での虐待にかかわる研修	富士吉田市民会館	3名
10月17日	福祉職場のメンタルヘルス	山梨県福祉プラザ	1名
10月18~19日	関東地区種別代表者会議 研修	新横浜国際ホテル	1名
10月31日	東社協 新任職員研修 第2回	研究社英語センター	4名
11月13~16日	全国的障害者福祉関係職員研究会	山口市市民会館	1名
11月14~15日	小金井研修	精霊修道院マリア館等	5名
11月21日	カウンセリング研修	山梨県福祉プラザ	3名
11月22日	法人研修 摂食嚥下 ポジショニング	桜町病院	2名
11月29日	強度行動障害のある方を地域で支える	富士吉田市役所	1名
11月29~30日	全国日中支援部会研究会	新横浜プリンスホテル	3名

12月5日	摂食嚥下のメカニズム	山梨県立文学館	7名
12月5～7日	リスクマネジメント研修	TOC有明コンベンションホール	1名
12月10日	法人研修 介護職が必要な医療知識	富士聖ヨハネ学園（本部）	31名
12月12日	摂食嚥下障害の対処法	山梨県立文学館	6名
12月15日	サルコペニアと摂食嚥下障害	ピュア総合	1名
12月17日	感染症予防研修（外部講師）	富士聖ヨハネ学園	20名
1月15日	管理者のためのメンタルヘルス研修	東京都医師会館	1名
1月17日	法人研修 笑顔のあふれる職場づくり	富士聖ヨハネ学園（本部）	20名
1月26日	自閉スペクトラム症の理解と支援	青少年センター	6名
1月29日30日	強度行動障害者支援者養成研修基礎	青少年センター	7名
2月2日	5法人合同共催研修 共生社会	青少年センター	14名
2月5～6日	強度行動障害者支援者養成研修実践	青少年センター	6名
2月15日	障害福祉部門 アンガーマネジメント	富士聖ヨハネ学園（本部）	34名

※その他学園全体において計71回の研修 延べ外部研修 158名、園内研修 387名参加  
（各課で企画し取り組んで研修は除く）

## II 事業所名 : 富士聖ヨハネ学園 診療所

### 【施設運営状況】

医師及び看護師の交代（退職と採用）に対応しながら医療的な支援の継続に取り組み、新体制の整備を進めている。

この間の状況から、内科医の診察日を増やすこと（月にあと2回診察）が課題となっている。

（現況 内科医 T 週1回 精神科医 W 週1回 精神科医 F 月1回）

### 【利用者支援状況】

日々の健康観察等により利用者が適切な医療支援を受けることができるように取り組んだ。

健康診断は、年2回実施し、結果を伝えるとともにその後のフォローを行っている。

また、リハビリテーション委員会及び摂食嚥下カンファレンスの委員会に参加し、連携して利用者の支援を行っている。

### 【施設整備状況】

使用上不具合のある備品や故障した備品の購入をした。

<b>Ⅲ 事業所名</b>	<b>: 富士北麓聖ヨハネ支援センター</b>
<b>サービス区分名</b>	<b>: 生活介護事業・就労継続支援B型事業・短期入所事業</b>

**【2018年度利用状況報告】**

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (2018度)	利用率 (2017度)	利用率 (2016度)
生活介護	35人	40人	28.5人	81.4%	73.6%	55.2%
就労継続支援B型	15人	10人	8.5人	56.6%	66.3%	63.7%
短期入所	3人	—	1.46人	48.7%	80.0%	80.1%

平均年齢 34.9歳（最高64歳 最低18歳）

男女比率 40名（男子）：20名（女子）

平均在所期間 3.2年（最長5年）

年間入所 9名 年間退所 0名

**【職 員】**

	2018年4月1日の 職員数			年間退任・就任						2019年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	10	8	18			2	1	2	1	10	9	19
看護師	1		1			2		2		1	2	3
調理員		1	1								1	1
合計	13	9	22			4	1	4	1	13	12	25

**【施設運営状況】**

開設から5年目を迎え、生活介護の契約者数、利用率共に増えている。但し利用者の重度化もまた著しく契約者40名中11名(27.5%)が車椅子利用者で、障害支援区分6の方が14名(35%)、同5の方が11名(27.5%)にもなる。またその内筋ジストロフィ患者が1名、胃ろう造設者が1名いる。今年度も医療的ケアの必要な支援学校生(高等部3年生)の実習依頼があり、地域で重症心身障害者を受け入れる施設が少ないこと、他の生活介護事業所が事業の休止、縮小を行っている地域事情を思うと、そのような方達を受け入れられる支援体制の整備が、望むと望まないに限らず、当事業所には求められていることは事実として存在する。また、車椅子利用者が増えることにより活動スペースの確保が課題となっており、利用希望者の増加に対応するための定員増も含めて、今後の施設像の検討に部門全体で取り組む必要性を感じている。

就労継続支援B型の利用者数の停滞は、一昨年圏域に2つの就労継続支援B型事業所が開設し、今年度も1つの事業所が開設したことの影響が大きい。圏域内の就労系事業所は飽和状態



にあるといえる。(圏域の全ての就労系事業所が定員割れをおこしている)。

生活介護と就労Bの定員のバランスをいかにとるかも課題としてあがっている。

### 【利用者支援状況】

(生活介護)

- ・生活習慣病の予防対策として若い利用者を中心に運動プログラムの充実を図った。
- ・重症心身障害者を対象に看護師を中心とした機能訓練を提供した。
- ・重症心身障害者を含めた利用者全員が4班に分かれて日帰り旅行に行くことが出来た。
- ・地域の保育園・幼稚園との交流を行った。
- ・医療的ケアの必要な方の受け入れを行った。

(就労B)

- ・かわらけ作成を行える利用者を養成した。

### 【施設整備状況】

- ・物置購入
- ・作業室フロアシート貼り工事
- ・吉田ガス GHP保守契約締結

### 【教育研修】 富士北麓支援事業部 (富士北麓聖ヨハネ支援センター)

日 時	研 修 名	会 場	出席者
5月21日	山梨県障害福祉従事者スキルアップ研修	山梨県立博物館	1名
5月31日	山梨県障害福祉従事者スキルアップ研修	びゅあ総合	1名
6月28日～29日	日本カトリック児童施設全国大会	ホテルモントレ横浜	3名
7月4日	社会福祉施設給食担当職員研修	山梨県福祉プラザ	1名
7月10日	山梨県障害者虐待防止・権利擁護基礎研修	山梨県青少年センター	2名
7月12日	社会福祉施設給食担当職員研修	山梨県福祉プラザ	1名
7月13日	障害福祉サービス経営セミナー	全社協灘尾ホール	1名
7月13日	知的障害者支援協会関東ブロック大会	新宿京王プラザホテル	1名
10月2日	障害者福祉施設に勤務する看護職者のための交流会	山梨県看護協会	1名
10月4～5日	喀痰吸引等指導者養成講習	山梨県看護協会	1名
10月17日	キャリアパス支援「OJTリーダー研修」	山梨県地場産業センター	1名
11月14日～15日	法人理念研修会	聖霊修道会小金井マリア館	1名
11月15日	キャリアパス支援「モチベーションアップ研修」	山梨県地場産業センター	1名
11月29日	強度行動障害のある方を地域で支えるには	富士聖ヨハネ学園	10名
2月13日	重症心身障害児者の支援者研修	県立あけぼの福祉センター	1名
3月8日	法人研修「アンガーマネジメント」	富士聖ヨハネ学園	1名
3月13日	レクレーション講習会(Ⅱ)	富士ふれあいセンター	1名
3月15日	峡東圏域地域生活拠点全大会	山梨市役所	1名

<b>IV 事業所名</b>	： 河口湖聖ヨハネケアービレッジ 明見聖ヨハネケアービレッジ 富士吉田聖ヨハネケアービレッジ
<b>サービス区分名</b>	： 共同生活援助（介護サービス包括型）

**【2018 年度利用状況報告】**

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (2018 度)	利用率 (2017 度)	利用率 (H2016 度)
河口湖聖ヨハネ ケアービレッジ	10 人	10 人	9.9 人	99.3%	98.0%	92.6%
明見聖ヨハネ ケアービレッジ	7 人	7 人	9.9 人	99.6%	98.2%	97.8%
富士吉田聖ヨハネ ケアービレッジ	20 人	18 人	17.1 人	85.7%	-	-

平均年齢 53.4 歳（最高 71 歳、最低 25 歳）

男女比率 14 名（男性）： 16 名（女性）

平均在所期間 8.0 年（最長 10 年）

年間入所 0 名 年間退所 0 名

**【職 員】**

	2018 年 4 月 1 日 の職員数			年間退任・就任						2019 年 3 月 31 日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
生活指導員	1		1							1		1
サービス 管理責任者	2		2							2		2
生活支援員	7	12	20			1	1	1	1	8	12	20
合計	10	12	20			1	1	1	1	10	12	22

**【施設運営状況】**

2018 年 3 月末をもって忍野聖ヨハネケアービレッジを閉鎖し、同年 3 月に竣工された寿第一ホーム・寿第二ホームに城山ホームを加えた 3 ホームで富士吉田聖ヨハネケアービレッジを 4 月に開設した。

城山ホームの職員夜間体制を宿直に変更した。宿直者の仮眠室を確保するために、現在、利用者の空き室を使用している。そのため定員を埋めることが困難な状況に陥っている。

明見 CV 入居者の高齢化に伴い居室の改修工事を行った。

居宅課の配置職員数が少ないために、富士北麓支援事業部通所課職員の応援により宿直者の確保を行っている状況。

おそらく山梨県内では初の試みとなる重症心身障害者のグループホームである寿第一ホームは大過なく運営することができた。

河口湖 CV サテライトに入居している利用者が山梨県の非常勤職員の募集に応募し、合格。2019 年 4 月より富士吉田市にある山梨県総合農業技術試験センター岳麓試験地にて就労するこ

とが決まった。

河口湖CVに入居している利用者が一年間山梨県障害者職業支援センターに通うことが出来た。

**【施設整備状況】**

- ・忍野CV退去に伴う修繕工事
- ・明見CV居室修繕工事
- ・富士吉田CV開設に伴うCATV引き込み工事
- ・富士吉田CV開設に伴う器具什器購入
- ・富士吉田CV開設に伴う車両購入

**【教育研修】 富士北麓支援事業部（ケアービレッジ）**

日 時	研 修 名	会 場	出席者
7月10日	山梨県障害者虐待防止・権利擁護基礎研修	山梨県青少年センター	2名
8月9～10日	てんかん基礎講座	ベルサール汐留	1名
9月から11月	サービス管理責任者研修	ぴゅあ総合	1名
12月19日	グループホーム世話人等研修会	飯田橋研究社英語センター	1名
3月中延べ	山梨事業所内業務体験研修	富士聖ヨハネ学園	1名

V 事業所名 : さぼーとヨハネ  
 サービス区分名 : 相談支援事業

**【職 員】**

	2018年4月1日 の職員数			年間退任・就任						2019年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
相談支援 専門員	3		3	1				1		4		4
合計	4		4	1				1		5		5

**【施設運営状況】**

- ・山梨県「富士・東部圏域マネージャー」に1名出向
- ・富士北麓障害者基幹相談支援センター「ふじのわ」に1名出向
- ・職員1名が、山梨県相談支援従事者初任者研修を受講し、相談支援専門員に就任した
- ・富士聖ヨハネ学園入所利用者及び富士北麓地域に居住の方の計画相談契約者数が234件に達した。

**【利用者支援状況】**

- ・重症心身障害の支援学校中等部の生徒の支援を圏域を超えて行い、無事卒業式に出席できるようにした。
- ・薬物・アルコール依存症者の計画相談を常時30件行っている

**【施設整備状況】**

- ・なし

**【教育研修】** 富士北麓支援事業部（相談支援）

日 時	研 修 名	会 場	出席者
7月12日	つつじが崎学園公開保育	つつじが崎学園	1名
9月、10月	相談支援従事者相談支援初任者研修	びゅあ総合	1名
10月28日	相談支援ネットワーク研修	びゅあ総合	1名
11月17日	山梨県高次機能障害支援センター講演会	ホテル春日居	1名
1月31日	児童発達支援管理者スキルアップ研修	富士吉田合同庁舎	1名
2月4日	山梨県精神障害者支援従事者養成研修	山梨県立大学飯田キャンパス	1名

◆障害福祉部門 東京事業所

VI 事業所名	: 小金井聖ヨハネ支援センター
サービス区分名	: 生活介護事業・就労移行支援事業・就労継続支援B型事業

【2018年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (2018度)	利用率 (2017度)	利用率 (2016度)
生活介護	22人	20人	16.2人	74.1%	65.1%	49.5%
就労移行	10人	6人	7.0人	70.4%	96.2%	113.7%
就労継続B型	20人	20人	17.2人	86.3%	73.9%	68.0%

平均年齢 28.7歳 (最高63歳 最低19歳)

男女比率 28名(男子) : 19名(女子)

平均在所期間 2.5年(最長6年11か月)

年間入所 5名 年間退所 4名

【職員】

	2018年4月1日 の職員数			年間退任・就任						2019年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1		1					1		1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	7	15	22			3	2	3	2	7	16	23
事務員	2	1	3	1		1	1	1	1	3	1	4
栄養士・ 調理員	1	1	2							1	1	2
医師		1	1								1	1
看護師		1	1								1	1
合計	12	19	31	1		4	3	5	3	13	20	33

【施設運営状況】

小金井聖ヨハネ支援センターは2015年5月に開所した定員52名の多機能型施設である。開所から4年を経過して、特別支援学校の卒業生を主とした利用者受け入れも順調に推移しており、2018年度は卒業生3名と他事業所2名の計5名(生活介護2、就労移行2、就労継続支援B型1)を迎え入れた。さらに就労移行支援からの所属変更もあり、生活介護と就労継続支援B型は2019年4月1日時点で定員が充足されるため新規利用が困難になる状況となった。一方、就労移行支援は就職することで減員となり、新規利用者がいないため大幅な定員割れとなっている。次年度に向けて、受け入れ体制や支援方針の修正・見直しが求められている。実習生受け入れは1年生の職場・事業所体験、2・3年生の実習生を受け入れている。

次年度は生活介護と就労継続支援B型の定員を各々25名に増員して、就労移行支援の10名と合わせて60名定員の事業所とすることとした。それに対応する職員体制の充実も必要であるが、配置基準を超える職員を確保しながらも慢性的な人出不足状態にある。

### 【利用者支援状況】

生活介護は、午前・午後と4時限体制で行い、午前は外作業（腐葉土作り・公園清掃・センター前掃き掃除）と中作業（陶芸・ロザリオ作り・織物等々）、午後は体力保持の意味からそれぞれの体力等に応じて2班に分かれた散歩を取り入れ、音楽（月・水・金）・絵画等の芸術活動をそれぞれの利用者が健康で幸せになれるよう取り組んでいる。また今年度は新たに1日外出を実施して活動の幅を広げた。祝日はお楽しみ企画としてドライブや調理実習等々を取り入れ、日常の活動以外のプログラムを組み休日を楽しめる工夫をしている。毎年支援学校卒業生を多く受け入れているため若い利用者が多いが、年齢や障害・行動特性等の幅が広いと、一人ひとりの満足度を高め、集団としての活動を維持するための工夫が必要になっている。

就労移行支援の2018年度就労実績は2名。厚生労働省の事務補助と総合病院の清掃業務員として働いている。定着支援として、就職6か月後までは定期的な職場訪問、電話相談等も継続して行っている。また、新規事業として「就労定着支援事業」を11月から開始した。就労移行支援としては、就労定着支援事業の期間終了後もボランティア的に継続して支援している方々が大勢いるのも特徴でもある。移行利用者へは、ビジネスマナーの取得、技術向上を目的として法人内の病院栄養科での実践的な作業実習を日々行うとともに、面接同行等の終了支援を行っている。

就労継続支援B型では、利用者の方と職員が協力して作業を行っており、さらなる工賃アップを目指して、日々努力しながら経験を積んでいる。就労については、面談にて本人の意志を確認し、希望される方には個別にプログラムを組んでいる。祝日には余暇活動を設定し、バーベキュー大会やカラオケ大会、調理実習等を行っている。就労を目指しつつ、日々の生きがいを提供する支援が出来ればと考えている。

[作業種類] →パン作業と散歩、ポスティング作業以外は就労移行支援と共同で作業、ワークセンターとの協同も増えたのが今年度の特徴となっている。

○外作業：桜町病院での食器洗浄、桜町病院本部館のトイレ清掃、桜町高齢者在宅サービスセンターでの食器洗浄、小金井市内のアパート・駐車場の草刈り、お寺・保育所の清掃、アパート清掃、小金井市より受託（公園トイレ清掃、公園・砂場清掃）

○室内作業：パン製造作業、パン販売作業（支援センター1階、東小金井駅 nonowa 内店舗）、スウェーデン刺しゅう、小金井市より受託（リサイクル袋作り、凧作り）、内職作業（アクセサリーの袋詰め等）

○その他：散歩、パンのちらしポスティング作業

### 【施設整備状況】

- ・防災備品として備蓄食料の購入。
- ・厨房改修工事
- ・空調設備改修工事

**Ⅶ 事業所名** : 小金井聖ヨハネワークセンター  
**サービス区分名** : 就労継続支援B型事業

**【2018年度利用状況報告】**

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (2018度)	利用率 (2017度)	利用率 (2016度)
就労継続B型	20人	19人	14.0人	70.0%	73.9%	78.6%

平均年齢 42歳(最高76歳 最低25歳)

男女比率 12名(男子) : 7名(女子)

平均在所期間 2.8年(最長6.5年)

年間入所 4名 年間退所 2名

**【職 員】**

	2018年4月1日 の職員数			年間退任・就任						2019年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
所長	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	1	3	4			1		1		1	4	5
調理員		2	2								2	2
合計	3	5	8			1		1		3	6	9

**【施設運営状況】**

今年度も管理者、サービス管理責任者の交代があり、新体制にてスタートした。職員の安定化、育成に努めた結果、安定したサービス提供が出来た。新規受け入れは4名だったが、退所者が2名だったため、20名定員には至らなかった。

来年度も継続して地域との連携を強化し、今年度に行った他市からの受け入れも積極的に取り組み、新規利用者獲得に向けて力を入れていきたい。

就職者のアフターケアにも時間をかけ就労継続につなげた。

利用者の仕事の確保は、受注仕事の開拓など営業にも積極的に取り組み、取引先の確保や受注枠の拡大を行った。

第三者評価を受審した結果に基づき、新3ヶ年計画を策定し正規職員の配置、山梨・東京間の人事異動などをおこない、管理職を含め職員層を厚くし、職員の成長と育成の改善とサービスの質の向上を進めている。また、利用者意思決定支援、虐待防止、権利擁護、緊急時支援、事業継続計画などマニュアルの改正整備に取り組み支援力の強化と利用者支援に活かしていく。

### 【利用者支援状況】

- ・新規受け入れ人数(2018.4～2019.3) 4名。

2017.3月末17名 → 2018年度 新規4名、退所者2名、年度末在籍者19名  
他市(国分寺市)より受け入れを行った。

- ・利用実績：年間利用延べ人数 3,613人(利用率76.6%)
- ・ハローワーク立川での求人検索、就労相談、失業給付手続き
- ・市内短時間アルバイト 読売センター小金井販売所
- ・内職業者より業務請負(株式会社新和)  
→来年度はもう1社業務請負予定(株式会社エアーージェイ)
- ・有限会社石井ホームサービス(不動産業)よりアパート清掃、草刈り作業請負
- ・小金井市内にある真明寺、貫井保育園と清掃契約を結び、作業種と作業収入増に努めた。
- ・ワークセンターにて制作した刺繍バックや小物類等の販売会参加(桜町病院バザー、小金井市障害者週間イベント、教会バザー、イトーヨーカドー販売会)にも力を入れ、利用者さんの地域参加、作業収入増に努めた。
- ・利用者就労支援 就労実績0名  
→相談、連絡調整、職場訪問、アフターケア支援は継続して行った。

### 【施設整備状況】

- ・作業環境の整備

1階、2階の便器交換、作業台入替、備品・荷物の整理など、働きやすい、すごしやすい様にレイアウト変更等を行い、混雑解消、事故や盗難紛失などを予防し、安心して働きやすい”職場”づくりを行った。



Ⅷ 事業所名 : 小金井聖ヨハネケアービレッジ (7ユニット)  
 サービス区分名 : 共同生活援助事業 (介護サービス包括型)

【2018年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (2018度)	利用率 (2017度)	利用率 (2016度)
本町1	7人	7人	7人	100%	100%	100%
本町2	7人	7人	7人	100%	100%	100%
貫井北町1	3人	3人	3人	100%	100%	100%
貫井北町2	3人	3人	3人	100%	100%	100%
貫井北町3	2人	2人	2人	100%	100%	100%
中町	6人	5人	5人	83%	83%	83%
梶野町	7人	7人	7人	100%	100%	100%
短期入所	4人	—	6.1人	61%	60%	36%

平均年齢 53歳 (最高 76歳、最低 24歳)

男女比率 18名 (男性) : 16名 (女性)

平均在所期間 9.3年 (最長 14年)

年間入所 0名 年間退所 0名

【職員】

	2018年4月1日 の職員数			年間退任・就任						2019年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
世話人 生活支援員	9	27	36		1	5		5	1	8	32	40
合計	11	27	38		1	5		5	1	10	32	42

【施設運営状況】

小金井ケアービレッジは1箇所を除き定員数を満たしている。職員の変動もほとんどなく、安定した支援が出来ていた。利用者は日々、日中活動に出かけ規則正しい生活が送れていた。休日には一人で出かけられる利用者は思いのままに外出し、付添いが必要な利用者に対しては移動支援を利用し、ヘルパーとの外出を計画。近隣の買い物やドライブなどは職員が対応した。また、利用者会議は定期的に行われ、行事の計画から実行のサポートを行った。

### 【利用者支援状況】

重度化・高齢化が進む中、日々の健康管理に努め、健康管理を行ってきたが、年々通院者が増えている。全体的には大きな怪我や病気などはなく、インフルエンザ罹患者も数名に留まり蔓延せずに済んだ。今回病気が見つかり手術をした女性利用者が1名あった。術後の経過も良く、今は療養中ではあるものの元気に過ごされており、一安心である。今後の経過の見守りが必要。また、利用者の無断外泊があった。工賃支給日に現金を持って出かけてしまい所在不明になったため警察に届けた。幸い何事もなく1週間後に自力で帰寮したが、今後も一人ひとりの利用者の状況を見守りつつ小さな変化に敏感に気付き、安心・安全な生活を送る事が出来るように努めてゆきたい。

### 【施設整備状況】

- ・外壁塗装と一階玄関の雨漏り・玄関横壁の修理を行った。(本町ユニット)
- ・ベランダ物干し取り付け工事を行った。(梶野町ユニット)
- ・オーナーにより食堂床張替え工事・風呂場脱衣所換気扇工事が行われた。(中町ユニット)

<b>IX 事業所名</b>	<b>: 小金井聖ヨハネ短期入所</b>
<b>サービス区分名</b>	<b>: 短期入所事業</b>

小金井市以外の利用契約も増えている。定期的に利用されている方には安定した支援と環境が提供できている。利用日については、なるべく前月までに希望申し込みをしてもらうことで利用者さんの希望に沿えるような形がとれている。

緊急時の対応が男性はとれるが、女性の方は難しく、人材確保が必要である。これからも、短期入所を必要としている利用者の方々にとって居心地の良い環境を整え、利用しやすい事業所として取り組んでゆきたい。

X 事業所名	: ふらっとヨハネ
サービス区分名	: 相談支援事業

#### 【施設運営状況】

「聖ヨハネ会障害福祉部門東京事業所」の小金井地区と清瀬地区の各事業所を利用されている方を中心に「サービス利用計画」の作成とモニタリングを実施した。

今年度は相談員2名で分担しながらの聞き取り、作成をした。手分けしながらの作成は相談員一人にかかる負担が少なく、効率よく面談やモニタリングの報告書の作成ができるが、兼任業務の相談員であることから新規利用者の依頼や現利用者の要望・希望に即応する余裕がない現状がある。次年度は専任体制を取る予定である。

#### 【利用者支援状況】

緊急の対応として短期入所利用をできるだけ、素早く利用できるように手配した。

小金井地区では新規利用者が増え、定期的な利用が増え、安心した利用が続いている。清瀬地区では緊急対応として数か月間の短期入所利用を受け入れた。市内でも徐々に周知度が広がり、少しずつではあるが利用者が増えている。

#### 【施設整備状況】

なし

【教育研修】（小金井支援事業部）

日時	研修名	会場	出席者
6月15日～16日	2018年度東社協知的発達障害部会新任職員研修	いこいの村 あしがら 神奈川県足柄上郡大井町柳 260	2名
6月22日	東社協強度行動障害支援基礎講座	飯田橋セントラルプラザ 12階	1名
6月23日	東社協学習会『多職種で支える高齢者の食支援』	飯田橋セントラルプラザ 12階	1名
6月26日～27日	2018年度第1回東京都相談支援従事者 初任者研修（1・2日目講義）	練馬区立練馬文化センター大ホール	3名
6月28日	東京労働局障害者雇用を推進していくための 「就労支援セミナー」&「面接会」	立川地方合同庁舎 3階共用会議室	1名
7月3日～4日	第1回東京都相談支援従事者 初任者研修（3・4日目講義）	練馬区立練馬文化センター小ホール	1名
7月7日	東社協 2018年度学習会 『学ぼう！最新のキズの処置を』	東京都社会福祉協議会 12階会議室	1名
7月12日～13日	東京都保健福祉財団強度行動障害支援者養成研修 『基礎研修』	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル地下① あいおいニッセイ同和損保新宿ビル3階	1名
7月24日～25日	2018年度第1回東京都相談支援従事者 初任者研修（5・6日目演習）	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
7月31日	法人合同研修「介護職の接遇マナー」	本館戸塚ホール会議室	1名
8月28日	法人合同研修「人間成長の道しるべ」	本館戸塚ホール会議室	1名
9月3日～4日	2018年度強度行動障害支援者養成研修 『基礎研修』	ホテル日航立川 3階アトランティック	1名
9月3日～4日	全国グループ等研修会四国地区大会 in えひめ	ひめぎんホール	1名
9月10日	法人合同研修「リーダー職のためのコミュニケーションの考え方」	本館戸塚ホール会議室	5名
10月26日	東社協知的発達障害部会地域支援分科会 「立川通勤寮見学～連携型GHなどの取り組みについて」	立川通勤寮	1名
10月31日	2018年度東社協知的発達障害部会新任職員研修（第2回）	研究社英語センター地下 2階大会議室	2名
11月12日	労働基準法等に関する基礎研修会	国立オリンピック記念青少年総合センター	1名
11月14日	聖ヨハネ会 障害福祉部門 職員研修	聖霊修道院マリア館	4名
11月15, 16, 21日	東京都障害者虐待防止・権利擁護研修 管理者コース（1、2、3回）	ルミエール府中 1階コンベンションホール	1名

12月4日～5日	2018年度強度行動障害支援者養成研修『実践研修』	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル	1名
12月7日～8日	2018年度重度訪問介護従業者養成研修 行動障害支援課程 行動障害支援者研修	社福) 滝乃川学園石井亮一・筆子記念館	1名
12月9日～10日	2018年度行動援護従業者養成研修 行動援護従事者養成研修	社福) 滝乃川学園石井亮一・筆子記念館	1名
12月10日	法人合同研修介護職が行う医行為ではない行為	聖ヨハネ会本館 戸塚ホール	3名
12月2日、16日	オープンミトンお菓子教室	恵比寿コッタスタジオ	1名
1月17日	法人合同研修『笑顔あふれる職場づくり』	聖ヨハネ本館 戸塚ホール	2名
1月25日 2月1日	オープンミトンお菓子教室	オープンミトン (小金井市本町1-12-13)	1名
1月30日	2018年度都通研第5回研修会 個別支援計画を再考するⅡ	国立オリンピック記念青少年総合センター	1名
2月7日	2018年度第2回東京都サービス管理責任者 研修及び東京都児童発達支援管理者研修 1日目共通講義	杉並公会堂 大ホール	2名
2月14日	法人研修福祉現場におけるサービスマインド向上	聖ヨハネ本館 戸塚ホール	1名
2月16日	第23回人権フォーラム(虐待防止研修)「手を繋ぎ心を繋ぎ続く未来」	飯田橋セントラルプラザ12階A～D会議室	1名
2月18日	福祉施設の事業継続計画作成研修 現場で使えるBCPを作成するために (全2回中第1回目)	飯田橋升本ビル8階 東京都左官工業協同組合「貸会議室」	2名
2月19日～20日	2018年度第2回東京都サービス管理責任者 研修及び東京都児童発達支援管理者研修 2・3日目分野別研修/第一分野:介護	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
2月22日	法人合同研修『アンガーマネジメントに学ぶ!』	聖ヨハネ本館 戸塚ホール	23名
2月25日	2018年度東社協知的発達障害部会 新任職員研修(第3回)	研究社英語センター地下2階大会議室	2名
3月7日～8日	2018年度第2回東京都サービス管理責任者 研修及び東京都児童発達支援管理者研修 2・3日目分野別研修/第三分野:地域生活(知的・精神)	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
3月18日～19日	就労支援機関と精神科医療機関とのより良い 連携を目指して～スキルアップ研修～	L M J 東京研修センター	1名

XI 事業所名 : 清瀬聖ヨハネ支援センター  
 サービス区分名 : 生活介護事業

【2018年度利用状況報告】

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (2018度)	利用率 (2017度)	利用率 (2016度)
生活介護	20人	21人	18.9人	94.7%	86.8%	99%

平均年齢 45歳(最高65歳 最低22歳)

男女比率 11名(男子) : 10名(女子)

平均在所期間 4.2年(最長4.6年)

年間入所 1名 年間退所 2名

【職員】

	2018年4月1日 の職員数			年間退任・就任						2019年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
施設長	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
生活支援員	3	7	10			1	2	1	2	3	6	9
調理員		1	1								1	1
医師		1	1								1	1
看護師		1	1								1	1
合計	5	10	15			1	2	1	2	5	9	14

【施設運営状況】

2018年度は、4月に新規利用を開始された方がご家族等の都合で施設入所するため6月に退所された。結果、年度末現員21名となり定員を1名超える利用となった。今後は地元の清瀬市民を多く受け入れて地域密着となるようにしてゆきたい。

【利用者支援状況】

開設5年を過ぎ、支援の形が定着してくるとともに利用者の方々も事業所内での自分の立ち位置が定まってきた。また、外部との交流が増えて外に出る機会も多くなり利用者の希望に応える活動ができています。活動内容は主に二つである。牛乳パックを和紙に再生して作る「ハガキやカード類」は工程作業を利用者の特性に合わせながら進めている。もうひとつは創作活動で、利用者一人一人が持っている感情・感覚・感性をありのままに表現したものを絵画として創り出し、展示会などに出展して多くの方に“何か”を感じてもらえればと思っている。この創作絵画はこれからもいろいろとアイデアを出し合いながら進めていきたい。その他、小グループ外出、季節の行事、調理実習、健康管理等々の活動を行っている。

**【施設整備状況】**

なし

XII 事業所名	: 清瀬聖ヨハネケアービレッジ (4ユニット)
サービス区分名	: 共同生活援助事業 (介護サービス包括型)

**【2018年度利用状況報告】**

種別	定員	現員 (3月末)	1日平均 利用者数	利用率 (2018度)	利用率 (2017度)	利用率 (2016度)
下清戸1	7人	7人	7人	100%	100%	100%
下清戸2	7人	7人	7人	100%	100%	100%
中清戸1	7人	7人	7人	100%	86%	100%
中清戸2	7人	7人	7人	100%	100%	100%
短期入所	2人	—	0.4人	41%	11%	17%

平均年齢 46歳 (最高 65歳、最低 24歳)

男女比率 14 (男性) : 14名 (女性)

平均在所期間 7.6年 (最長 12年)

年間入所 1名 年間退所 0名

**【職 員】**

	2018年4月1日 の職員数			年間退任・就任						2019年3月31日 の職員数		
	正規職員	非正規職員	合計	正規職員		非正規職員		合計		正規職員	非正規職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
管理者	1		1							1		1
サービス 管理責任者	1		1							1		1
世話人 生活支援員	7	18	25	1	1	4	2	5	3	7	20	27
合計	9	18	27	1	1	4	2	5	3	9	20	29

### 【施設運営状況】

2018年度は中清戸ユニットに1名が入居されたことで定員が満たされた。下清戸ユニットでは経年劣化によるエアコンの取換えなど、建物へのメンテナンスが徐々に増えてきたため、必要に応じて補修等を行ってきた。

清瀬市内のグループホーム事業所との「連絡協議会」を継続して開催している。今後も利用者・職員同士の交流や支援力の向上などに向けて進めてゆきたい。

### 【利用者支援状況】

ケアビレッジでは、それぞれの思いを大切に一人ひとりの暮らしに即した支援を行うように心がけた。利用者の方々は、日々、日中活動事業所やデイケアに通い、思い思いに過ごしている。休日は、帰宅される方、ガイドヘルパーを利用して趣味や外出を楽しむ方、またはボランティアの人たちと音楽や会話を楽しむ方などいろいろである。何気ないひと時が安らぎとなるそんな空間や雰囲気大切にしている。

健康管理については、日々の生活の中で利用者のちょっとした変化に気を配り支援者同士の話し合いと連絡を重ねて早期対応をしてきたが、突発的な利用者の怪我等があった。原因等を考察し、支援者同士で共有するとともに、安心・安全な生活が送れるように支援をしてゆきたい。

今年度は12月のクリスマス会を清瀬聖ヨハネ支援センターにて「下・中ユニット」の全員で「合同クリスマスパーティー」を開きお祝いした。

### 【施設整備状況】

- ・IHコンロ取換え（下清戸ユニット）
- ・トイレ手すり工事（中清戸ユニット）
- ・テレビ取換え（中清戸ユニット）

XIII 事業所名	: 清瀬聖ヨハネ短期入所
サービス区分名	: 短期入所事業

2018年度は緊急的な受け入れを含め対応してきた。清瀬市内では徐々に認知度が高まって利用者が増えている。今後も定期的な利用者だけではなく、緊急の一時保護にも応えられる様に職員全員で受け入れ態勢を整えている。



【教育研修】（清瀬支援事業部）

日時	研修名	会場	出席者
6月15日～16日	2018年度東社協知的発達障害部会新任職員研修	いこいの村 あしがら 神奈川県足柄上郡大井町柳260	1名
6月17日	東社協学習会『家族との上手なつき合い方』	シャロームみなみ風	1名
6月23日	東社協学習会『多職種で支える高齢者の食支援』	飯田橋セントラルプラザ 12階	1名
6月26日～27日	キャリアパス対応生涯研修課程「新任者研修」	日本社会事業大学文京キャンパス	1名
6月26日～27日	2018年度第1回東京都相談支援従事者初任者研修（1・2日目講義）	練馬区立練馬文化センター大ホール	3名
7月3日～4日	2018年度第1回東京都相談支援従事者初任者研修（3・4日目講義）	練馬区立練馬文化センター小ホール	1名
7月18日～19日	2018年度第1回東京都相談支援従事者初任者研修（5・6日目演習）	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
7月19日～20日	キャリアパス対応生涯研修課程初任者研修【B-3】 B：既卒者コース	日本社会事業大学文京キャンパス	1名
7月31日	法人合同研修「介護職の接遇マナー」	本館戸塚ホール会議室	1名
8月28日	法人合同研修「人間成長の道しるべ」	本館戸塚ホール会議室	1名
9月10日	第5回支援スタッフ部会施設見学会 社会福祉法人みぬま福祉会川口太陽の家工房集	社会福祉法人みぬま福祉会 川口太陽の家工房集	1名
9月10日	法人合同研修「リーダー職のためのコミュニケーションの考え方」	本館戸塚ホール会議室	2名
9月11日～12日	東社協 2018年度交流研修	日本社会事業大学文京キャンパス	1名
9月12日	東社協知的発達障害部会 「CASE STUDY #アート活動」	飯田橋セントラルプラザ 12階 東京都社会福祉協議会A・B会議室	1名
9月20日～21日	キャリアパス対応生涯研修課程 《福祉職員職務階層別研修》	日本社会事業大学 文京キャンパス	1名
9月22日	東社協合同学習会 「私たちの知らない自閉症の世界Ⅱ」	日本社会事業大学 清瀬キャンパス	4名
10月10日	東社協知的発達障害部会 「CASE STUDY #モノづくり」	飯田橋セントラルプラザ 12階	1名
10月16日～17日	東社協キャリアパス対応生涯研修課程 《福祉職員職務階層別研修》 第6回中堅職員研修	日本社会事業大学文京キャンパス	2名
10月20日	2018年度東京都発達障害者支援体制整備推進事業 発達障害者支援研修 「相談支援知識力向上研修」第1回	研究社英語センター地下2階 大会議室	1名

10月28日	2018年度東京都発達障害者支援体制整備推進事業 発達障害者支援研修「相談支援知識力向上研修」第2回	研究社英語センター地下2階 大会議室	1名
11月14日	聖ヨハネ会 障害福祉部門 職員研修	聖霊修道院マリア館	1名
11月22日	東社協知的発達障害部会 第1回 若手リーダー・グループリーダー候補向け研修	飯田橋セントラルプラザ 12階 東京都社会福祉協議会A～C 会議室	1名
12月6日	東社協知的発達障害部会 第2回 若手リーダー・グループリーダー候補向け研修	飯田橋セントラルプラザ 12階 東京都社会福祉協議会A～C 会議室	1名
12月10日	法人合同研修介護職が行う医行為ではない行為	聖ヨハネ会本館 戸塚ホール	1名
12月11日	強度行動障害支援指導者養成特別委員会公開講座	研究社英語センタービル 地下2階	1名
12月19日	2018年度第3回グループホーム世話人等研修会	研究社英語センタービル 地下2階	2名
1月13日	東社協学習会自分の心に寄り添ってみませんか?	東京都社会福祉協議会 12階 会議室	1名
1月17日	法人合同研修『笑顔あふれる職場づくり』	聖ヨハネ本館 戸塚ホール	1名
1月22日～23日	チームリーダー重点テーマ強化研修 リーダーシップ課題形成を中心に 第2回	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
2月7日	2018年度第2回東京都サービス管理責任者研修及び東京都児童発達支援管理者研修 1日目共通講義	杉並公会堂 大ホール	2名
2月14日	法人研修福祉現場におけるサービスマインド向上	聖ヨハネ本館 戸塚ホール	1名
2月16日	第23回人権フォーラム(虐待防止研修) 「手を繋ぎ心を繋ぎ続く未来」	飯田橋セントラルプラザ 12階A～D会議室	1名
2月19日～20日	2018年度第2回東京都サービス管理責任者研修及び東京都児童発達支援管理者研修 2・3日目分野別研修/第一分野:介護	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
2月22日	法人合同研修『アンガーマネジメントに学ぶ!』	聖ヨハネ本館 戸塚ホール	17名
3月7日～8日	2018年度第2回東京都サービス管理責任者研修及び東京都児童発達支援管理者研修 2・3日目分野別研修/第三分野:地域生活(知的・精神)	東京都社会福祉保健医療研修センター	1名
3月16日	2018年度第2回合同学習会 『支援はそもそもズレている!』	立川福祉作業所	2名

## 2. 高齢福祉部門

### I 桜町聖ヨハネホーム

(指定介護老人福祉施設・短期入所生活介護)

#### 【2018年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	利用率(2018度)	利用率(2017度)	利用率(2016度)
介護老人福祉施設	106名	97.2名	91.7%	93.8%	95.8%
短期入所生活介護	8名	5.4名	67.0%	68.2%	78.0%

※定員106名の内、2床：看取室・緊急ショート室として利用。

平均年齢 88.9歳（最高105歳、最低59歳）

男女比率 16：84（2019年3月31日現在：100名）

平均在所期間 3年6ヶ月（最長18年10ヶ月）

年間入所 24名（2017年度入所：20名・2016年度入所：19名・2015年度入所：24名）

年間退所 26名（2017年度退所：22名・2016年度退所：18名・2015年度退所：24名）

#### 【職員】

	2018年3月31日の職員数			年間退任・就任						2019年3月31日の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
医師	0	6	6	0	0	2	2	2	2	0	6	6
生活相談員	1	2	3	1	0	0	2	1	2	2	0	2
介護支援専門員	(3)	0	(3)	0	0	0	0	0	0	(3)	0	(3)
介護員	29 (3)	18	47 (3)	3	4	2	3	5	7	28 (3)	17	45 (3)
看護師	4	3	7	4	3	1	2	5	5	5	2	7
機能訓練指導員等	1	2	3	0	0	0	0	0	0	1	2	3
管理栄養士	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2
調理員	5	8	13	0	0	0	4	0	4	5	8	13
事務員	4	0	4	0	0	0	0	0	0	4	0	4
生活サポート	0	15	15	0	0	1	1	1	1	0	15	15
用務員	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	46 (3)	56	102 (3)	8	7	6	14	14	21	47 (3)	56	103 (3)

※上記表には管理宿直員含まず ※副園長（常勤）は機能訓練指導員兼務

※介護派遣職員 2019年3月31日現在 夜勤専従員介護員1名

## 【施設運営状況】

### 1. 財務状況について

単位：千円

	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度
当期資金収支差額	▲1,223	▲20,421	10,965	5,616	▲1,731
当期事業収支差額	▲54,565	▲50,371	▲2,636	▲18,654	▲19,931
人件費率	83.7%	81.3%	73.6%	75.9%	75.1%
修繕費	5,583	3,751	2,998	2,357	5,927
減価償却費	25,439	25,189	24,804	25,682	27,660

前期に続き、財務状況が好転せず2期連続でホーム事業収支会計、資金収支会計とともに赤字を計上した。事業収支会計は今期、▲5457万円の赤字（前期▲5037万円）。これまで2014年度、2015年度、2016年度と赤字の改善を進めて、2016年度には、事業収支会計の黒字化まで▲264万円までのところに来ていたが、2017年度、2018年度は、財務改善が計画通り進まず大きな赤字を計上することになった。

事業収支会計・資金収支会計の赤字の主な原因は、①入所ご利用者の入院数が激増し▲1100万円、ショートステイ利用率で▲285万円と目標に大きく届かなかったこと。②老朽化による支出は、修繕費が560万円、固定資産物品の更新で1240万円、総額1800万円と増加しており、予定より150万円超過したこと。④人件費では、非常勤人件費（看護師確保）や介護職員・看護職員の不足による派遣職員費が増加し予定より1300万超過したことなどが挙げられる。

資金収支会計の決算額は、直接、財源・資金を減らすものと警戒し特に黒字化を必須とし進めてきたが、今期は、積立金取り崩しておりこれを除けば、実質▲3557万円の赤字計上（前期▲2042万円）をしている。

サービス活動の人件費率は、今期、83.7%で前期同様、危険域を脱していない。収入目標の未到達と併せて、人件費率は、高い状況で留まっている。人件費率の過去の推移は、2017年度81.3%（当該年度より賞与引当金計上）、2016年度は73.6%、2015年度は75.9%、2014年度は75.1%、2013年度は78.11%である。介護職員を確保しつつ人件費率を改善することは、容易ではないが、分析を進めて引き続き適正化には最大限の努力を要する。

今期の減価償却費は、2544万円を計上した。2017年度2519万円、2016年度2480万円、2015年度2568万円、2014年度2766万円、2013年度3160万円計上であり、これを完全にカバーできる財務状況にはまだ至っていない。

高齢福祉部門経営会議・部長会議で部門の財務改善についてモニタリングをしながら取り組んできたが、ホームの財務改善は、ホーム自ら施設中心で財務改善の取組みを継続してきた。しかしながらホームの財務状況は一層厳しいものとなっており、今後は、在宅サービス部の意見を十分反映させたり、法人本部、法人経営層の意見も反映させて、抜本的な見直しも含めての財務改善が必須と考える。まずは、資金収支会計での確実な黒字継続を目指したい。

## 2. 入退所の動き（入院数増加対策は財務課題に）

ベッドが空いている期間をできるだけ短くて済むよう工夫し、スムーズな入所がなされるよう継続し取り組んでいたが、冬場の感染症発症により1月以降の対応は、難しい面があった。

今期は、総計24名の新入所で退所は総計26名。退所の動向は、26名の内、施設内でご逝去が11名、桜町病院入院中でのご逝去が10名。その他、長期入院などで医療機関等への退所が4名。また近年では初めて入所後、身体面・生活面が安定されて在宅復帰された方が1名となった。在宅復帰された方には、生活相談係が中心となり支援し、ご家族、地域包括支援センター、ケアマネージャとの連携により実施された。

新入所は、他施設・他病院から16名、桜町病院から6名、在宅生活から2名となっている。法人内の連携で桜町病院との入退所の連携を見ると、桜町病院から新入所が6名、桜町病院入院後退所（ご逝去）が10名となり双方向での協力連携が実施された。

利用率の安定は施設全体で積極的に展開したが、前期から続く入院者の激増は、収入の大幅減の大きな要因となっている。ご利用者様の持病などの疾患や重介護度の入所が増加し入院傾向は前年に続き高い。また1月から集団感染となったインフルエンザについては、更なる入院増や空床利用、ショート利用率にも大きくマイナスの影響となった。

施設サービス部では、近年のデータにより、1日2名程度の入院を想定して予算積算していたが、今年度の平均利用人員は、97.2名と1日平均6名の入院ペースとなっている。入院中の空きベッドをショートステイ利用者に充てるためには、桜町病院との連絡を一本化して、スムーズな連絡調整が必要であるが、その場合でも入院数が一定数を超える場合は、ショートステイ対応も限定的である。病院との共有と対応を進めると同時に、ショートステイのロング利用なども積極的に展開していかなくてはならない。

### 【利用者支援状況】

施設目標 人生の完成に向かって歩まれている利用者様に

『大切にされていると思われるケア』を実践する。 【サービス】

#### (1) 職員一人一人が自分の役割を理解し、責任と誇りを持ちます。 【人財育成】

施設サービス部には、7つの会議と5つの委員会と9つの担当・チームがある。

それぞれが目的をもって活動した。

##### ● リスクマネジメントについて

主に介護事故予防対策会議での取り組みとして

##### 1) 園内研修による予防対策

「急変時の対応 一時救命処置 心肺蘇生・AED」を消防庁の職員を招き実践した。

「急変時の対応 座学と演習」を実施し、一般的な知識習得

と共にこの施設環境下での対応能力の向上を図る職員教育を実施した。

##### 2) 転倒転落予防の取り組み

現在相当数を使用している、センサーマットコールに関して外部業者による研修会の実施をした。

##### 4) 『ヒヤリハット・危険予知活動』の継続

利用者が特定できないヒヤリハット・危険予知の気づきを会議で取扱い、身近にある危険に関して取り上げた。

● 感染症対策について

病院から感染症管理看護師を招き、フロアーの状況をラウンドして様々な意見を頂いた。しかしながら、年明けにインフルエンザが蔓延してしまった。ご利用者様26名。職員20名の罹患となった。この事から、通常、特別養護老人ホームの入居が要介護度3以上の方と虚弱で重介護となっている事に合わせて感染に関する考え方をより一層総合的に考えて取り組む必要があると捉えている。

感染蔓延時は介助者にはアルコールジェルを携帯させてアルコール消毒の励行を取り入れた。その他環境面や対策などに関して次年度への大きな課題である。

● サービスへの取り組み

サービスマナーは虐待防止の第一歩と捉え、ケア委員会のサービスマナー担当により、計2回の研修を行った。1回目は虐待防止も含む内容として言葉遣いの研修を実施し、2回目は身体拘束とその弊害に関して実施した。行事は行事実行委員会が主体となり、その日の人員を厚く配置して、安全に行うことが出来た。特に納涼祭などは家族会の方々のお手伝いも頂きご利用者様に合わせた行事が出来た。栄養褥瘡委員会は、低栄養や褥瘡のリスクを総合的に判定、評価しここでの大きな褥瘡などの発症は見られなかった。リハビリ会議において、ご利用者様に合ったプログラム、サービスの提供が出来る様にご利用者様お一人お一人に対して検討をした。特に現在新規入所の要介護度が高くなってきている現状から集団でのセラピー活動よりも個別対応での実施が増えてきている。

(2) 各係が連携し、組織性を高めます。 【組織】

特にご利用者様の生活を支える生活支援課の3係（介護係・医務係・生活相談係）は、何か問題が称いそうになった時には些細なことであっても集まる習慣をつけて相談し物事を決定していった。そうした情報の共有化を図り連携を強めるよう努めた。

(3) 安定した財務状況を維持します。

残念ながら今期も、収入目標に到達することが出来ず、2期連続の資金収支会計の赤字計上となっている。（財務状況についてを参照）

これは、入所者の要介護度の重度化による、入院日数の増加、並びにインフルエンザによるショートステイの中止や入院者が出たことも原因と考えられる。また、ショートステイの体調不良によるキャンセルなども影響があると思われる。

今後入院ベッドの空床利用やショートステイのキャンセル対応など、更に事業所への営業活動の強化が必要と思われる。

(4) 開かれた施設であり続けます。

上智大学院の実習受け入れやしんあい保育園との交流や東中学校生徒や白百合学園、恵泉女学院の学校のボランティア活動の受入、その他生活援助やサークル活動、喫茶やお茶席等団体活動32団体、延べ人数979名。個人活動延べ2429名。

年間活動合計延べ人数3408名の方々に施設に来ていただいている。

また、ホームページで各種行事の様子や研修会・勉強会の様子を都度アップし視覚的にも大勢の人にホームの様子が分かる様に努めた。

## 特記事項 緊急ショートステイの受け入れについて

利用者数は男性1名。女性5の計6名。延べ利用日数は69日であった。  
 前年度は、実績6名。延べ利用日数59日の実績状況である。利用内容は主な介護者の急病・入院・冠婚葬祭・介護者からの不適切な介護・虐待等があげられる。在宅での老老介護の実態が汲み取れる。また、異常気象による夏場の熱中症や孤独死においても、被害防止の為に、緊急ショートステイの利用は有効性が見られる。  
 今後も増え続けるであろう通常サービスでは対応できない受入サービスとしての緊急ショートステイは必要性が高いものと考えられる。

### 〔Ⅰ〕 入所ご利用者のADL状況について

※ADL状況について<2019年3月31日現在・単位(人)・80名調査>

種類 \ 区分	介助されてない	見守り	一部介助	全介助
食 事 (構成比 %)	4 (5.0)	49 (61.3)	15 (18.8)	12 (15.0)
衣服着脱・上着 (構成比 %)	8 (10.0)	5 (6.3)	43 (53.8)	24 (30.0)
衣服着脱・ズボン (構成比 %)	6 (7.5)	3 (3.8)	7 (8.8)	64 (80.0)
排 泄・排 尿 (構成比 %)	4 (5.0)	5 (6.3)	32 (40.0)	39 (48.8)
排 泄・排 便 (構成比 %)	5 (6.3)	4 (5.0)	34 (42.5)	37 (46.3)
洗 身 (構成比 %)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (23.8)	61 (76.3)
起 床 (構成比 %)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (52.5)	38 (47.5)
寝 返 り (構成比 %)	2 (2.5)	0 (0.0)	45 (56.3)	33 (41.3)
立ち上がり (構成比 %)	0 (0.0)	0 (0.0)	39 (48.8)	41 (51.3)
歩 行 (構成比 %)	7 (8.8)	0 (0.0)	18 (22.5)	55 (68.8)

### 〔Ⅱ〕 入所ご利用者の要介護度の状況について (前年年度末:比)

	《2019.3.31 現在》		《2018.3.31 現在》	
	男 性	女 性	男 性	女 性
要介護1	0名	0名	0名	0名
要介護2	1名	0名	1名	0名
要介護3	2名	0名	3名	-1名
要介護4	4名	0名	10名	-6名
要介護5	9名	0名	4名	+5名
合 計	16名	0名	18名	-1名

〔Ⅱ〕入所ご利用者の要介護度の状況について（前年年度末：比）

	《2019. 3. 31 現在》		《2018. 3. 31 現在》	
	女 性	女 性	女 性	前年同日比増減
要介護 1	2 名	4 名	4 名	-2 名
要介護 2	4 名	7 名	7 名	-3 名
要介護 3	10 名	18 名	18 名	-8 名
要介護 4	37 名	38 名	38 名	-1 名
要介護 5	27 名	18 名	18 名	+9 名
合 計	80 名	85 名	85 名	-5 名

**栄養部の取り組み**

**栄養管理係・総合給食係**

栄養管理係では、新たな加算取得に向けて栄養ケアマネジメントの様式を変更した。

総合給食係では、在宅・施設の栄養ソフトを統一し、献立作成・発注業務の統合に向けて検討し、試行した。行事食・郷土料理などの企画・提供をした。

ホームでは摂食嚥下調整食やとろみの勉強会を行ない、提供する食形態を摂食嚥下学会分類 2013 に合わせた。それにより、桜町病院から退院される際の食形態の連携がスムーズに行なえるようになった。又、桜町病院の大井医師による在宅食支援勉強会を毎月開催し、在宅・ホームの困難事例の対応を食形態やとろみだけでなく、食支援に必要な多方面からのアプローチの仕方を学びつつ、実践した。在宅では地域のご利用者様の低栄養改善のため、摂食嚥下困難者の配食を行ない、入院せずに施設入所まで繋げた。今後も継続して地域の低栄養予防に取り組んでいく。

また栄養部では、下記の外部会議や研究会、研修会に参加し地域及び行政のニーズに応えた。

- ・北多摩南部地域保健医療協議会
- ・北多摩南部圏域栄養・食生活ネットワーク会議
- ・東京都栄養改善普及事業運営会議
- ・多摩府中給食施設協議会（総会・優良従業員表彰・府中市立学校給食センター見学会・非常時防災メニュー勉強会・栄養展・摂食嚥下学会分類 2013 勉強会・がんの病態と栄養療法の勉強会開催）
- ・小金井市地域包括ケアシステム研究会：介護予防部会
- ・東京都社会福祉協議会北南ブロック栄養士情報交換会
- ・メディカルフーズ展セミナー「施設および在宅でのユニバーサルデザインフード活用例」



## 【施設整備状況】

- ・建設後 32 年を超えてライフライン関連で、高額な設備機械の更新や修繕費対応が近年続いている。特にナースコールは、2017 年度よりの不具合が単発的に発生し、人手の少ない夜間帯でも不具合の報告がされるようになったので、前年度より検討に入り、ナースコールの全館更新を行った。費用は、約 780 万円と高額であったので減価償却積立金を取り崩し対応した。
- ・記録的な猛暑日が続く夏前や夏場に、パッケージエアコン更新や全館冷房チラー室においても個別エアコン更新や増設により、225 万円を支出している。
- ・介護用ベットは、老朽化し不具合が心配なベットを中心に年間複数台を更新しているが、今期は、本部から協力を得て助成を受けて整備した。  
自前で購入したものも含めて、全部で 10 台 290 万円支出した。
- ・修繕費については、ボイラー温水・冷房チラー・配水管等の日常点検を強化し、漏水など故障箇所の早期発見を努めている。また、職員にも不具合箇所の早期報告に協力してもらっている。しかしながら今期の修繕費総額約 558 万円で前期より大きく増加している。(2017 年度 375 万円・2016 年度 300 万円・2015 年度 236 万円・2014 年度 593 万円・2013 年度 423 万円) 修繕費においても支出削減の財務改善を図ってきたが老朽化による修繕費増加の固定化が見られる。
- ・特に今期は、防災用非常電源部品交換に 92 万円、エレベータ部品交換 71 万円が大きい。
- ・老朽化によるボイラー関係修理や温冷水配管の漏水と結露など漏水補修工事を実施した。
- ・予算時に計画的に優先順位をつけて予算化しているが、予期せぬ修理・更新も多くなってきており、対応に追われる状況にある。

### 1. 主な固定資産取得（器具及び備品・車輛運搬具）

● 5/31	エアコン 2 台（司電機）	322,920 円
● 6/30	介護用電動ベット 3 台（家族会より寄付）	897,480 円
● 6/30	介護用電動ベット 2 台（日本エンゼル）	506,000 円
● 6/30	エアコン 1 台（司電機）	748,160 円
● 7/31	エアコン 2 台（司電機）	341,960 円
● 8/31	介護用電動ベッド 5 台（日本エンゼル）	1,485,000 円
● 8/31	エアコン 3 台（司電機）	507,600 円
● 9/30	清拭車 1 台（ムトウ）	237,600 円
● 9/30	ナースコール装置全館更新・改修（神田通信機）	7,776,000 円
● 11/30	エアコン 1 台（司電機）	187,920 円
● 1/31	プレス機 1 台（昭好）	170,640 円
● 2/28	エアコン 1 台（司電機）	138,240 円

## 2. 主な修繕費支出

● 4/27	非常電源設備部品交換整備（日本テクノエンジン）	972,000 円
● 4/30	非常灯器具交換工事（司電機）	117,655 円
● 6/30	ロベリア修理代、コントローラー、ホース（酒井医療）	100,756 円
● 6/30	ボイラー室 給湯2次ポンプ修理（昭和工業）	194,400 円
● 6/30	消防検査指摘箇所修繕（セコム）	502,200 円
● 7/31	エレベーター部品交換（セコム）	707,400 円
● 9/30	温水ヒーター循環ポンプ修理（前田鉄工所）	235,440 円
● 11/19	空調冷温水拌観結露処理・天井復旧作業（鈴木工務店）	187,920 円
● 12/31	ボイラー室給湯1次ポンプ修理（昭和工業）	237,600 円
● 2/28	アカシア8 エアコン配管修理（司電機）	162,000 円
● 2/28	機械浴ストレッチャー修理（酒井医療）	137,850 円
● 3/31	洗濯機・脱水機修理（アサヒ製作所）	115,344 円
● 3/31	電話交換機バッテリー交換（神田通信機）	91,800 円
● 3/31	ロベリア修理（酒井医療）	93,042 円

## 3. リース資産 計上分（今年度はなし）

## 4. 労災状況等

- 2018年8月 栄養部調理職員が、トロミパン粥の鍋を落し火傷を負う。
- 2018年9月 介護職員が、移乗介助中腰や背中に激痛が走り負傷。
- 2018年11月 栄養部栄養士が通勤途中で転倒し裂傷と打撲を負う。
- 2019年2月 介護職員が、離床介助中左ひじを捻ってしまう。

## 2018年度研修参加一覧表

NO	研修名	主催	場所	研修日程	参加者
1	新任研修	法人本部・各施設	戸塚ホール、ホーム3F他	4/3,4,5	5名
2	報告・指示の仕方・受け方研修会	お茶の水ケアサービス学院	お茶の水ケアサービス学院	4/4	1名
3	ターミナルケア基礎研修	お茶の水ケアサービス学院	お茶の水ケアサービス学院	4/9	1名
4	介護リーダーに必要な業務改善のための4つの力	お茶の水ケアサービス学院	お茶の水ケアサービス学院	4/19	2名
5	第1回認知症介護基礎研修プログラム	東社協	東京都社会福祉保健医療研修センター	4/25,26	2名
6	”拘縮が強い”利用者の進行させない！拘縮予防と有効なポジションニング	全国高齢者施設看護師会	戸山サンライズ	5/12	2名
7	摂食 および 嚥下に関する基礎研修	お茶の水ケアサービス学院	お茶の水ケアサービス学院	5/14	1名
8	食機能をダメにするケア、引き出すアプローチ”実技”セミナー	全国高齢者施設看護師会	タイム24	5/26	1名
9	管理監督者・職場リーダーのためのラインケアセミナー	中央労働災害防止協会	安全衛生総合会館5階	6/18	1名
10	介護リーダー養成研修	お茶の水ケアサービス学院	お茶の水ケアサービス学院	5/21	1名
11	主任の役割に直結する看護管理とリーダーシップのイロハ	(株)日総研出版	日総研研修室 廣瀬御茶ノ水ビル	5/13	2名
12	介護報酬改定状況に診る機能訓練指導員の役割	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター	5/24	1名
13	健康づくり調理師研修会	多摩府中保健所	多摩府中保健所	5/31、6/14	1名
14	平成30年度就職フェア	学校法人読売理工学院	読売理工学院	6/4	2名
15	ヒヤリ・ハットの報告及び事故分析の基礎研修	お茶の水ケアサービス学院	お茶の水ケアサービス学院	6/18	1名
16	拘縮・褥瘡・嚥下に影響するベッド上の姿勢ケア	関西看護ケア研究会	大田区産業プラザpio	6/24	1名
17	東京都認知症介護実践者研修	東京都社会福祉協議会	ベルサール飯田橋、東京日本橋	6/7～7/10	1名
18	職場でへこたれないメンタルトレーニング	お茶の水ケアサービス学院	お茶の水ケアサービス学院	7/11	1名
19	「利益を生み出す」相談員の稼働率管理	(株)日総研出版	日総研研修室 廣瀬御茶ノ水ビル	7/16	1名
20	キャリアパス対応生涯研修課程 初任者研修	東京都社会福祉協議会	日本社会事業大学文京キャンパス	7/19,20	1名
21	平成30年度栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	多摩府中保健所	5/15、5/31、6/29、7/11、9/5、9/19	6名
22	小金井事業者連絡会 施設系グループ	つきみの園	つきみの園	7/20	2名
23	これからの特別養護老人ホームのスタンダードを考える	(株)ゆう建築設計	AP東京 八重洲口通り0ルーム	7/28	1名
24	介護職の接遇マナー	法人本部・各施設	本館戸塚ホール会議室	7/31	4名
25	ファンリテーター養成講座	日本経営	天王洲郵船ビル22F	8/4	1名
26	看護管理の基本 はじめての管理 問題解決	東京都ナースプラザ	東京都ナースプラザ	8/14・15	1名
27	病院ではない 施設看護師の専門性と具体的な動き方	全国高齢者施設看護師会	戸山サンライズ	8/20	1名
28	「高齢者虐待防止研修」	東京都福祉保健財団	ルネこだいら	8/22	1名
29	高齢者の食支援に関する研修会	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター	8/22	2名
30	認知症の方とのコミュニケーション(ユマニチュード)	桜町病院	桜町病院1F会議室	8/22	各係より数名
31	考課者トレーナー養成講座	日本経営	天王洲郵船ビル22F	8/28	1名
32	管理者・リーダーのための問題解決力養成講座	日本経営	天王洲郵船ビル22F	8/30	1名
33	第2回介護福祉士実習指導者講習会	東京都介護福祉士会	ティアラこうとう 大会議室	8/19・20・25・26	1名
34	法人合同研修①「リーダー職のためのコミュニケーションの考え方」	ヨハネ会	本館戸塚ホール	9/10	2名
35	法人合同研修「気づかない虐待など高齢者・障害者への現場リスク」	ヨハネ会	本館戸塚ホール	9/25	2名
36	事務長・管理者のための労務管理力養成講座	日本経営	天王洲郵船ビル22F	9/21	1名

## 2018年度研修参加一覧表

NO	研修名	主催	場所	研修日程	参加者
37	施設内虐待予防研修	AAA(スリーエー)	首都大学東京南大沢キャンパス	9/22	1名
38	初めて学ぶ役職者講座	日本経営	天王洲郵船ビル22F	9/26	2名
39	第13回アクティブ福祉in東京 18	東京都社会福祉協議会	京王プラザホテル	9/28	1名
40	助成金セミナー	介護労働安定センター東京支部	中野サンプラザ	10/12	1名
41	感染症対策指導者養成研修	東京都	都庁第一庁舎5階大会議場	10/16	1名
42	ファシリテーター育成4日間講座	東京都社会福祉協議会	飯田橋セントラルプラザ	10/16・11/7・12/20・2/14	1名
43	法人合同研修「持ち上げない介護」	ヨハネ会	本館戸塚ホール	10/16	1名
44	平成30年度介護サービス事業者支援研修会	東京都国民健康保険団体連合会	ルネこだいら	10/16	1名
45	2018明日から役立つ安全衛生管理実践講座	中央労働災害防止協会	日本ボイラ協会	10/22	1名
46	東京都認知症介護基礎研修	東京都社会福祉協議会	立川グランドホテル	10/26	2名
47	社会福祉事業従事者人権研修Ⅱ	東京都福祉保健局	東京都社会福祉保健医療研修センター	10/29	1名
48	ニチワ医療福祉「生産性向上&HACCP義務化」ソリューションセミナー	ニチワ電機(株)コンサルティング部	ニチワ電機(株)東京本社	11/2	1名
49	在宅・高齢者ケア施設の看護管理交流会	東京都看護協会	東京都看護協会会館 2階大教室	11/11	1名
50	メンタルヘルス推進担当者のためのストレスチェック活用セミナー	中央労働災害防止協会	安全衛生総合会館5階	11/13	1名
51	介護福祉士科事例研究報告会	上智社会福祉専門学校	上智大学四谷キャンパス6階	11/17	1名
52	ショートステイ情報交換会	東京都社会福祉協議会	研究社英語センター地下2階大会議室	11/20	1名
53	排せつ支援加算の実践	コンチネンスジャパン(株)	中野サンプラザ	11/20	1名
54	平成30年度栄養管理講習会「給食施設での個別対応～やわらか食の調理の工夫と多職種連携」	東京都多摩府中保健所	保健所 講堂	11/28	3名
55	「人が集まり、元気に働く、施設の工夫とキャリアパス研修会」	東京都社会福祉協議会	飯田橋レインボービル2階	11/28	1名
56	介護報酬請求事務に関する研修会	東京都高齢者福祉施設協議会	飯田橋レインボービル7階	11/30	1名
57	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 特養分科会	東京都社会福祉協議会	TKP市ヶ谷カンファレンスセンター	12/7	1名
58	介護施設における虐待を考える	株式会社 雲母書房	全水道会館	12/8	1名
59	法人合同研修「介護職が行う医療行為ではない行為」	ヨハネ会	本館戸塚ホール	12/10	2名
60	2018年度ストレスチェック結果の見方説明会	中央労働災害防止協会	安全衛生総合会館5階	12/21	1名
61	法人合同研修「笑顔のあふれる職場づくり」	ヨハネ会	本館戸塚ホール	1/17	2名
62	高齢者虐待防止研修	公益財団法人 東京都福祉保健財団	なかのゼロ 大ホール	1/22	1名
63	“看取り期”の食事を支えるアプローチ “お食い締め”	全国高齢者施設看護師会	林野会館	2/4	2名
64	「福祉サービス提供における契約書の理解とリスクマネジメントの作法」	東社協	東京都社会福祉保健医療研修センター	2/8	1名
65	法人合同研修「福祉現場におけるサービスマインド向上」	ヨハネ会	本館戸塚ホール	2/14	2名
66	「暮らしの場における看取り支援事業 実践編研修	東京都	TKP新宿カンファレンスセンター	2/20	3名
67	結核と院内感染	桜町病院	病院会議室	3/11	4名
68	東京都社会福祉協議会 北南ブロック会	東社協	府中市、あさひ苑	3/14	1名
69	生活相談員が施設の「人財」であるために！	東社協	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル	3/15	1名
70	ファシリテーターのたまご	東京都高齢者福祉施設協議会	飯田橋セントラルプラザ12F	3/18	1名
71	「次世代介護機器の活用支援事業説明会」	東京都福祉保健財団	東京都社会福祉保健医療研修センター	3/20	2名
72	事例から学ぶ職場のメンタルヘルスセミナー	中央労働災害防止協会	安全衛生総合会館5階	3/22	1名

## II 桜町高齢者在宅サービスセンター

通所介護・訪問介護・訪問入浴介護・居宅介護支援・小金井市委託事業  
 栄養事業（給食・さくら配食）  
 小金井きた地域包括支援センター（小金井市委託事業・介護予防支援）

### 【2018年度利用状況報告】

種別	種別	定員	年間 延定員	延べ利用 者数	1日平均 利用者	利用率 (2018年)	利用率 (2017年)	利用率 (2016年)
介護保険事業	通所介護(一般・総合事業)	30名	9,650	9,351	30.5	96.9%	101.4%	94.9%
	通所介護(認知)	24名	7,320	5,055	16.6	69.1%	71.7%	69.4%
	訪問介護	100/週	5,547	5,465	17.8	98.5%	98.8%	90.0%
	訪問入浴	5/日	1,285	1,079	4.5	84.1%	89.3%	90.1%
	居宅介護支援	155/月	1,860	1,932	161/月	103.9%	103.9%	101.9%
	予防・総合事業 プラン	300/月	3,600	3,421	285/月			
栄養事業	給食	40食	12,200	12,135	39.9	99.5%	107.2%	103.6%
	配食サービス	68食	19,924	20,273	68.7	101.8%	104.6%	100.2%
市委託事業	やすらぎ支援	年間延派遣回数	127回	実利用者数	6名	支援員登録数	10名	

#### ● 利用者の動向

通所介護・認知症通所介護の要介護度の状況

##### ① 通所介護（一般・予防・総合事業）

2018年度	事業対象	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	136	923	1,055	3,048	2,194	925	1,078	0	9,359
割合	1.5%	9.9%	11.3%	32.6%	23.4%	9.9%	11.5%	0.0%	100.0%
2017年度	事業対象	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	136	886	855	2,876	2,176	1,373	974	18	9,294
割合	1.5%	9.5%	9.2%	30.9%	23.4%	14.8%	10.5%	0.2%	100.0%

##### ② 認知症対応型通所介護

2018年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	0	0	926	1,015	1,477	1,103	521	5,042
割合	0.0%	0.0%	18.4%	20.1%	29.3%	21.9%	10.3%	100.0%
2017年度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延人数	0	0	838	1,189	1,226	1,236	773	5,262
割合	0.0%	0.0%	15.9%	22.6%	23.3%	23.5%	14.7%	100.0%

## 【職 員】

	2018年4月1日 の職員数			年間退任・就任						2019年4月1日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	就任	退任	就任	退任	就任	退任	正職員	非常勤職員	合計
センター長	1名		1名					0	0	1名		1名
事務長	0名		0名					0	0			0名
介護員	3名	10名	13名		1	2	3	2	4	2名	9名	11名
相談員	10名	1名	11名	2	2	1	1	3	3	10名	1名	11名
看護師	1名	7名	8名			1	2	1	2	1名	6名	7名
介護支援専門員	4名	1名	5名					0	0	4名	1名	5名
訪問介護員		10名	10名					0	0		10名	10名
運転員		5名	5名					0	0		5名	5名
栄養士	2名	1名	3名					0	0	2名	1名	3名
調理・補助・宅配		4名	4名			2	1	2	1		5名	5名
理学・作業療法士		1名	1名					0	0		1名	1名
事務員		3名	3名					0	0		3名	3名
高齢住宅管理人		7名	7名				1	0	1		6名	6名
清掃員他(洗浄員)		2名	2名			1	1	1	1		2名	2名
合計	21名	52名	73名	2	3	7	9	9	12	20名	50名	70名

## 【施設運営状況】

### (1) 財務に関する取り組み

2018年度も財務の安定を目標に事業運営に取り組んだ。通所介護では引き続き年間12日間の祝日営業や重介護者の積極的受け入れを行い、通所介護以外の事業も常に利用率を考えて事業運営に取り組んできたが、2018年度桜町高齢者在宅サービスセンター事業全体の事業収支会計は1,073万円の赤字（昨年度決算時に国庫補助金等特別積立金取崩額の計上に誤りがあり、実質は435万の赤字）、資金収支会計でも95万円の赤字を計上する結果となった。

原因は下記と考えている。

- ①2018年4月の介護保険改正にともない、通所介護事業のサービス提供時間が1時間毎になり、サービス提供時間を利用するご利用者様が多くなった。
- ②予防通所介護の総合事業への完全移行。
- ③訪問入浴介護の利用率低迷

今後の財務安定のために、通所介護事業の利用率目標を93.3%から100%に変更し収入を増やすこと、入浴ニーズのある方を必ず受け入れることにより認知症対応型通所介護の利用率を安定させることを主な対策としてすでに取り組んでいる。また、入退院や永眠されることが多くご利用者様の入れ替わりの激しい訪問入浴事業については、「顔の見える関係づくり」を居宅介護支援事業所と継続的に行ってきた効果から、新規利用者の依頼が多くなっている状況がみられており、今後の利用率回復が期待できる。

支出削減にも取り組んできたところだが、桜町高齢者センター全体の人件費率が81%と依然高い状況である。主事業である通所介護は73.8%だが、他の事業の人件費率が平均88.2%とか

なり高くなっている。居宅介護支援や訪問介護の支出は、ほぼ人件費であり人件費率が高くなることは仕方がないところではあるが、今後計画的に人件費率の改善を行っていく必要がある。

## (2) 組織力向上への取り組み

高齢福祉部門の組織力向上について、経営会議・部長会議・運営会議・職員会議を中心に取り組んできたが、まだまだ課題は多く、係長とのコミュニケーションを活性化していく中で様々な問題に対して話し合える関係づくりが必要であると考えている。

- 1) 部長会議で事務管理係長、包括支援係長・メンバーとの面談・話し合いを定期的に行ない、問題共有・課題解決に対する話し合いを行った。
- 2) 部長による職員面談を実施した。
- 3) 部門として、サイボウズ・インカム、ロボットスーツの導入検討を行った。
- 4) 運営会議、職員会議において組織力の向上について問題提示を行った。
- 5) 法人合同「コラボヨハネ」が発足し、高齢・医療部門合同案内リーフレットを作成した。  
(法人内連携)
- 6) 法人内に若手職員による「魅力発信チーム」が発足した。(法人内連携)
- 7) 法人合同研修に参加した。(法人内連携)
- 8) 障がい部門（東京）と食器洗浄委託の契約更新を行った。(法人内連携)

## (3) 人財育成への取り組み

### 1) テキックス（ナラティブサイト）

人財育成・人材確保・人財育成を目的に、職員の思いや考えを物語風に伝え、職員がそれを共感・共有しながら職場の風土や環境を良いものにしていくという手法の「ナラティブサイト」を活用を高齢福祉部門として促進し、インターネットへのアップ、ストーリー（冊子）の作成を行った。

### 2) 第三者サービス評価会議

11月には有識者の諸先生方にご出席していただき、第2回高齢福祉部門第三者サービス評価会議を開催し、専門的かつ現実的なご意見をいただいた。

また、サービス・業務向上委員会に年4回、第三者委員として武蔵野大学の渡邊先生にご出席いただいた。

### 3) サブスタッフ養成における人財育成効果

受託事業の「サブスタッフ養成」事業を通して、受講生に対し職員が主体となり講義・OJTを実施することで、知識や技術の再確認をするプロセスによって人財育成の効果がみられた。

### 4) フィットニングサポートの継続的实施

### 5) 地域との共生（地域包括的ケアの観点から）

- ①第2厨房の地域活動への無料開放。
- ②グリーンタウン小金井喫茶への地域住民のお誘い。
- ③認知デイ「家族懇談会」、地域密着運営推進会議（年2回）の実施。
- ④小金井特別支援学校との地域交流。（9月）
- ⑤やすらぎ支援ボランティアの増員と育成研修。
- ⑥「サブスタッフ養成事業」の受託実施。（10月～2月）
- ⑦「サブスタッフ」の総合事業通所型サービスでの活用、フォローアップ研修の実施。

## 6) 実習生受け入れ

- ①介護支援専門員実地研修生の受け入れ。(8月、2月)
- ②中学校教員実習生の受け入れ。(8月)
- ③ルーテル学院ソーシャルワーク実習生の受け入れ。(9月)

## 7) 各種研修への参加

- ・10月11日～12日「カトリック老協全国大会(福岡)」参加した。(鈴木・星野)
- ・他、研修参加一覧表参照。

## (4) サービスへの取り組み

※【利用者支援状況で取り上げ】

## (5) 高齢福祉部門事業再編(建替え、桜SC土地問題)の動きについて

### 1) 桜町センター土地問題について

法人本部と小金井市間で協議を重ね、2019年1月30日～2049年1月29日までの「事業用定期借地権設定契約」を小金井市と締結した。(借地料：年額233万3500円)

### 2) 事業再編(通所介護から通所リハへ)・建替えに向けて

- ①事業再編・建替えに向けて、法人本部との協議、法人経営会議での説明を行った。
- ②通所リハ開設に向けた相談のため、東京都福祉保健財団、府中多摩保健所を訪問した。
- ③仙台市にある社会福祉法人「暁星園」特別養護老人ホームの施設見学を実施した。

## 【利用者支援状況】

### (1) リスクマネジメント

#### 1) 介護事故

11/10 通所介護ご利用者様が、トイレ内で転倒し右大腿骨転子部を骨折する事故があり、その後入院・手術を施行し、退院時には施設入所されるという経過に至った。排泄行為は自立されており、ご自分でトイレに行った際の事故ではあったが、見守りの意識をきちんと持っていれば防げた事故であった。

小金井市へ事故の状況・経過報告を行った。

#### 2) ヒヤリハット

通所介護係では、2018年度も年間を通してヒヤリハット事例を報告し、ミーティング内で事例の共有・改善策を話し合ってきた。2018年度に事例として挙げられたヒヤリハットの分類と件数は下記の通りである。

- ・送迎(30件)    ・入浴(3件)    ・転倒・移動(28件)    ・服薬(7件)
- ・食事(11件)    ・物品返却忘れ(5件)    ・他(26件)

事例の共有・改善対応実施の結果、事故や苦情を未然に防いでいると考えられ、職員の責任感や緊張感をもった対応にもつながっている。

#### 3) 苦情

サービス業務向上委員会の中で苦情や事故、要望事例を取り上げ、様々な角度から意見や評価をいただく中で、内容を振り返り、問題点を考え、改善対応を考える有意義な場であり、貴重なOJTの場であった。また、年4回第三者委員の渡邊先生に出席いただき、第三者の立場からの確かな意見をいただいた。

<2018年度苦情として報告書の挙げられた事例>

- ①訪問入浴職員の対応が悪いので、職員を交代して欲しい。(訪問入浴事業)
- ②ケアマネに怒鳴られた。ケアマネを変更して欲しい。(居宅介護支援)

いずれも事業所としての説明不足から、ご家族様が誤解を抱いてしまったことによる苦情であった。



#### 4) 感染症対策

2018年度も高齢福祉部門合同での感染症座学研修を6月に食中毒に関すること、9月にインフルエンザ・ノロウイルスに関することテーマに開催した。在宅サービス部(桜町)としては、12月にインフルエンザ発生時の実技演習研修を行った。

また、各係においても、ミーティング内等で感染症発生時の対応に関する内部研修を行い、10月～3月においては手洗いの徹底、マスクの着用、加湿器の設置、換気、体調の管理(毎朝の体温チェック)等を行い感染症を未然に防ぐ対策を行った。

2月下旬から3月上旬にかけて、認知症対応型通所介護のご利用者様3名、職員2名からインフルエンザA型の感染があったが、それ以上の拡大はなく終息した。

#### (2) サービスへの取り組み

##### 施設重点取組事項

##### 1) 通所介護・受託事業係

###### ① 予防・一般型通所介護、総合事業通所型サービス

困難ケースご利用者様であっても、介護支援専門員・ご家族様とその方にとってより良い受け入れの方法を提案し、安心してご利用していただけることが出来た。職員もその様な方を受け入れて支援していく事を当然の事として考えており、ミーティングでの情報・課題共有や係長との個別面談、日々のコミュニケーションから着実に人財が成長していることを実感している。

2018年度もイベントボランティアの積極的な受け入れを行い、月2回位のペースで来所いただいた。また、ご利用者様の声を反映し、総合事業では調理訓練・外出訓練を年6回実施した。その様な取り組みを通してご利用者様の反応は良好で満足度向上につながっていると考えている。

2018年度年間利用率は96.9%で93.3%の目標は達成できたが、収入面では収入目標を大きく下回った。介護保険改定によりサービス提供時間区分が1時間刻みになり短時間利用の方が増加したこと、予防通所介護の総合事業への完全移行が原因と考える。今後に向けては、利用率目標の上方修正、総合事業通所型サービスの定員増の対応を取ることで収入を確保していきたいと考えている。

###### ② 認知症対応型通所介護

2018年度利用率は69.1%で目標75%を大きく下回った。ただし年間の新規利用者者数は21名と昨年度の4名から大幅に増加し、営業の効果や入浴希望者を必ず受け入れる対応の効果が見え始めており、2019年1月以降は利用率を75%近くまで伸ばしている。

認知症対応型通所介護として、一般型通所介護とは違うアピールポイントの構築は以前からのテーマとなっているが、なかなか着手出来なかった。今後利用率を安定させていくためにもこの課題克服は急務である。

また、相談員の相談援助に対するスキルアップや通所介護の生活相談員としての役割理解などの課題も明確になっており、今後事例勉強会等を通じて課題を克服していきたい。

###### ③ 地域支援事業 (小金井市受託事業)

###### <やすらぎ支援事業>

2018年度末現在10名のやすらぎ支援員が登録しており、うち6名が活動中である。ご利用者様は6名が事業利用されており、訪問開始から今年で5年目を迎えるご利用者

様もみえる。年間 2 回の支援員懇談会を開催し、支援員間の交流や傾聴の様子、ご利用者のケースを皆で共有しながら次の傾聴活動に活かしていただく機会になった。

現在の予算内では、ご利用者様数・登録やすらぎ支援員数ともに拡大していく事は難しいが、介護支援専門員や包括からの依頼があれば、出来る限り調整してご利用者様の支援を行いたいと考えている。

また、認知症サポーター養成講座の事務局機能も委託されており、適切なオレンジリング・テキストの在庫管理に努めたいと考えている。

#### <家族介護教室>

2019 年 3 月 28 日に桜町病院認知症医療疾患センターのケースワーカーを講師に「認知症って何だろう？基礎知識と予防について」というテーマで家族介護教室を開催した。6 名の地域住民が熱心に参加され、簡単な認知症予防体操や認知症医療疾患センターの紹介も行い、大変勉強になったとの声が多く聞かれたが、毎年定員割れ（定員 15 名）となっており参加者募集の工夫やテーマの設定が課題である。

#### <サブスタッフ養成・活動事業>

10 月から 2 月にかけて、市内近隣に居住の 65 歳以上のお元気高齢者を対象に、介護予防に関する 16 回の講義と 16 回の O J T からなる「サブスタッフ養成事業」を実施。2 名の方が卒業され、サブスタッフとして、今後総合事業通所型サービスや地域資源の場での活躍が期待される。

この受託事業は 2018 年度で 3 回目であったが、地域福祉を支える人材を育成していくという大きな目的を達成出来ている他、職員が受講生に直接講義や O J T を行うということから、職員の人財育成という点でも大きな効果がみられている。

また、今までに養成講座を卒業された計 9 名の方が、桜町センター総合事業通所型サービスの「サブスタッフ」として、ご利用者様の支援、職員の手助けに役立つ活動を行っている。

#### ④ グリーントウン高齢者住宅管理（小金井市受託事業）

現在 70 世帯 84 名の入居者を対象に管理人 7 名で、月曜～土曜の日中帯に巡回や安否確認の管理業務を行っている。

管理人とご入居者様との信頼関係は良好で、居宅介護支援事業所や介護保険事業者など、関係機関とも報告・連絡・相談を行うことで、安心した生活づくりに貢献できていると感じる。また、月 1 回グリーントウン喫茶を実施し、管理外の地域に住まわれている高齢者も参加され、地域交流や地域資源の場となっている。

### 2) 訪問サービス係

#### ① 訪問介護

新規依頼に対しては原則断らない、様々な派遣ニーズに対しても出来る限り対応することを方針として取り組んだ結果、利用率目標・収入目標共に達成することができた。その様な対応の中で、ご利用者様・ご家族様、居宅介護支援事業所からも高い信頼を得ていると実感している。

従来から行っている月 1 回のヘルパー検討会では、情報交換や情報共有を行う中でご利用者様の小さな変化に気づき、ニーズに応じたサービスに繋げていくように努めた。また、高いレベルのサービス提供を目指すため、技術向上や法令順守の勉強会を定期的に開催した。

新たな人財の確保が難しく、その分サービス提供責任者の負担が大きくなっていること、祝日対応時のホームヘルパー確保の難しさが課題となっている。

## ② 訪問入浴介護

2018年度は、祝日営業や新たに利用パンフレットを作成して居宅介護支援事業所への定期的なあいさつなどの取組みを行い、数値目標の達成を目指したが、入院や終結の多さや新規利用者の継続利用に至らないケースの多さにより年間目標件数を達成することができなかった。介護度5の方や終末期の方が対象となっているため、継続的な利用は難しく、いかに新規利用者を確保していけるかが課題であるが、日頃の営業活動の成果から居宅介護支援事業所との顔の見える関係づくりが出来はじめ、新規依頼件数も多くなってきている。

サービス自体は、どのような状態の方であっても必ず受け入れ、医療関係者との連絡を密に行うことで、ご利用者様やご家族様の意向に沿った安心・安全なサービス提供が出来ている。

定期ミーティングでは、終末期や医療分野に関する知識向上のための内部研修を行い、ニーズに応じたケア方法は、日々の業務の中で検討し共有することでケアの質・チーム力の向上をはかっている。

## 3) 栄養部 (総合給食係)

部内で立てた年間の目標については、概ね進める事ができた。しかし、具体策に挙げたアンケート等の実施は出来ておらず、2019度に持ち越している。また、適温提供等の意識はまだまだ低いため全体で共有する事を徹底したい。昨年度導入した栄養ソフトはしっかりと稼働しており、今後は内容を充実させていく。施設では介護職や医務にトロミの勉強会を実施できたが、在宅では2019年度に実施予定である。

在宅の利用者に対して管理栄養士が食事状況を確認しアセスメントが行えた。今後は在宅での栄養アセスメントを業務として取り入れていきたい。また、大井 Dr と施設・在宅のご利用者様の事例を取り上げ、摂食嚥下の勉強会を行っており、そこで学んだ知識を現場業務に反映させたい。

建て替えに向けた、栄養部の事業再編を考えてきたが明確なビジョンが立てられずに壁にぶつかっている。すぐにできるものは単年の事業計画に掲げるとし、中長期的なビジョンの構築に向けて様々な研修の機会を作り、部内で意識を高められるように準備していきたい。

### <今年度実施したもの>

- 適温提供 (お皿の保温、適正時間の調理・提供)
- 嚥下調整食の配食および通所での提供
- 栄養ソフトの活用 (献立の統一、発注業務の効率化)
- Dr との摂食嚥下の勉強会実施
- 圧力鍋の導入
- とろみ形態の統一
- 在宅の利用者に対する栄養ケア
- 衛生管理書類の定着化

<十分に実施出来ていないもの>

- 満足度アンケート
- 部内MTGの内容の見直し
- 職員の役割分担のさらなる明確化
- とろみの勉強会（在宅で未実施）
- 食材の見直し
- 厨房業務のマニュアル化

4) 居宅介護支援係

① 組織の一員としてのケアマネジャーとしての質の向上について

- ・研修や伝達研修は日常業務として行い、学びも多かった。
- ・3月には初めて、他の居宅介護支援事業所と共同で検討会を実施した。
- ・法人内サービスについてのご利用者様からの苦情を各事業所の担当者に伝える事はあっても、サービス改善につながっているという実感を持ちにくい。法人内連携の難しさを感じる。

② 医療と介護の連携と協働について

- ・困難ケースや医療ニーズの高いケースの受け入れは行えた。
- ・入退院に伴う連携・支援・カンファレンスへの出席は積極的に行えた。
- ・医師会主催の研修会にも積極的に参加した。

③ 業務の標準化・効率化について

- ・業務手順書の改定は出来なかったが、他の書類については標準化・効率化を目指した見直しが出来た。手順書の不改定については、新入職員がいなかった事も要因である。

④ 数値目標について

- ・年間延べ1860件に対して1938件の実績を残し、財務安定に貢献したと考えている。

5) 地域包括支援係（小金井きた地域包括支援センター）

① 相談援助に関する質の向上について

日常生活におけるちょっとした困り事の相談から同居家族の問題・虐待対応・権利擁護・介護保険についての相談など多岐にわたり、内容によっては専門機関へつなぎ連携して支援するなど職員のスキルが求められることが多かった。そのための研修や勉強会に積極的に参加し自己研鑽を図った。所内への伝達研修にも力を入れたかったが、徹底できず今後の課題と感じている。介護に関する相談では、公的サービスの情報に留まらず、地域の社会資源も積極的に紹介した。主なものとして、高齢者向けのサークル活動、講座的なものなど相談者のニーズに合ったものを紹介した。

また、相談内容によって個々での対応が難しい場合は複数で対応したり、朝礼やミーティングで検討し、情報の共有「報・連・相」の徹底を図った。

② 地域包括ケアシステムの構築について

地域住民・民生委員・関係機関から問題となっている事柄を取り上げ、解決に向けて個別会議、小地域会議を開催している。しかし2018年度は個別会議自体1回の開催に留まった。2019年度はその点を改め、ちょっとした困り事を積極的に拾い上げていきたい。

生活支援コーディネーターを中心に地域も特性（強み）、課題の掘り起しを積極的に行った結果、民生委員・事業所・住民からなる「ないまぜの会」が立ち上がり、そのネッ

トワークづくりに関わった。

認知症に対する取組みとしては、「認知症になっても安心して住み続けられるまちづくり」を目指し、認知症地域支援推進員を中心に認知症サポーター養成講座を地域の方々向け、企業向け、市職員向けに実施している。また、認知症が疑われるが医療につながらない方に対しては、初期集中支援事業を利用して医療につなげたり、かかりつけ医はいても専門受診につながらない方に対しては、もの忘れシートを利用して迅速な対応を心がけている。

ご当地体操である「さくら体操」の自主グループの立ち上げにも尽力し、2018年度は新たに3会場を立ち上げている。

### ③ 地域医療との組織的な連携の強化について

医療と介護の連携会議をはじめ、他の研修・会議に参加し「顔の見える関係づくりや多職種の連携に取り組んできた。また、「地域とつながる応援ブック」の配布により地域住民や他機関との情報共有・連携・つながりのきっかけとして有効に活用した。

認知症の疑いがある利用者の相談に対しては、桜町病院の相談員を通して適切に相談することができたと考えている。

### <2018年度事業実績件数>

① 総合相談・支援業務	2,841 件
② 虐待・権利擁護	14 件
③ 包括的・継続的ケアマネジメント	182 件
④ 予防給付介護予防ケアマネジメント	1,970 件
⑤ 総合事業ケアマネジメント	1,573 件
⑥ 地域介護予防活動支援事業	リハ連協働イベント 15 回 新規グループ立ち上げ 3 件
⑦ 認知症サポーター養成講座開催	14 回



平成30年度 部門別達成率

上段: 人(件)  
下段: 千円  
(標準執行率 100.00%)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
一般デイ	人数予算	28人	700	672	728	728	756	700	756	728	700	672	728	8,540	
	実績		753	757	836	829	879	762	822	789	757	704	720	9,362	
	差額		53	85	108	101	123	62	66	61	57	32	48	822	
	達成率		<b>1.08</b>	<b>1.13</b>	<b>1.15</b>	<b>1.14</b>	<b>1.16</b>	<b>1.09</b>	<b>1.09</b>	<b>1.08</b>	<b>1.08</b>	<b>1.05</b>	<b>1.07</b>	<b>1.04</b>	<b>1.10</b>
認知デイ	収入予算	8700	6,540	6,296	6,784	6,784	7,027	6,540	7,027	6,784	6,540	6,296	6,296	6,784	79,698
	実績		6,325	6,275	6,852	6,782	7,092	6,375	6,827	6,551	6,364	5,894	6,042	6,089	77,468
	差額		-215	-21	68	-2	65	-165	-200	-233	-176	-402	-254	-695	-2,230
	達成率		<b>0.97</b>	<b>1.00</b>	<b>1.01</b>	<b>1.00</b>	<b>1.01</b>	<b>0.97</b>	<b>0.97</b>	<b>0.97</b>	<b>0.97</b>	<b>0.94</b>	<b>0.96</b>	<b>0.90</b>	<b>0.97</b>
訪問入浴	人数予算	18人	450	432	468	468	486	450	486	468	450	432	432	468	5,490
	実績		368	378	452	446	448	413	411	418	405	428	419	462	5,048
	差額		-82	-54	-16	-22	-38	-37	-75	-50	-45	-4	-13	-6	-442
	達成率		<b>0.82</b>	<b>0.88</b>	<b>0.97</b>	<b>0.95</b>	<b>0.92</b>	<b>0.92</b>	<b>0.85</b>	<b>0.89</b>	<b>0.90</b>	<b>0.99</b>	<b>0.97</b>	<b>0.99</b>	<b>0.92</b>
訪問介護	収入予算	12000	5,400	5,184	5,616	5,616	5,832	5,400	5,832	5,616	5,400	5,184	5,184	5,616	65,880
	実績		4,967	5,258	5,450	6,428	5,827	5,316	5,306	5,421	5,138	5,519	5,428	5,677	65,735
	差額		-433	74	-166	812	-5	-84	-526	-195	-262	335	244	61	-145
	達成率		<b>0.92</b>	<b>1.01</b>	<b>0.97</b>	<b>1.14</b>	<b>1.00</b>	<b>0.98</b>	<b>0.91</b>	<b>0.97</b>	<b>0.95</b>	<b>1.06</b>	<b>1.05</b>	<b>1.01</b>	<b>1.00</b>
ケアマネ	件数予算	155件	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	155	1,860
	実績		165	162	162	163	158	162	162	167	164	160	159	154	1,932
	差額		10	7	7	8	3	1	7	12	9	5	4	-1	72
	達成率		<b>1.06</b>	<b>1.05</b>	<b>1.05</b>	<b>1.05</b>	<b>1.02</b>	<b>1.01</b>	<b>1.05</b>	<b>1.08</b>	<b>1.06</b>	<b>1.03</b>	<b>1.03</b>	<b>0.99</b>	<b>1.04</b>
ケアマネ(認定調査)	収入予算	4320	2,866	2,667	2,667	2,667	2,667	2,666	2,667	2,667	2,667	2,666	2,666	2,667	32,000
	実績		2,864	2,805	2,832	2,852	2,734	2,742	2,844	2,922	2,861	2,788	2,754	2,680	33,678
	差額		198	138	165	185	67	76	177	255	194	122	88	13	1,678
	達成率		<b>1.07</b>	<b>1.05</b>	<b>1.06</b>	<b>1.07</b>	<b>1.03</b>	<b>1.03</b>	<b>1.07</b>	<b>1.10</b>	<b>1.07</b>	<b>1.05</b>	<b>1.03</b>	<b>1.00</b>	<b>1.05</b>
きた包括	件数予算	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	3,600	
	実績		281	283	293	284	283	290	282	288	283	286	284	284	3,421
	差額		-19	-17	-7	-16	-17	-10	-18	-12	-17	-14	-16	-16	-179
	達成率		<b>0.94</b>	<b>0.94</b>	<b>0.98</b>	<b>0.95</b>	<b>0.94</b>	<b>0.97</b>	<b>0.94</b>	<b>0.96</b>	<b>0.94</b>	<b>0.95</b>	<b>0.95</b>	<b>0.95</b>	<b>0.95</b>
栄事(デイ食費)	収入予算	750	750	720	780	780	810	750	810	780	750	720	720	780	9,150
	実績		720	720	777	825	813	746	773	760	731	726	715	803	9,109
	差額		-30	0	-3	45	3	-4	-37	-20	-19	6	-5	23	-41
	達成率		<b>0.96</b>	<b>1.00</b>	<b>1.00</b>	<b>1.06</b>	<b>1.00</b>	<b>0.99</b>	<b>0.95</b>	<b>0.97</b>	<b>0.97</b>	<b>1.01</b>	<b>0.99</b>	<b>1.03</b>	<b>0.99</b>
栄事(自由配食)	収入予算	890	1,452	1,452	1,574	1,513	1,574	1,392	1,574	1,452	1,452	1,392	1,392	1,513	17,732
	実績		1,546	1,518	1,632	1,548	1,632	1,507	1,652	1,486	1,544	1,344	1,287	1,403	18,099
	差額		94	66	58	35	58	115	78	34	92	-48	-105	-110	367
	達成率		<b>1.06</b>	<b>1.05</b>	<b>1.04</b>	<b>1.02</b>	<b>1.04</b>	<b>1.08</b>	<b>1.05</b>	<b>1.02</b>	<b>1.06</b>	<b>0.97</b>	<b>0.92</b>	<b>0.93</b>	<b>1.02</b>
合計	収入予算	20,924	20,509	21,610	21,550	22,099	20,865	22,099	21,489	20,926	20,304	20,303	21,550	254,228	
実績		20,499	20,690	21,562	22,446	22,046	20,765	21,565	20,888	20,362	19,943	19,921	20,674	251,361	
差額		-425	181	-48	896	-53	-100	-534	-601	-564	-361	-382	-876	-2,867	
達成率		<b>0.98</b>	<b>1.01</b>	<b>1.00</b>	<b>1.04</b>	<b>1.00</b>	<b>0.98</b>	<b>0.97</b>	<b>0.97</b>	<b>0.97</b>	<b>0.98</b>	<b>0.98</b>	<b>0.96</b>	<b>0.99</b>	

## 【施設整備状況】

### (1) 概況説明

設置後 28 年が経過しており、ボイラー・ポンプ類など設備・備品に様々な面で修繕・メンテナンスの必要が出ている。また、車両の老朽化も目立っており部品交換や故障が多く、施設全体の現状を把握し必要箇所の優先度を決め計画的に整備を進めていく必要がある。

### (2) 主な固定資産購入 (固定資産以外も含む)

● 2018 年 9 月	3 階アコーディオンカーテン	133,920 円
● 2018 年 10 月	パソコン一式 (訪問介護)	135,108 円
● 2018 年 12 月	YAMAHA ルーターNVR510	219,780 円
● 2019 年 1 月	電動自転車 2 台	220,960 円

### (3) 主な修繕費

● 2018 年 5 月	介護保険改正対応費用	194,400 円
● 2018 年 7 月	汚水ポンプ交換修理	225,960 円
● 2018 年 7 月	循環ポンプ交換修理	162,000 円

## 【その他】

### (1) 労働災害発生状況

- 2018 年度は、労働災害の発生はなく未然に防ぐことができた。

### (2) 事業者指定更新

- 2018 年 7 月「指定居宅サービス事業者等の運営状況等確認検査 (書面検査)」を提出し、基準違反なしの判定。(通所介護、訪問介護、訪問入浴)
- 2019 年 1 月「認知症対応型通所介護」における西東京市 (地域密着型) への事業者新規指定申請を行ない認可される。(指定期間 2018 年 12 月 1 日～2024 年 11 月 30 日)  
※利用者の引越しによる特例指定認可。
- 「指定居宅サービス事業者指定更新管理者研修」に参加。

### (3) 通所介護 東京都実地検査

- 2018 年 7 月 17 日指定介護老人福祉施設 (ヨハネホーム) と共に、指定通所介護事業に対して東京都福祉保健局の実地検査を受けた。
- 個別機能訓練加算における職員配置に基準違反の指摘事項があり、改善報告書の提出および介護報酬返還を行った。(保険者分 : 103,956 円、利用者分 : 26,068 円)



2018年度 研修実施一覧表（期間 2018/4/1～2019/3/31）

（部署名 通所介護、訪問入浴、栄養、他センター全体）

日程	分類	研修内容	場所	参加者
4/13	その他	事業者連絡会(総会・通所グループ会)	萌木ホール	1名
5/22	介護	デイサービスの基本を学ぼう	立川商工会議所	1名
6/22	その他	事業者連絡会(通所グループ会)	小金井あみず苑	1名
6/26,29	感染症	食中毒について(高齢部門合同)	桜センター1階	全職員
7/2	地域栄養	在宅における栄養ケアのポイント	多摩府中保健所	1名
7/5	その他	特養ホーム「暁星園」見学	仙台市	2名
7/11	安全衛生	腰痛予防対策研修会	TKP田町	1名
7/31	接遇	介護職の接遇マナー(法人合同)	戸塚ホール	5名
8/21	地域支援	サブスタッフ養成勉強会	小金井市役所	1名
8/23	介護	紙おむつの効果的な使い方	ヨハネホーム	1名
8/28	人材育成	人間成長の道しるべ(法人合同)	戸塚ホール	6名
9/10	組織	リーダー職のためのコミュニケーション(法人合同)	戸塚ホール	4名
9/19,27,28	感染症	感染症座学研修(高齢部門合同)	桜センター1階	全職員
9/20	介護	訪問入浴研修・意見交換会	新宿区	2名
9/25	虐待	気づかない虐待など高齢者・障がい者への現場リスク(法人合同)	戸塚ホール	8名
10/11,12	総合	日本カトリック老人施設協会全国大会	福岡市	2名
10/11	福祉機器	福祉機器展	東京ビックサイト	1名
10/16	介護	持ち上げない介護(法人合同)	桜センター1階	13名
10/22	安全衛生	働く人の腰痛・肩こりの解消とメンタルヘルス増進	港区	1名
10/23	安全衛生	事故防止と安全対策(高齢部門合同)	桜センター1階	多数参加
11/6	感染症	吐物処理研修(法人合同)	桜町病院	1名
11/22	介護	誤嚥を防ぐ食事ポジション	桜町病院	1名
11/26	福祉機器	介護をつなぐ未来福祉機器展	武蔵野プレイス	1名
11/27	人材育成	デイサービスにおける人材育成	飯田橋セントラルプラザ	1名
12/10	介護	介護職が行う「医療行為ではない行為」(法人合同)	戸塚ホール	5名
1/15	虐待	「虐待防止」研修(管理者向け)	中野ZEROホール	1名
1/17	組織	笑顔あふれる職場づくり(法人合同)	戸塚ホール	2名
1/18	その他	事業者連絡会(通所グループ会)	小金井あみず苑	1名
1/22	栄養	食品衛生実務講習会	調布市文化会館	1名
1/23	栄養	メディカルフード展	東京ビックサイト	1名
2/14	人材育成	福祉現場におけるサービスマインド向上(法人合同)	戸塚ホール	2名
2/20	組織	指定更新事業者研修	文京区	1名
2/22	介護	全国入浴福祉研修会	中央区	1名
3/8	その他	事業者連絡会(通所・居宅合同グループ会)	貫井北町公民館	2名
3/8	地域支援	サブスタッフ養成実績報告会	市役所8階	2名

( 部署名 訪問介護 )

日程	分類	研修内容	場所	参加者
4月13日	苦情対応	苦情対応について(対応に苦慮する苦情)	桜町センター2階	10名
5月11日	法令順守	訪問介護に関する基本的な介護保険法令	桜町センター2階	10名
6月15日	事故防止	介護事故予防研修(リスクマネジメント)	桜町センター2階	8名
7月13日	緊急対応	緊急時対応研修 ~急変時の対応~	桜町センター2階	9名
8月23日	介護	紙おむつの効果的な使い方	ヨハネホーム	10名
9月20日	地域包括ケア	小地域ケア会議(高齢者の買い物について)	小金井社協	1名
12月10日	医療	スピリチュアルペインとそのケア	桜町病院	9名
1月27日	その他	オープンダイアログ・ワークショップ	上智大学	1名

( 部署名 居宅介護支援係) 桜町ケアマネージメントセンター

日程	分類	研修内容	場所	参加者
5月17日	その他	第4回ケアマネ勉強会「高齢者の高血圧」	医師会館	3名
5月19日	その他	高次脳機能障害の社会復帰に向けた課題	萌木ホール	1名
6月4日	認知症	地域包括ケア講演会「心不全について」	宮地楽器ホール	1名
6月12日	虐待防止	高齢者虐待事例検討会 第1回	サンメール尚和	1名
6月14日	その他	リ・アセスメントシートについて	貫井北町センター	4名
6月14日	認知症	認知症とともによりよく生きる	日生小規模多機能ホーム小金井	2名
8月4日	その他	利用者の意思決定を支えるIPW(専門職連携)	三鷹産業プラザ	1名
9月8日	その他	生活困窮者自立支援法	BIZ新宿	1名
9月25日	虐待防止	法人合同研修 防ごう 気づかない虐待など	戸塚ホール	1名
10月11日	その他	第2回 ケアマネグループ研修会	前原暫定集会室	1名
11月14日	その他	難病の患者に対する医療等に関する法律	BIZ新宿	1名
12月3日	虐待防止	高齢者虐待事例検討会 第2回	サンメール尚和	1名
12月11日	その他	障害者総合支援法	BIZ新宿	1名
1月15日	虐待防止	高齢者虐待防止研修	なかのZERO大ホール	1名
1月10日	その他	口腔内状態と摂食えんげ機能について	医師会館	2名
2月15日	人材育成	認定調査員研修	商工会館	1名
2月19日	人材育成	ケアマネ勉強会(事例検討会)	戸塚ホール	1名
3月13日	人材育成	小金井市介護支援専門員現任研修	前原暫定集会室	1名

(部署名 地域包括支援係) 小金井きた地域包括支援センター

日付	分類	研修内容	場所	参加者
4/2	法人内	社会福祉法人聖ヨハネ会 平成30年度合同入社式	本館戸塚ホール	2名
5/15	虐待	養護者による高齢者虐待対応研修(基礎研修・第1回)	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル	1名
5/17	医療	『高齢者の血圧コントロール！お風呂・運動どうしたら？』	小金井市医師会	2名
6/13	虐待	権利擁護テーマ別実践研修「セルフ・ネグレクトへの支援」	東京都福祉保健財団	1名
6/14	事例検討会	リ・アセスメント支援シートについての理解を深め、実践に生かそう	貫井北町センター	2名
6/28	包括職員勉強会	予防プランを使用した事例検討会・高齢者虐待対応事例の振り返り	前原暫定集会施設	5名
7/2.3	認知症	認知症支援体制推進全国合同セミナー	認知症介護研究・研修東京センター	1名
7/12	医療	ケアマネ勉強会「高齢者心不全って？そもそも心不全ってなに？？」	医師会館	2名
7/13	地域包括ケア	平成30年度 武蔵野市・小金井市・西東京市地域包括ケア推進 三市合同研修会	武蔵野スイングホール	1名
7/20	事例検討会	平成30年度「三市・認知症高齢者と家族支援のための事例研究会」	サンメール尚和	1名
8/4	介護支援専門員	利用者の意思決定を支えるIPW～専門職連携(IPW)から利用者の意思決定支援を学ぶ～	三鷹産業プラザ	1名
8/24	認知症	H30年 第1回 東京都認知症地域対応力向上研修	ベルサール新宿グランド コンファレンスセン	1名
9/4	介護支援専門員	ケアマネジメントの質の向上研修	ワймお茶の水	1名
9/8	介護支援専門員	生活困窮者自立支援法	BIZ新宿	1名
9/12	介護支援専門員	小金井市ケアマネジャー研修会(医師会・にし包括)	小金井市医師会	3名
9/5.18.19	虐待	養護者による高齢者虐待対応研修(基礎研修・第2回)	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル他	1名
9/29	介護支援専門員	若年性認知症の基礎理解～病態から社会資源活用までを学ぶ～	ワймお茶の水	1名
10/6	総合	2018年日本社会事業大学専門職大学院 福祉実践フォーラム	フクラシア丸の内オアゾ	1名
10/12	権利擁護	H30年度区市町村職員等高齢者権利擁護研修「権利擁護テーマ別実践研修(第2回)」	東京都福祉保健財団	1名
10/25	医療	幸せな最期をコーディネートするには	宮地楽器ホール	1名
10/30.31	虐待	H30年度区市町村職員等高齢者権利擁護研修「養護者による高齢者虐待対応研修(応用研修A)」	東京都福祉保健財団	1名
11/26	地域包括ケア	H30年度 地域包括支援センター職員課題別研修「地域共生社会に求められる多職種連携と意思決定支援主任ケアマネの推薦要件について小金井市からの説明会」	Learning Square 新橋	1名
11/30	介護支援専門員	主任ケアマネの推薦要件について小金井市からの説明会	社協2階会議室	1名
12/22.23	認知症	H30年度認知症初期集中支援チーム員研修会	ベルサール汐留	1名
1/17	法人合同研修	笑顔あふれる職場づくり	戸塚ホール	1名
2/20	地域連携	地域連携会議	東京都立多摩総合医療センター	1名
2/22	医療	MCS研修会(実践編)	小金井医師会館	1名
2/2	認知症	認知症サポーターキャラバン表彰式	砂防会館	1名
2/13	その他	平成30年度第3回東京都介護予防推進会議	エステック情報ビル	1名
2/19	事例検討会	同居家族に精神疾患者がおり適切なサービスが利用できないケース	戸塚ホール	2名
2/20.21	権利擁護	養護者による高齢者虐待対応研修(応用研修B)	福祉保健財団	1名
2/22	認知症	平成30年度第3回若年性認知症相談支援研修	東京都福祉保健局	1名
3/18	包括職員勉強会	予防プランを使用した事例検討会・高齢者虐待対応事例の振り返り	萌え木ホール	6名
2018/10/4～ 2019/2/23	介護支援専門員	東京都主任介護支援専門員研修(新任)	ワйм御茶ノ水他	1名

### Ⅲ 本町高齢者在宅サービスセンター（通所介護）

#### 【2018年度利用状況報告】

##### 1. 事業別利用率状況（3か年の推移）

種別	定員	1日平均利用者数	利用率（2018）	利用率（2017）	利用率（2016）
通所介護（一般・予防）	25名	23.4名	93.6%	92.5%	91.9%
認知症型通所介護	12名	8.6名	79.2%	84.5%	84.1%
食の自立支援事業	80名	83.4名	104.2%	105%	111.3%

##### （1）通所介護（予防型・一般型）

###### ①要介護度別実人数・延べ人数

介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
実人数	36	44	386	249	107	51	18	891
割合	4.0%	4.9%	43.3%	27.9%	12.0%	5.7%	2.0%	100.0%
介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延べ人数	107	327	2916	2087	1213	374	89	7113
割合	1.5%	4.6%	41.0%	29.3%	17.1%	5.3%	1.3%	100.0%

###### ②基本属性

平均年齢 87歳（最高100歳男性、最低63歳女性）

男女比率 男性23%：女性77%

利用登録者 要介護者 70名 要支援者 5名 合計 75名

新規利用者 29名 主な利用理由（外出機会の確保・転倒や認知症予防・趣味活動参加での生きがい作り・入浴希望等）

廃止利用者 32名 主な廃止理由（逝去・施設入所・転居・他サービス利用）

##### （2）認知症対応型通所介護

###### ①要介護度別実人数・延べ人数

	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
実人数	0	0	19	40	68	81	125	333
割合	0.0%	0.0%	5.7%	12.0%	20.4%	24.3%	37.5%	100.0%
介護度	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
延べ人数	0	0	177	354	730	708	906	2875
割合	0.0%	0.0%	6.2%	12.3%	25.4%	24.6%	31.5%	100.0%

###### ②基本属性

平均年齢 83歳（最高97歳女性、最低69歳男性）

男女比率 男性28%：女性72%

利用登録者 要介護者 32名 要支援者 0名 合計 32名

新規利用者 15名 主な利用理由（認知症の方の全面的支援認知症ケア・見守り対応・家族介護軽減・入浴希望・その他等）

廃止利用者 12名 主な廃止理由（逝去・施設入所・長期入院）

## 【職 員】

	2018年4月1日の 職員数			年間退任・就任						2019年3月31日の 職員数		
	正職員	非常勤職員	合計	正職員		非常勤職員		合計		正職員	非常勤職員	合計
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
センター長	1名		1名							1名		1名
生活相談員	4名		4名							4名		4名
介護職員		10名	10名			3	1	3	1		12名	12名
看護職員		4名	4名			1	1	1	1		4名	4名
栄養士調理員		4名	4名								4名	4名
宅配員		14名	14名			6	8	6	8		12名	12名
食の自立 Co		1名	1名			1	1	1	1		1名	1名
事務員		1名	1名								1名	1名
運転員		6名	6名			3	3	3	3		6名	6名
清掃員		2名	2名								2名	2名
合 計	5名	42名	47名			14	14	14	14	5名	42名	47名

※但し、非常勤職員には兼務者（宅配員と介護員兼務）がおり、非常勤総数（実数）は2018.3.31は40名（兼務者2名）、2019.3.31は38名（兼務者4名）となる。

## 【施設運営状況】

### 1. 指定管理協定更新の3年目

2018年度は小金井市の指定管理協定の第4期（5か年：2011年度～2015年度）を経て、第5期（5か年：2016年度～2020年度）の3年目であった。

本町センターは、桜町聖ヨハネホーム、桜町センターとともに第3期中期経営計画【2017～2019年度】を策定したが、その集大成の年度であった。

第3期中期経営計画の焦点は、高齢福祉部門の財務改善にあるが、その中心は、措置時代の終焉以後、慢性的に経営が厳しい状態にあったヨハネホームと桜町センターの財務改善にあった。

本町センターは2施設とともに、経営の恒常的安定化を目指し、経営体質の強化、職員の意識改革、経営ノウハウの共有と実施に取り組んできたが、その成果は、下表の東京都のデイサービスセンター経営実態調査結果からも明らかである。

年度	サービス活動収益対経常増減差額比率	
	本町センター	都内公設民営平均
2017 (H29)	5.29%	2.82%
2015 (H27)	15.42%	3.04%
2014 (H26)	12.91%	5.48%

※2017 (H29) からは人件費率を都内平均並みにアップし、職員の業務負担感の軽減を図り、サービス業務の向上と長期的経営基盤づくりにつなげている。

## 2. 財務報告

2018（H30）年度制度改定で通所介護サービス（一般型・認知症対応型）の介護報酬費は、①基本報酬のサービス提供時間区分の見直しと②規模ごとの基本報酬の見直しの影響を受けた。

具体的には、従来 7～9 時間で提供していたサービス提供時間が 1 時間毎の区分に変更されたことで、サービス提供時間は 7～8 時間に変更することになった。7～8 時間の報酬差は下表通りだが、その差による減収はおおよそ、一般デイで年間 120 万円、認知症デイでは 210 万円で、合計 330 万円と見込まれる。

通常規模型通所介護

	【従来】	【2018(H30)～】		参考値
	①7時間以上9時間未満	②7時間以上8時間未満	②-①報酬差	
要介護1	656	645	-11	656
要介護2	775	761	-14	775
要介護3	893	883	-10	893
要介護4	1021	1003	-18	1021
要介護5	1144	1124	-20	1144
平均	898	883	-15	898

認知症対応型通所介護

	【従来】	【2018(H30)～】		参考値
	①7時間以上9時間未満	②7時間以上8時間未満	②-①報酬差	
要介護1	1030	985	-45	1017
要介護2	1141	1092	-49	1127
要介護3	1253	1199	-54	1237
要介護4	1365	1307	-58	1349
要介護5	1477	1414	-63	1459
平均	1253	1199	-54	1238

加えて、当センターは他デイでは引き受けない認知症高齢者の短時間利用のニーズに対し、フイッティングサポート<sup>1</sup>を提供しているため、減収幅を更に広げる傾向にある。

ちなみに、通所介護の介護報酬体系自体は制度改定のたびに従前の基本報酬を加算で補う形式をとってきているが、加算取得の要件は次第に厳しくなっており、加算取得を手控えさせるものに変化してきている。

したがって、デイサービスの健全経営には、従来通り目標利用率に接近することを第一に考え、提供する支援内容を充実させることを目標に 1 年間取り組んだ。（経過は当センターホームページで詳しく紹介しているので参照されたい。）

その結果、利用率は予防・一般デイで 93.6%、認知症デイで 78.9%という結果となった。都下公設民営デイサービスの平均利用率は 81.2%<sup>2</sup>なので、当センターの利用率は都内有数の高水準にあると言ってよいだろう。

しかし、一般デイでは利用者介護度の軽度化進行、認知症対応デイは、ご利用者の重度化に伴うショートステイの多用や入院者の増加で、収支バランスはさして良いとは言い難い。

認知症対応デイに関して補足すれば、家族やケアマネジャーは、いくらショートを多用してもショートから戻れば、従前通りデイを即再開して欲しいと希望している。この一方的なスタンス

<sup>1</sup> 人としての尊厳が守られる生活が営めるよう、ケースの個別性に応じ、サービス利用ラインに乗せるために必要な信頼関係形成とサービスフイッティングに係る手間（福祉サポート）をフイッティングサポートと定義する。

<sup>2</sup> 2017（H29）年度デイサービスセンター経営実態調査結果（東社協）

により利用率の好不調関係なしにデイではその方のために定員利用枠をその方のために強制的に空けておかねばならない状況となっている。この状況を問題視するのは程度問題と思うが、現在の認知症対応デイでは、多くのケースがショートを多用していることから、すでに定員コントロールができなくなりつつある。

本年度の利用率目標未達成の主たる要因はそこにある。また、築 20 年を経過し、修繕費が 100 万円を超えてきたことや感染症対策を中心とした保健衛生費の過剰支出（260 万円）なども支出増に繋がった原因として考えられる。

いずれにせよ、こうした状況から、本年度（2018（H30）年度）決算は、資金収支会計で当期資金収支差額合計（運転資金）は借入金なく、339 万 9 千円の黒字（昨年度は 907 万 3 千円）だが、前年度比は-0.37%で 567 万 4 千円のマイナス。このうち 330 万円は先述したとおり介護報酬改定による自然減と考えても、-237 万 4 千円は認知症対応デイの利用率目標未達成に因るところが主要因で、次に一般デイのご利用者の平均介護度の軽度化<sup>3</sup>云々が原因として考えられる。

一方、事業活動収支会計は、当期活動増減差額（1 年間の経営成績）は、79 万 9 千円の黒字であった（昨年度は 291 万 5 千円）。しかし、前年度比では-0.27%で 211 万 6 千円のマイナスとなっている。

※資金収支差額と事業収支差額の差は、主に賞与引当金、減価償却費、積立金取崩、退職給付費関係による影響が大きい。

事業活動収支会計における介護保険事業収益は 1 億 4,943 万円であった。（昨年度は 1 億 5,200 万円）前年度比は-0.98%（-257 万円）となっている。

ちなみに、人件比率は 72.7%としており、昨年度の 73.2%よりもやや抑えた感じとなっている。都内公設民営の平均人件費比率が 68.62%であることからすると、やや比率は高いが、職員の有給消化率を高めるなど働きやすさに繋げ、職員の安定的雇用を維持するうえでは妥当な人件費比率と考えている。

## 【利用者支援状況】

### 1. サービス方針に則った取組み

#### 1) 人格を尊重した福祉の実践

##### (1) 労務環境改善取組み

①新任研修振り返り交流会（4 月）

②処遇改善計画の立案・実施

・処遇改善手当対象外職員への賃金改善など

→相談員で介護員業務や送迎運転に従事している職員に対し、介護福祉士手当加算ならびに送迎運転手当加算に相当する手当を施設持ち出しで支給することを決めた。

（4 月～）

腰痛ベルト支給、国家資格受験料助成、健康管理支援（メンタルヘルスチェック、健康診断オプション検査助成）

③雇用促進：㈱テキキックスと立ち上げたナラティブサイトに「施設長の想い」をアップする（2018.10）⇒送迎運転員（1 名）、配食配達員（4 名）、介護員（1 名）、看護師（1 名）採用

④腰痛予防対策

・介護技術研修「持ち上げない介護」（10 月）

・腰痛ベルト支給

・腰痛予防対策講座開催（3 月）※桜町 C でインフルエンザ蔓延のため中止

<sup>3</sup> 一般デイご利用者の介護度 3 以上の実人数は 19.8%（昨年度対比で 89.1% -2.4 p t）。延べ人数は 23.6%（昨年度対比で 91.8% -2.1 p t）。一方、今年度の介護 3 以下の実人数は 80.2%（昨年度対比で 107% +2.4 p t）。延べ人数は 76.4%（昨年度対比で 102% +2.1 p t）

⑤メンタルヘルス対策

- ・ストレスチェックの実施（中央労働災害防止協会）
- ・ストレス改善につながるコミュニケーション標語の募集（10月）
- ・コミュニケーション標語の朝礼時唱和の開始（11月～）

⑥高齢福祉部門暑気払い（職員懇親会 8月）

⑦建物設備機器更新

- ・洗濯機の購入入替（7月）
- ・事務局デジタル無線機購入入替（11月）
- ・1階給湯室給湯器購入入替（12月）
- ・1階・2階系統 室外機修繕（2月）
- ・3階系統 空調機・室外機交換（3月）
- ・介護用2モーターベッドの購入（3月）

⑧記録の見直し

- ・ご利用者連絡ノートのフォーマット見直し開始・検討中

**(2) 人材育成取組み**

①理念に則った支援の遂行

- ・事業計画キックオフ会議の実施
- ・職員会議の活用（四半期ごとの振り返り）
- ・日本カトリック老人施設協会研修 in 福岡  
「制度改正の総括と新社会福祉法人制度改正後の法人への期待」  
国立病院機構副理事長 古都賢一  
「カトリックにおける高齢者の人権尊重」  
福岡教区長 ドミニコ宮原良治司教 10/11（木）～12（金）
- ・接遇マナー研修「介護職員の接遇マナー」（4名）「人間成長の道しるべ」（2名）
- ・「笑顔あふれる職場づくり」研修（2名）「福祉現場におけるサービスマインド」（4名）

②権利擁護の意識醸成

- ・人権・権利擁護研修（6名）
- ・ストレスチェックの実施（5月）  
⇒ストレスチェック後のフォローアップ対策としてコミュニケーション  
改善標語を職員全員で考え、毎週順番に取り上げ、始業前 MTG で唱和している。（11月～）
- ・虐待の芽チェックリストの実施・分析（6月・1月）
- ・高齢者虐待防止のための組織体制チェックリストの実施・分析（1月）

③介護職員向け研修

- ・持ち上げない介護研修（10/16 2名）
- ・「嘔む、飲み込むが困難な人への食事」（2名）
- ・「身体の構造を知り介護に活かす」（2名）

**(3) その人らしさの追求取組み**

①事例勉強会・ケア勉強会の定期開催

- ・毎月第二水曜日 18:00～

②理美容サービスの提供（毎月実施）

- ・床屋や美容室に行けない方に対しセンターで理美容サービスを提供している。

③身だしなみチェック・清潔整容ケアの実施

- ・高齢者世帯、独居世帯など介護力が不足しがちな在宅環境にあるご利用者様は、細やかなケアが十分に受けられない実態がある。そのため、センターでは来所時に身だしなみを確認し、清潔整容のケアが十分行き渡るよう取り組んでいる。



④「ご利用者様も職員も今を生きている実感が持てる過ごし方をしよう」を認知症ケアのビジョンとして掲げる。

- ・「認知症デイサービスの改善を目指すための職員向けアンケート」を実施（10月）  
⇒ご利用者様への支援がを「あなた任せ」にせず、各人が主体となって支援を考えるきっかけとするために①その人らしく②最期まで③家族や友人に支えられながら④家族介護者を様々な支援者と共に⑤主体的に互いを支えあう関係性を構築するために取り組みたい事は何かを設問をしアンケートを実施。

#### (4) 愉しみ、張り合い、心地よさの追求取組み

##### ①愉しみ

- ・給食会議の定例化（毎月第2火曜日）
- ・行事食や食形態の見直し等を検討。
- ・菜園づくりと収穫物の調理や試食
- ・梅シロップ、かりんシロップ、スイートポテトづくり
- ・液晶プロジェクター購入（映画鑑賞、講習会等で活用）

##### ②張り合い

- ・コピック・アート作品展開催（宮地楽器ホール4月）
- ・外出に係るアンケート実施（4月）
- ・外出企画の立案を実施（神代植物公園、深大寺参道、青葉珈琲、倉敷珈琲、ブルーメンマーケット、市内農園など）
- ・文化祭作品コーナーへの展示（11月）
- ・「私とあなたの思い出写真コーナー」の企画立案と実施（認知デイ）

##### ③心地よさ

- ・介護用ベッド購入（3月）
- ・認知デイフロア飾り棚修繕
- ・可動式本棚を購入（3月）
- ・ご利用者様をより良く理解するためのアンケート実施（認知デイ）

##### ④重度障害・医療ニーズの高い認知症高齢者、看取り支援

- ・重度介護が必要な方や看取り介護が必要な方の積極的受け入れ。
- ・経管栄養、痰の吸引、在宅酸素、褥瘡処置
- ・看取り支援（医療と多職種連携、食事摂取方法の検討、家族支援）
- ・食形態（特食）食事摂取方法の検討（栄養部と連携）
- ・在宅医療、介護サービスとの多職種連携（多職種連携研修参加）

##### ⑤広報・PR活動

- ・ホームページ【さくらんぼルーム】開設
- ・認知症デイサービス紹介ファイル作成

## 2) 安全と安心の提供

### (1) 食の自立支援事業（配食、活動会食会、いっぶくカフェ、食の自立第三者委員会など）

#### ①配食サービス

- ・配達日：日曜・祝日・年末年始（12/29～1/3）を除く平日
- ・利用日：月水金または火木土の週3回以内
- ・対象：下記ア、イの要件を満たし且つ包括支援センターの調査訪問結果で市の承認を得た方  
ア：介護保険サービスを利用している方  
イ：「ひとりぐらし」もしくは「高齢者世帯」、「その他の世帯」で食材の調達・調理が困難で、定期的な見守り支援が必要な方

- ・利用数：定員は 80 食/日。実績は平均 88 食/日。
- ※8 食 \* 288 日 = 2,304 食は施設負担で実施。食の自立支援事業のニーズの多い実態は市とも共有し、事業対象者ならびに受託事業費の適正化に向けた確認や交渉は毎年実施している。しかし、いまのところ適正化のための増額には至っていない。

## ②活動会食会・いっぶくカフェ

- ・開催頻度：各月 1 回
- ・内 容：外出機会をつくり、閉じこもり防止のきっかけづくりを行う
- ・対 象：食の自立支援事業配食サービスご利用者様から選出

### 【いっぶくカフェ】

- ・実施時間：14 時～15 時
- ・参加人数：5 名～6 名

### 【活動会食会】

- ・実施時間：11 時～14 時
- ・参加人数：4 名～5 名
- ・活動場所：殿ヶ谷戸庭園、神代植物公園、農工大繊維博物館、武蔵野クリーンセンター、JRA 競馬博物館、調布飛行場、体験ダイサービスなど

## ③食の自立第三者委員会

- ・目 的：食の自立支援事業（配食、いっぶくカフェ、活動会食会など）が、事業の目的にあって提供し機能するよう社会福祉法人聖ヨハネ会では第三者委員会を独自で設置した。
- ・メンバー：第三者委員（配食ボランティア、いっぶくカフェボランティア、地域の代表）、オブザーバー（小金井市介護福祉課）、栄養部（課長、係長、食の自立支援事業コーディネーター）、センター長
- ・開催頻度：年 2 回
- ・内 容：食の自立支援事業の実施状況報告、サービス業務の改善取組み、苦情対応報告、配食試食会などを通して、本事業の健全な運営に必要な意見交換を行い事業運営に役立てている。

※2018 年度の食の自立第三者委員会では、嚥下調整食の試食を行い、嚥下障害のある方の食事の実際を第三者委員会の方々に実感していただいた。今後、配食サービスでも需要が見込まれる可能性もあるため引き続き検討してゆきたいと考えている。

## (2) 自衛消防隊活動

### ①自衛消防訓練の実施・報告

- ・内 容：避難訓練（年 6 回）、通報訓練、web171 訓練（年 4 回）消火訓練（年 2 回）  
毎回計画書と報告書を消防署に提出している。
- ・参加者：ダイサービス職員、栄養部職員

※今年度、認知ダイフロアでの避難訓練を実施した。軽度の方を階段で避難する訓練は実施できたが、重度の方や寝たきりの方の訓練は実施できていない。次年度は、担架での移動や車椅子での避難方法を検討し実施していく。

### ②高齢部門防災員会（毎月第 2 火曜日 18 時～18 時半）

- ・被災時の燃料供給体制の協定書の締結（ガソリン・LP ガス）

### ③防災用具・被災時備蓄品・救急救命備品の購入・管理

- ・普通救命講習受講（介護員 2 名、配食 2 名）

### ④小金井市福祉二次避難所

- ・高齢部門防災委員会にて福祉二次避難所設置・運営マニュアル（案）検討

### ⑤救急医療災害支援情報キット申請窓口の継続

### (3) 建物設備

- ・リクライニング車椅子の修理（4月）
- ・ベッドキャスター修理（4月）
- ・害虫駆除（厨房 5～8月）
- ・1・2階系統室外機スターター交換修理（6月）
- ・洗濯機更新（7月）
- ・EVピット浸水対応（9月）
- ・1階給湯器更新（12月）
- ・ルーター更新、PCセキュリティソフト入替（12月）
- ・グリストラップ清掃（12月・3月）
- ・ブラインドカーテン一部更新（1月）
- ・カラーコピー印刷制限のための権限設定（3月）
- ・中古介護用ベッドの購入（2F 3月）
- ・3階系統室内外機更新（3月）

### (4) 医療と介護の連携

- ・コラボヨハネ（法人内医療と介護の連携会議 原則月1回開催）  
⇒連携リーフレットを作成
- ・医師会主催の研修会への参加（10/25 宮路楽器ホール）

### (5) 感染症予防取組み

- ・2019（H31）年1月中旬にインフルエンザが蔓延しかけた。  
保健所への報告基準までには達していなかったが、2017年度にヒトメタニューモウイルスによるパンデミックを経験していることから、利用者・家族・ケアマネ事業所向けに感染兆候があることを早期に通知し、同時に多摩府中保健所に連絡を入れ報告をした。幸いにもその後はパンデミックにつながることなく無事終息した。
- ・感染症対策委員会による感染症予防対策以外に取り組んだこととしては、夜間の加湿器稼働を行い、室内湿度65%以上を確保し、日中帯の高湿度維持に努めた。

#### ①感染症対策委員会、安全衛生委員会の活動

- ・感染症研修開催・参加
- ・感染症シュミレーション研修開催・参加（自施設研修）
- ・手洗いチェッカーによる手洗いチェック実施
- ・ノロキット配備（車輛・建物）
- ・次亜塩素消毒薬による建物設備消毒実施
- ・ノロキット用塩素消毒薬の毎日交換実施
- ・メディカルマスクの購入配布（職員ならびに必要時は利用者にも配布）
- ・インフルエンザ予防接種・検便検査実施

#### ②本町センターの感染症予防環境対策

- ・害虫防除作業委託
- ・二酸化塩素発生用品の購入設置による空間除菌実施
- ・加湿器の設置、定期清掃
- ・朝礼時の注意喚起（健康チェック、マスクエチケット、手洗い、手指消毒、うがい）
- ・入館ルールの徹底（手指消毒薬の配備と案内掲示）
- ・地下ピットに防虫剤散布。ポンプによる排水作業の実施

#### ③感染症対策研修への参加

## (6) 事故災害対策

### ① 労災事故

- ・2018年度は、労働災害の発生はなく未然に防ぐことができた。

### ② 介護事故

- ・特になかった。

### ③ ヒヤリハット

- ・ヒヤリハットは、予防デイ・一般デイで年間49件（昨年度49件）。認知デイで11件（昨年度14件）、合計60件であった。
- ・最も多いヒヤリハットは移動関係のもので15件（25%）あった。活動中の椅子からの転落15件（25%）が多かった。職員のコミュニケーション不足から死角が生まれ見守り不足となった。
- ・原因別に多かったのは、私物の取り扱いによる「確認不足」で12件（20%）あった。決まった職員によるものが大半ではあるが、私物の取り扱いにはダブルチェックなどを取り入れ対応しながらOJTにも取り組んでいる。
- ・今年度より、ヒヤリハットが発生した時はフロア全体で振り返りを実施し早急な原因分析と対策案の検討に取り組んでいる。

### ④ 車輻事故（8/21）

#### ・ 対物事故（4/7）

配食車輻による配達中の接触事故。狭い路地での左折時の接触。

⇒発生場所での接触事故は昨年もあったため、幹線道路を使用するルートに変更した。

#### ・ 対人対物事故（3/13）

配食車輻による配達中の交通事故。狭い路地からの飛び出し事故。

⇒事故後の対応を迅速かつ細やかに行った。再発予防のため、狭く見通しの悪い路地を通行する際の注意喚起を配食前ミーティングで実施している。

### ⑤ 苦情

#### ・ 職員の対応・態度、説明不足・説明責任に対する苦情（1/23）

感染症対応での職員からの説明がおざなりで不愉快な思いをさせてしまった。

⇒早急に事実確認を行い、翌週にはセンター長、係長代理でご自宅を訪問し状況説明とお詫びする。

### ⑥ 救急救命講習受講

- ・通救命講習への参加（介護員2名、配食2名）

### ⑦ 送迎車輻事故予防環境の整備

- ・リフト付き福祉車輻の購入入替 2号車（7月）、3号車（8月）
- ・ドライブレコーダー購入設置（マリア号、新2号車）

### ⑧ 介護事故予防

- ・リスク管理研修参加（10/23）事故防止と安全対策

## 3) 地域との共生

### (1) 認知症に強い街づくりへの取り組み

#### ① みんなの安心ささえ愛ネットワーク

- ・毎月第3月曜日 14時30分～16時
- ・コミュニティーの輪づくり懇親会開催（8月）
- ・桜町聖ヨハネ祭「ヨハネでかくれんぼ」実施（10月）
- ・東京ホームタウンプロジェクト「ママボノプロジェクト」で「お元気ですか？」商業者向けリーフレット作成。
- ・「渋谷でラジオ」出演（2月）

- ・「みまもりあいプロジェクト」の推進と制度導入に向けての意見交換
- ・「みんなの安心マップ 2019 春号」作成

## ②コミュニティ形成推進意見交換会

- ・定例会議へ参加
- ・「コミュニティ農園設置に向けた意向調査」のヒヤリング（2月）

## ③認知症を支える介護者の集い

- ・毎月第一土曜日 13時30分～15時
  - ・内 容：認知症を支える在宅介護の経験を分かち合い、学び、気づきを得て、家族介護や自分自身と地域の今後に活かしていただく。
  - ・対 象：当センターにおける家族会は、家族介護者に限定せず、地域で認知症の方の在宅介護の支えとなっている方、支えになりたいと考えている方、認知症サポートに興味関心のある方が自由に参加できるよう門戸を開いている。
  - ・参加者：5名前後
  - ・講習会：年3回開催
    - 第1回テーマ「認知症を学ぼう」
    - 第2回テーマ「認知症の症状の理解と対応」講師 認知症看護認定看護師
    - 第3回テーマ「認知症になったとき」
- ※事業を実施する事業者の情報共有や実施に向けての課題把握のために連絡会を定期的  
に開催しています。今年度は、広報活動を活発に行い認知症高齢者を抱える家族の輪  
を広げていきたいと考えている。

## ④認知症デイサービス運営推進会議

- ・開催日：第5回 2018年9月3日（月）  
第6回 2019年3月11日（月）
- ・内 容：認知症対応型通所介護サービスの事業や当会ならびに部門が提供する諸サービスについて知っていただき、よりよい事業運営、サービス提供を目的としご利用者様、ご家族様、地域の皆様方からのご意見をいただく。
- ・参加者：センターご利用者ご家族、ボランティア代表、けやき通り商店会代表、きた地域包括支援センター、本町センター認知症デイ管理者、担当職員。

※行政は近隣市での実績動向を見てから推進について判断したいとの意向。

## ⑤認知症サポーターフォローアップ講座への参加

- ・配食の職員を中心に認知症サポーター養成講座へ参加

## (2) 家族介護者教室

- ・日 時：12月7日（金）13時30分～15時30分
- ・テーマ：「老後の金銭管理」
- ・講 師：室岡 利明氏（小金井市社会福祉協議会 地域支援係長）
- ・参加者：17名

## (3) ボランティア受入体制整備の取組み

- ・高齢部門合同ボランティア募集チラシ作成
- ・各施設でのボランティア受け入れ促進のための課題共有と検討（ボランティア委員会）
- ・ボランティア卒業者への感謝状贈呈
- ・イベントボランティア看板作成

## (4) 施設開放

- ・本町2丁目町会活動場所の提供
- ・趣味、コーラス、体操、雑学グループ活動
- ・防災協定にもとづく防災倉庫の設置継続・火の用心開始拠点

## 【施設整備状況】

### (1) 概況説明

1998（H10）年10月開設から20年が経過し、建物設備は劣化が著しい。開設当初に購入した設備備品は故障が生じていてもメーカーの部品供給が厳しく、買換えや大規模改修を余儀なくされる状況にある。特に危機的状況にある設備備品は、①冷暖房空調設備（GHP）②屋上防水シート③エレベーター。④福祉車両2台（10万kmオーバー）⑤特殊入浴機器（18年）である。

指定管理委託元である小金井市の所轄である高齢福祉係を通じ修理状況などは適宜報告してきたが、今期はエレベーター、3階系統空調機とも営業中に停止するアクシデントに見舞われ、営業に支障を来した。そこで、市の方で緊急予算を組んでくださり3階系統室外機・3階室内機の入替、エレベーター修繕対応を行った。一方、本町センターの方は、自前で老朽化していた1ボックスの福祉車両2台、1階給湯器、ルーターの入替とブラインドカーテンの入替・補修を行った。

本町センターは福祉二次避難所としても協定を結んでいることから、いざというときの建物設備の不具合は市民に大きな不安を与えかねない。その点からも引き続き市に状況報告をし予算化をお願いしてゆく。

### (2) 主な固定資産 4,549,956円（入替購入）

● 2018年 6月	ハイエースV WEL（H24年）1台	1,886,288円
● 2018年 7月	ハイエース車椅子移動車（H26年）1台	2,171,288円
● 2018年 11月	固定型簡易無線機 一式	145,800円
● 2018年 12月	TOTO製電気温水器	170,000円
● 2018年 12月	YAMAHA ルーター NVR510	176,580円

### (3) 主な修繕内容

#### ①本町対応 709,691円

● 2018年 5月	介護保険制度改正対応ソフト費用	216,000円
● 2019年 1月	ブラインドカーテン 16箇所	364,091円
● 2019年 3月	室外機他廃棄処理	129,600円

#### ②小金井市対応 8,076,195円

● 2018年 5月	GHPエアコン修繕	100,000円
● 2018年 12月	エレベーター修繕	2,289,600円
● 2019年 2月	GHPエアコン修繕	502,595円
● 2019年 3月	GHP冷暖房機購入	5,184,000円

【事業状況】(利用実績集計表・利用率の推移)

事業別 2018(H30)年度 利用実績集計表 2018年4月～2019年3月 本町高齢者在宅サービスセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護保険	通所介護・一般 日数	25	24	26	26	27	25	27	26	25	24	24	26	305	
	23名/日 定員	575	552	598	598	621	575	621	598	575	552	552	598	7,015	
	介護給付 (23人想定)	新規	0	2	3	1	5	4	3	3	1	3	1	1	27
		終結	1	3	4	2	2	4	1	4	1	1	6	4	33
		登録数	75	73	73	72	72	71	71	73	69	71	70	67	-
		実利用者数	70	67	65	66	67	65	67	68	68	70	66	63	-
		延利用者数	562	495	534	602	581	556	600	585	588	517	526	555	6,701
		人数/日当	22.5	20.6	20.5	23.2	21.5	22.2	22.2	22.5	23.5	21.5	21.9	21.3	22
		利用率	97.7%	89.7%	89.3%	100.7%	93.6%	96.7%	96.6%	97.8%	102.3%	93.7%	95.3%	92.8%	95.5%
	予防給付 (2名想定)	新規	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
		終結	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		登録数	7	6	7	7	8	8	8	7	6	6	6	6	-
		実利用者数	6	6	7	7	8	8	7	7	6	6	6	6	-
		延利用者数	34	33	42	35	43	41	42	44	32	30	30	32	438
		人数/日当	1.4	1.4	1.6	1.3	1.6	1.6	1.6	1.7	1.3	1.3	1.3	1.4	1.4
利用率		68.0%	68.8%	80.8%	67.3%	79.6%	82.0%	77.8%	84.6%	64.0%	62.5%	62.5%	69.6%	71.8%	
小計	延利用者数	596	528	576	637	624	597	642	629	620	547	556	587	7,139	
	利用率	95.4%	88.0%	88.6%	98.0%	92.4%	95.5%	95.1%	96.8%	99.2%	91.2%	92.7%	90.3%	93.6%	
事業	通所介護・認知症 日数	25	24	26	26	27	25	27	26	25	24	24	26	305	
	12名/日 定員	300	288	312	312	324	300	324	312	300	288	288	312	3,660	
	新規	0	3	0	1	1	1	1	2	3	0	3	2	17	
	終結	0	1	0	3	0	1	2	0	3	2	0	1	13	
	登録数	28	30	30	31	29	29	28	30	30	29	32	33	-	
	実利用者数	26	29	28	30	28	28	26	28	29	27	31	32	-	
	延利用者数	235	261	267	261	229	244	233	245	233	209	226	242	2,885	
	人数/日当	9.4	10.9	10.3	10.0	8.5	9.8	8.6	9.4	9.3	8.7	9.4	9.3	9.5	
	利用率	78.3%	90.6%	85.6%	83.7%	70.7%	81.3%	71.9%	78.5%	77.7%	72.6%	78.5%	77.6%	78.9%	
	通所介護合計	実利用者数	102	102	100	103	103	101	100	103	103	103	101	-	
		延利用者数	831	789	843	898	853	841	875	874	853	756	782	829	10,024
		※通所介護全体利用率	89.8%	88.9%	87.6%	93.3%	85.4%	90.9%	87.6%	90.9%	92.2%	85.1%	88.1%	86.2%	88.8%
	家族介護者教室	回数								1					1
		利用者数								17					17
	認知症高齢者家族交流	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
利用者数		4	3	3	3	4	4	2	2	13	2	4	6	50	
食の自立支援事業	食の自立支援事業 日数	24	21	26	25	26	23	25	24	22	22	23	26	287	
	80人/日 定員	1920	1680	2080	2000	2080	1840	2000	1920	1760	1760	1840	2080	22,960	
	①②③⑤ 延食数	1957	1940	2146	2022	2073	1923	2148	2007	1879	1858	1838	2050	23,841	
	利用率	101.9%	115.5%	103.2%	101.1%	99.7%	104.5%	107.4%	104.5%	106.8%	105.6%	99.9%	98.6%	104.0%	
	①配食サービス	登録数	201	194	193	198	200	203	203	206	207	204	208	213	-
		実利用者数	182	180	189	188	184	193	192	191	194	185	185	189	-
		延食数	1953	1936	2135	2011	2062	1919	2144	1996	1875	1854	1833	2046	23,764
		食/日当	81.4	92.2	82.1	80.4	79.3	83.4	85.8	83.2	85.2	84.3	79.7	78.7	83.0
		利用率	101.7%	115.2%	102.6%	100.6%	99.1%	104.3%	107.2%	104.0%	106.5%	105.3%	99.6%	98.4%	103.7%
	②緊急配食	実利用者数	0	0	1	1	2	0	0	1	0	0	0	0	5
		延食数	0	0	6	5	7	0	0	6	0	0	0	0	24
	③活動会食サービス	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延利用者数	4	4	5	6	4	4	4	5	4	4	5	4	53
	④いっぷくカフェ (閉じこもり防止)	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延利用者数	6	6	6	4	4	3	3	4	5	4	3	5	53
⑤栄養マネジメント (自立推進クラブ)	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	延利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑥調査・ケアプラン	新規・継続	13	10	5	9	5	8	6	9	6	5	7	11	94	
独自事業	高齢者見守りサービス	実利用者数	2	2	2	3	3	1	2	2	0	3	4	26	
	パーチャタイム(自費)	延利用者数	2	2	2	4	3	1	2	3	2	0	3	30	
	地域社会支援①	回数	7	1	6	6	1	7	7	8	4	4	8	7	66
	元気です本町2丁目会等	延人数	44	8	36	31	10	38	37	40	28	13	40	43	368
	日常生活支援 (各種相談対応等)	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	ボランティア活動	実人数	35	37	34	33	30	37	31	30	35	29	31	32	-
	延人数	93	101	89	107	74	105	101	72	95	74	73	81	1,065	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	

【教育研修一覧】

2018年度 本町高齢者在宅サービスセンター 研修計画・実施一覧表

日程	分類	研修内容	場所	参加者
2018/4/20～5/18	新入研修(理念)	本町センター介護員研修	本町センター	1名
2018/5/17	医療と介護の連携	高齢者の血圧コントロール、お風呂・運動どうしたら？	小金井医師会館	1名
2018/5/26	相談援助	事例勉強会(S様の事例から)	本町センター	10名
2018/6/5	医療と介護の連携	医療と介護に関する法人内協議について	法人本部	2名
2018/6/15	救命・防災	新人職員 防災訓練	小金井消防署	2名
2018/6/19	労務管理	働き方改革の推進に向けた説明会	立川市	1名
2018/6/26	監査説明会	H30年度指定居宅事業所等の運営状況確認検査	中野区	1名
2018/6/26	支援効果	デイサービス新任研修 基本を学ぼう	新宿区	1名
2018/6/20～7/13	新任研修	食の自立支援研修	本町センター	1名
2018/6/29	認知症	認知症研修 体験から基礎を学ぶ	立川市	2名
2018/7/2	栄養	在宅における栄養ケアのポイント	府中保健所	2名
2018/7/11	人権研修	介護現場における無自覚な虐待	飯田橋	2名
2018/7/31	接遇	介護職の接遇マナー	戸塚ホール	4名
2018/8/24	接遇	接遇とコミュニケーション	本町センター	17名
2018/8/28	人材研修	法人合同研修 人間成長の道しるべ	戸塚ホール	2名
2018/9/10	コミュニケーション	法人合同研修 リーダー職のためのコミュニケーションの考え方	戸塚ホール	2名
2018/9/20	小地域ケア会議	高齢者の買い物について考える	小金井社協	1名
2018/9/25	虐待	気づかない虐待など高齢者・障がい者への現場リスク	戸塚ホール	1名
2018/9/26	標準予防策	針刺し・粘膜暴露予防	桜町病院	1名
2018/9/3～9/28	新任研修	本町センター 看護師研修	本町センター	1名
2018/9/19	感染症	ノロ・インフルエンザ等の感染症について	桜町センター	7名
2018/9/27	感染症	ノロ・インフルエンザ等の感染症について	桜町センター	5名
2018/9/28	感染症	ノロ・インフルエンザ等の感染症について	桜町センター	1名
2018/10/10～10/12	理念継承	日本カトリック老施協全国大会	福岡県	2名
2018/10/16	介護技術	法人合同研修 持ち上げない介護	桜町センター	2名
2018/10/19	認知症	認知症サポーター養成講座	桜町センター	2名
2018/10/23	リスク管理	事故防止と安全対策	桜町センター	6名
2018/10/25	医療と介護の連携	幸せな最期をコーディネートするには	宮地楽器ホール	2名
2018/11/22	介護技術	誤嚥を防ぐポジショニングと食事ケア	桜町病院	3名
2018/11/23	相談援助	事例勉強会(O様の事例を通じて)	本町センター	11名
2018/12/5	感染症	ノロシュミレーション研修	本町センター	5名
2018/12/7	感染症	ノロシュミレーション研修	本町センター	4名
2018/12/10	介護技術	介護職が行う医行為ではない行為	戸塚ホール	2名
2018/12/12	介護技術	誤嚥を防ぐポジショニングと食事ケア	本町センター	10名
2018/12/14	救命講習	普通救命講習	小金井消防署	2名
2019/1/15	権利擁護	高齢者虐待防止	中野区	1名
2019/1/17	コミュニケーション	法人合同研修 笑顔あふれる職場づくり	戸塚ホール	2名
2019/2/13	コミュニケーション	事例勉強会 寄り添う支援とは？I様の事例を通じて	本町センター	12名
2019/2/14	接遇	法人合同研修 福祉現場におけるサービスマインド向上	戸塚ホール	4名
2019/2/28	介護職員現任	噛む・飲み込むが困難な人の食事	多摩クリニック	2名
2019/3/4	介護職員現任	身体の構造を知り、介護に活かす	社医学	1名
2019/3/5	介護職員現任	身体の構造を知り、介護に活かす	社医学	1名
2019/3/6	看取り	地域で看取りを支えるために、私にできること	宮地楽器ホール	1名



### 3. 医療部門

#### I 桜町病院（生計困難者の為に無料・低額な料金で診療を行う事業）

##### I 事業概況

国は2025年度の医療提供体制構築に向け機能別病床数に関する議論を重ねている。急性期、回復期、慢性期のそれぞれの病床数については、国や東京都の考え方や方針の下に今年度も従来の病床機能を維持しその効率的運用に心がけてきた。

今年度は4月の医療と介護の同時報酬改定があり、2025年度を見据えた改定となった。当院はその動向を見ながら今年度も既存の施設資源を有効に活用して経営の健全化を図ることを目標として運営してきた。計画患者数を達成するために稼働2年目となる地域包括ケア病棟の円滑運用、ほぼ全ての疾患を扱うことができる唯一の一般病棟である南3階病棟を効率的に運用、南2階病棟、療養病棟、ホスピス病棟を計画患者数達成を目指し運用してきた。計画の達成は成らなかった。継続的課題となっている産婦人科を主とした女性病棟である南2階病棟の活用については若干の上積みはあるものの、引き続き課題を残すこととなった。また、職員の採用環境は極めて厳しい状況が続いている。薬剤師、看護師、栄養士、調理師、理学療法士、保育士など長く退職補充ができない職種があり、各現場では現有職員に従来以上の負担を強いることとなった。一部の職種を除き、年度末には採用が決まり新年度に配置することができた。

何はともあれ、数年来の悲願であった利益を計上できたことは喜ばしい。この状況が続き、経営体質を強固とするよう今一度気持ちを引き締めていかなければならないと思っている。しかし、残念ながら今年度も収益の要である患者数、特に入院患者数が安定しない年度となった。患者数は想定以上に大きく変動し、その推移を見ると、4月の想定外の過去に例のない高い患者数、6月の大きな落ち込み、10月の昨年度とは間逆の従来と同様の高い患者数、11月の高い患者数、1月からの落ち込みが大きく年度末まで回復は見られなかったなど、例年になく特徴的な動きが目についた年度であった。入院患者数は増加することなく計画数、昨年度実績ともに下回った。一方、産婦人科や整形外科を中心とした手術実績が確実に増加し（2018年度1千件目前までの実績となった。）、診療単価が計画を上回ったこと、健診の実績も堅調に推移していること、また、診療報酬改定により基本料関係がアップしたことも黒字化の要因となったと考えている。何れにしてもこの結果は、職員が経営改善を意識して、意欲的な取り組みを行った結果であると感謝している。

##### <2018年度の運営方針>

- ①健全経営を維持していくために、たゆまぬ努力を続ける
- ②医療の質の向上に努め、安全な医療、患者満足度の高い医療を提供する
- ③地域の医療機関や福祉施設等との一層の連携を図りながら、地域包括ケアシステムの円滑な運用に寄与する
- ④運営管理機能の充実を図る。
- ⑤職員が仕事にやりがいと魅力を感じられる働きやすい環境を整備する。

## 1 2018年度の主な動き

### (1) 診療報酬改定への対応

2018年度は診療報酬改定年度に当たり、6年に1度の医療と介護の同時改定が行われた。今回の改定は、2025年における医療提供体制の構築が進められている中でのものであり、2025年直前の2024年の同時改定の一つ前の改定であるという、医療の今後のあり方や介護との連携の方向性を示した重要な意味をもったものであった。

今回の改定では薬価の大幅な引き下げにより実質的にはマイナス改定（マイナス1.19%）といわれていたが、当院の試算によると入院基本料のアップや新規加算の取得により若干のプラス（2018年10月実績の試算で入外計+0.8%、2019年1月実績の試算で入外計+1.2%）となったと認識している。今回の改定では新規に初診時機能強化加算、療養病棟夜間看護加算、感染防止対策加算2を取得した一方、9月までの暫定期間経過後に緩和ケア病棟入院料1を施設基準を満たさないために緩和ケア病棟入院料2に引き下げた。

### (2) 在宅診療への取り組み

医療から介護へ、施設から在宅へと国の政策誘導が行われている折、当院も地域包括ケア病棟という在宅への前段階の診療を旨とする病棟を開設し運用している。このような流れの中で在宅診療は今後担っていく一つの領域と考えている。今すぐ当院が戦略的に在宅診療にシフトする余力はないものの、当面は、地域包括ケア病棟の実績評価加算を算定できる条件である3ヶ月20件の実績を維持することができる在宅診療を行っていくこととし、4月に発令した在宅診療部長を中心にがん患者の在宅診療を行ってきた。10月には一時的に加算取得の基準とされる実績を上げることはできたが、継続的にこの実績を維持するところまでには至っていない。継続的な実績作りが当面の大きな課題である。

### (3) 無料低額診療実践

2017年度から従来の東京都の基準からほぼ国基準の厳しい基準により無料低額診療制度が運用されているところであり、今のところ対象者を基準（総患者数の10%）以上にすることが極めて困難な状況にある。2018年度は2017年度と同程度の実績となっており、基準値をクリアすることはできなかった。無料低額診療実施体制として、療養病棟に生保患者用の入院ベッド枠を拡大したほか、MSWが近隣市役所や社会福祉協議会を訪問して、「特診券」に関する理解を深めて頂くこと等により無低利用者の拡大を図る努力を続けている。このような努力により入院診療において若干の利用者増につながったが基準まで上げることはできていない。

一方、2017年度に無料低額診療基準を満たさなかったことから、そのペナルティーとして固定資産税を支払う（税の支払いは2019年度となる。）こととなるが、その準備として小金井市資産税課により対象物件の資料を基に固定資産評価のための実地調査が行われた。1月には現場調査を終え2019年5月納税通知が来ることとなっている。

### (4) 地域包括ケア病棟の運用

2017年4月に開設した地域包括ケア病棟は、小金井市医師会の先生方からは地域包括ケアシステムの医療における中核を担う役割を果たすものとして、大きな期待を寄せていただいている。地域の大規模病院や開業医の先生方、介護施設などからの一定数の紹介入院に加え、当院の特徴である在宅からの入院が順調で、いわゆるサブアキュート患者が

6～7割の状況が続いている。また、病棟の診療単価は当初の想定どおり約31,000円前後で推移している。在宅復帰率は90%（基準70%）を超えている。

稼働2年目となる地域包括ケア病棟は医療連携の拡充、診療単価アップと想定どおり運用することができた。

#### (5) 認知症疾患センターの運営

認知症疾患センターは指定更新年度を迎え、4月に3年間の再指定を受けた。認知症鑑別診断、相談業務、地域関連スタッフ支援業務などの実績は増加している。北多摩南部認知症診療を考える会の会場設営や認知症サポーター養成講座を開催するなど、認知症患者や家族が小金井地域で安心して生活していくことができるようセンターとしての役割が定着してきた。

#### (6) 分娩環境充実に向けた取り組み

少子化が進む中、当院の分娩数も2014年度をピークに減少傾向にある。幸い当院の分娩に関しては高い評価を得ているところ、分娩数を維持・増加させようと、中でも経産婦分娩の割合を増やすために面会規制の緩和や分娩環境の整備を行った。その一つとして個室病室と4人床病室1室ずつであるが模様替えを行った。利用者からは大変好評をいただいている。また、分娩に伴い体調の変化や心の痛みなどについて助産師が相談にのる機会として、週1回の助産師相談を開設し利用してもらっている。分娩に関しては分娩前から分娩後まで、一連のフォローをしていくために、産後うつ等で支援を必要とする方のうち希望者の入院の機会として「産褥入院」を構想しているが、行政との足並みがそろわず実現していない。これまで実施してきている「母親学級」や生後半年までの子供を持つ母親を支える「まなざし」も利用者が多く、分娩前から分娩後までをフォローする取り組みは高評価の中で続けている。

#### (7) チーム医療の推進…感染対策チーム、認知症サポートチームの活動

感染管理については、感染制御実践看護師を中心に、日常的な感染対策チーム（ICT）の活動も軌道に乗りつつあり、標準予防策の研修会の開催、院内ラウンド、感染症発生現場への介入等を通じ、感染予防対策の充実、感染症の拡大防止等に確実に機能し始めている。4月に感染管理加算2を取得したが、基準要件である地域において感染管理の中核となる感染管理加算1を取得している病院や感染管理加算2を取得している複数の病院との相互往来も始まっており感染管理の質の向上につながっている。

認知症看護については、認知症認定看護師による高齢者看護相談外来、院内ラウンド、認知症疾患医療センターと連携しての職員研修や認知症サポーター養成講座開催、また、認知症サポートチームによる院内デイサービスが開始されている。院内デイサービスでは身体機能、精神機能、ADL機能の低下を予防すること、また集団活動における社会性の維持を目指している。

#### (8) 業務改善活動

各部門や部署単位では日々の業務実践の中で業務改善が行われていると承知しているが、病院としての活動としては患者の投書を受けての実践、職員の提案を受けての取り組みの他、QC活動によるものがある。当院では2015年度にQC活動のすそ野を広げる意味から推進委員会として位置づけQC活動をリードするものとして設置した。本年度もQC活動推進委員会の主導により進められた活動があったが、まだQC活動が広く拡大しているという状況にはない。各部署、各委員会活動の中からQC活動による改善が拡散し、病院主導

のTQM活動に発展し、病院上げて業務改善が継続していく状況になることを願っている。

(9) 患者サービス向上と課題

患者サービスとしては、質の高い医療を安全に桜町マインドを持って提供することに尽きると思うが、今年度寄せられた投書85件を見ると、御礼・感謝の投書23件に匹敵する数の接遇や待ち時間に関する投書（合わせて25件）が入った。

このうち、会計待ち時間の短縮については抜本的改善策を講ずることはできなかったが、早く実施しなければならない継続的改善事項として認識している。待ち時間が発生し、また長くなる要因はいくつもあり一朝一夕に改善できないが、待ち時間短縮に向け改善の取り組みは必須である。常時長い待ち時間となることはないが、曜日により時間帯により待ち時間が長くなることを改善するために、9時から14時までの時間帯の処理体制を厚くすることとして、委託先に要請し、次年度から実施することとした。

(10) 職員採用環境悪化

職員数については、退職者が出た場合や新たな業務を行うこととした場合、また、その他業務執行の状況を勘案して、弾力的な職員数管理をしている。しかしながら、今年度は特に採用補充が思うように進まず、長期間補充ができない職種が出てしまった。

採用補充が困難な職種としては、薬剤師、手術室看護師、リハ技師、調理師、保育所の保育士であり、ハローワークはもとより、人材紹介サイトの活用、職種によっては学校訪問を行うなど補充に向け募集採用の努力を続けた。薬剤師、手術室看護師、調理師、保育士については依然採用が困難な状況が続いている。非常勤職員の採用配置や事務補助を導入するなどの補完体制を整備した。

(11) 改正労働契約法施行に伴う無期労働契約への変更

4月以降の無期雇用契約への移行に当たっては、無期雇用契約を行う準備として就業規則の整備や移行に必要な書面の整備などを行い、この4月以降3名の該当者全員の無期雇用希望を受け、新たに契約を締結した。次年度は今年度希望を出さなかった6名に加え新たに38名が該当する。その希望を募る準備を行った。

(12) 労働基準法改正による年次有給休暇付与義務化への対応

労働基準法が改正され有給休暇が10日以上付与される職員に、5日付与することが義務付けられたことを踏まえ、それを確実に履行していく準備を行った。就業規則を変更し、従業員組合と協定を締結して有給休暇を付与することとした。

(13) 保育所に関する動向

2017年4月、保育士の体制を整備できなかったために、さくらまち保育所を外部業者に委託したが、2018年度10月からは直営に戻し運営している。その間、保育所を認証保育所とする検討を行ってきたが、条件が合わないためにこれを断念した。一方、かねてから小金井市から開設の要請を受けていた病児保育事業を行うこととし準備をしてきた。病児保育は小金井市からの受託事業となることから、小金井市の指導の下に施設整備のための工事の準備や行政への申請準備を行ってきた。病児保育施設は既存の保育所に増設し専用施設とすることとした。申請手続きや整備工事が順調に進めば、2019年度11月頃には開設ができるものと考えている。ただし、保育士の確保が重要な開設条件である。

## 2 機器整備、施設設備改修

2018年度は、手術台(2台)1080万円、移動式X線装置308万円という高額な機器等の他、分娩台301万円、スチームコンベクションオープン142万円などの機器等を整備した。また、別館のエレベータの改修454万円、電話交換主装置入替179万円、各所エアコン改修370万円などを行った。(別紙)

## 3 数値計画の達成状況

### (1) 収入関係

#### 1) 患者数の状況と課題

入院 2018年度も年度を通じて患者数の大きな変動があった。4月166.4人、7月164.8人、11月162.3人と計画を上回る月があった一方、6月145.0人と2017年度の163.8人を大きく下回る想定外の結果となった。また、1月144.5人と2018年度最低の患者数となった他、3月に一時的な増加は見られたが年度末に高い数字となることはなかった。

施設を効率的に使用し患者数を上げ増収につなげる上で、経年的課題である南2階病棟の利用を如何に平均的に高く維持していくかが重要な課題である。当該病棟は助産師が中心となる看護体制を敷く女性病棟であるという特殊性がある病棟であるが、一般病床に限りがある当院の状況を考え併せると、この病棟の利用率を高く維持していくことが病床の円滑な活用、病院全体の利用率の安定化につながる事となる。

今年度も南2階病棟の平均利用率アップという課題を残してしまった。

外来 年度の前半は患者の少ない状況にあったが、秋口から年末にかけ昨年度や計画数をも上回る事となり(年度計画比+19.2人/日)、外来の混雑状況が続いた。曜日によっては会計待ち時間が長くなり、窓口補完体制を敷いたが患者から待ち時間が長いとの苦情の投書が寄せられた。

新患の少ない状況は2017年度から続いている。

#### 2) 手術実績

計画手術件数は、月当たり75件以上であるが、実績は83.1件となっており、2017年度より7件以上増えている。産婦人科は手術の減少を心配していたが、産婦人科部長の講演や広報活動等により近隣医療機関や大学関連医療機関からの手術対象患者の紹介が増えている。2017年度比5.9件の増。また、整形外科は1.4件上回っている。眼科も0.7件の増。手術件数は順調に増加しており1千件目前(997件)となった。

当院は増改築を行うコンセプトにおいて、多くの手術を行う病院作りを想定していない中で手術施設設備が整備されていると思われる。そういう現在の施設設備ははじめ限られた体制下において手術を行っていかねばならない状況にあるので、限られた分野の手術を行っていくこととなるが、手術件数を維持・増加させていかない限り経営の安定化を図ることができないと言っても言い過ぎではないと考えている。

#### 3) 分娩件数増加に向けた取り組み

2018年度の分娩は415件となり昨年度を8件上回った。少子化の折、分娩数を増加していくことは困難であるが、面会制限の緩和や個室への子供の面会を可能としたこと、一部病室の改修を行ったことなどもあり、分娩件数は若干の増加となり、経産婦分娩が全体の

半数ほどまで増加している。消費税増税を見越して次年度からの分娩料金を見直した際、「リピート割引」を導入し、更に経産婦に当院を利用していただこうと考えている。また、分娩にまつわる一連の環境整備として、母親学級やまなざしによる支援に加え、助産師相談を開設し、妊娠中から分娩後までの支援を充実させた。

#### 4) MRI・CT 実績

MRI は整形外科を中心に実施されており、若干ではあるが実施件数が増加している。ただし目標件数 8 件には届いていない。また、近隣のクリニック等からの依頼件数もあまり増えていない。CT も昨年度実績には届かなかった。

予約ではない外来受診当日の指示が多いが、放射線科ではその指示に確実に応えている。

#### 5) 診療単価

入院 診療報酬改定により基本料が上がり、とりわけホスピス入院科は 2 千円近いアップとなっている。しかしながら、ホスピス科については 10 月から施設基準を落とさざるを得なくなり、10 月以降の実績をみると 2 千円を超えるダウンとなっている。また手術実績の多い産婦人科や整形外科は、手術件数は増えているが診療科の単価は落ちている。難度の高い手術の減少によるものと思われる。とは言え、入院単価は確実に上がっており、全体で計画に対し+655 円、昨年同期比+675 円のアップとなった。

外来 基本料が上がった。計画比+122 円、前年度比+64 円。

### (2) 支出関係

#### 1) 電力供給会社の変更

電力の自由化により電力会社が顧客獲得に動く中、電気料金を大きく削減できるという提案を受け、10 月から東京ガス系列の「エネット」から KDDI グループの「エナリス」に電力供給会社を変更した。平年度ベースで 430 万円の電力料金削減を図る仕組みでの運用となる。この夏は異常な暑さのために消費電力が上がり、光熱水費全体では減少していないが、この変更をしていなければもっと高額な電力料金となったものと考えている。

#### 2) ジェネリック医薬品の採用拡大

医薬品市場は薬価の大幅な値下げ、画期的新薬創出、ジェネリック医薬品への移行等市場全体が大きな変革の時期にある。当院ではホスピス病棟や地域包括ケア病棟等の定額算定の病棟には、薬剤購入費用を抑える意味合いからジェネリック医薬品の採用を進めている。特に先発品メーカーのジェネリックは優先的に採用を図りつつある。今年度は新たに 24 品目を導入した。

#### 3) 診材等のコスト削減

診材等のコスト削減手法として、ベンチマークシステムを活用した取り組みを模索したが、当院では既に同システムが提供する情報のほぼ 96% 以上のものを安価に購入していることが分かったため、同システムを活用したコスト削減までする状況になかった。今後とも市場調査、見積もり合わせ等を実施することにより良質なものを安価に購入していく努力を続ける。

診材関係の予算対比ではかなり実績が上回っている。当院では耐用年数に囚われず、安全を確認しながらできるだけ長く使用してもらうようにしていることもあり、予算化はしていないが故障により修理不能のもの、経年劣化をきたしたものの、感染防止の観点からデ

イスが製品（1回の使い捨てとなる。）を使用せざるを得ないことから、予算をオーバーすることとなる。ムダになるもの、過剰となるものは購入しないよう管理している。

### （3）収支状況

4月、想定外の増収・増益でスタートした2018年度は、6月の大きな落ち込みや8月から9月にかけての弱々しさはあったものの、10月から顕著な回復を見た。年度を通して経常利益で利益を計上できた（6月、9月12月は損益計上）ことはここ数年来経験できなかったことであり、大変喜ばしく思っている。ただし、1月からの患者数の落ち込みがあり収入がかなり減少したことから、2018年度の収支差については利益を計上することはできたが、安定的に収益を上げることについては依然として課題を残すこととなった。

資金繰りは長期的にみれば改善傾向にあるが、年間を通じて患者数、診療単価ともに計画を上回る数値を残すことが資金繰り安定化の必要条件と考えている。

#### 1）事業収支

##### ①事業活動収入

計画 3,523,106 千円→実績 3,414,536 千円（▲108,570 千円）昨年度比+7,597 千円

・入院診療収入 2,208,756 千円→2,151,545 千円（▲57,211 千円）

入院診療単価は、計画を 655 円上回ったが患者数の減少 6.3 人/日カバーできるほどではなかったことから、入院収益は予算比で 57 千円の計画減となった。

・外来診療収入 737,395 千円→723,894 千円（▲13,501 千円）

外来は、患者数は計画を上回ったが、計画に届かなかった。

##### ②事業活動支出

計画 3,251,941 千円→実績 3,242,447 千円（▲9,494 千円）昨年度比▲25,841 千円

支出については診材が大きく計画を上回ったが、給与費や業務委託費などの減額により計画比 0.9 千万円下回った。

##### ③事業活動収支差額

計画 271,165 千円→実績 172,090 千円（▲99,075 千円）昨年度比+33,438 千円

#### 2）人件費率

過去の実績から当院の赤字黒字の境界線は概ね人件費率 65%である。2010 年度から 2012 年度までは 65%を下回っており黒字を計上したが、ここ数年間は人件費率が 65%を上回り赤字となった。今年度は人件費率 64.98%と 65%をほんの少し下回ることができた。

## II さくらまち保育所

2017 年 4 月、さくらまち保育所を外部業者に委託したが、2018 年度 10 月からは直営に戻し運営している。その間、保育所を認証保育所とする検討を行ってきたが、条件が合わないためにこれを断念した。当保育所は、常勤保育士 2 名、その他の勤務体制の保育士 2.7 名の体制で 1 日平均保育児数 5.0 人の保育を行った。保育所を利用した児童実数は 21 人で、平日保育の他、24 時間保育 55 回、休日保育 19 回を行った。

### Ⅲ 桜町児童ショートステイ

桜町児童ショートステイは、常勤保育士 5 名、アルバイト学生 10 名の体制で障害児の短期入所 365 人及び日中一時支援 131 人の支援を行った。

利用児の多くが通学している都立小金井特別支援学校では、2015 年度から校舎改築のため西国分寺の仮校舎へ移転していたが、その工事が終了し、2018 年 4 月から小金井の本校舎に戻った。2015 年度より学区域の市にあたる小金井市、武蔵野市、小平市による 3 市連携での支援は今年度も継続され、本校舎へ戻った後も安全な通学支援をはじめとした体制作りについて保護者を含めた関係者で話し合いを行った。

#### 【2018 年度活動状況報告】

種別	許可病床数	患者数/日	延患者数	利用率 (2018 年度)	利用率 (2017 年度)	利用率 (2016 年度)
入院	199 床	154.7 人	56,470 人	77.7%	78.7%	78.9%
外来	—	387.0 人	113,384 人	—	—	—

平均在院日数	21.3 日 一般のみ 15.3 日 ホスピス 42.4 日 療養 231.7 日
新入院患者数	2,644 人 (前年度 2,615 人)
退院患者数	2,654 人 (前年度 2,593 人)
時間外患者数	499 人 (前年度 570 人)
紹介率・逆紹介率	紹介 15.0% 逆紹介 14.5%
手術件数	997 件 (前年度 909 件)
全麻件数	423 件 (前年度 411 件)
分娩件数	415 件 (前年度 407 件)
人間ドック件数	入院 6 件 (前年度 8 件) 外来 679 件 (671 件)

#### 【無料低額診療】 上段：2018 年度 下段：2017 年度

##### 1. 受診人数

新規実人数	継続実人数	実人数計	延べ受診人数
10	6	16	71
21	11	31	142

##### 2. 診療科別件数

内科	精神科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	眼科
40	3	1	10	10	1	6
73	18	2	2	27	1	18



### 3. 依頼者別件数

福祉事務所	社会福祉 協議会・ 福祉公社	難民支援	ホームレス 支援団体	他病院	その他	合計
3	5	4	0	0	5	17
10	10	52	1	0	10	128

### 【職員】 2018年度年度始め・年度末職員数及び退任・就任状況

区分	2018年4月1日 の職員数			年間退任・就任						2019年3月31日 の職員数		
	正職員	非常勤職員	嘱託	正職員		非常勤職員		嘱託		正職員	非常勤職員	嘱託
				就任	退任	就任	退任	就任	退任			
院長	1									1		
副院長	2									2		
医師	19	41	5	5	4	21	16	1		17	54	6
助産師	14	10		1	5		2			11	8	
看護師	75	41	3	12	12	10	10		1	74	43	2
准看護師	2	4	1		1	2	3		1	1	3	
看護助手	18	6	3	3	2	3	6		1	17	5	2
薬剤師	4	2				1	1			4	3	
放射線技師	6		1	2	1					7		1
臨床検査技師	8	2	1							8	2	1
PT・OT・ST	12	6	1						1	12	6	
栄養士	5			2	1	1	1			5		
MSW	7									7		
事務部	24	15	1	1	3	3	5			23	13	1
施設	3									3		
その他	11	16	1	3		9	7			14	19	1
合計	211	143	17	29	29	50	51	1	4	206	156	14

注：就任・退任数には4月1日就任数及び3月31日退任数を含む

事務部の人数は（事務部長・総務課・経理・医事課）

その他の人数は（看護部長室・ORT・診療技術部助手・調理師・調理員・心理士・保育士等）

【患者動向】

2018 年度診療科別患者状況

区 分	入 院		外 来	
	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単 価 (円)	一日平均患者数 (人)	一日平均診療単 価 (円)
内科	41.4	28,929	139.2	7,385
	41.5	28,257	137.9	7,421
精神神経科	—	—	39.1	5,388
	—	—	39.5	5,298
小児科	3.1	30,309	60.6	4,804
	2.8	30,068	61.3	4,565
外科	8.5	31,572	17.5	6,148
	11.2	30,543	17.7	5,875
整形外科	32.1	45,680	52.6	7,713
	27.8	46,927	52.0	8,007
産婦人科	19.1	76,002	47.6	6,635
	18.9	77,281	45.2	6,148
眼科	1.1	96,351	28.6	5,633
	1.5	75,648	28.9	5,813
ホスピス科	14.7	46,233	1.9	5,932
	15.0	45,690	1.7	5,386
ホスピス内 科	1.6	25,061	—	—
	2.5	26,652	—	—
療養	33.0	18,346	—	—
	35.4	18,356	—	—
計	154.7	38,234	387.0	6,539
	156.6	37,559	384.3	6,475

注：上段 2018 年度 下段 2017 年度

**【2018年度機器等整備状況】**

機 器 等 名	数量	新設・更新・増設・ 修繕	整備部署
手術台	2	更新	整形外科
移動型X線装置	1	更新	放射線科
分娩台	1	更新	南2階病棟
高輝度光源装置	1	新規	産婦人科
ベッドパンウォッシャー	2	更新	南3階病棟
ベッドサイドモニター	2	更新	南3、北4病棟
スチームコンベクションオープン	1	更新	職員食堂
湿温蔵庫	1	更新	栄養科
マンモグラフィレポート改修	1	更新	放射線科
リクライニング車いす	1	増設	リハビリ科
吸引娩出器	1	更新	南2階病棟
24時間携帯型自動血圧計	1	更新	検査科
耐圧分散式エアマット	4	増設	南3、北4、 ホスピス、療養
薬用保冷庫（手術室用）	1	新規	薬剤科
電子カルテ端末（ノート）	1	増設	外来

**【2018年度施設・設備整備状況】**

改修・修繕（修理）・模様替え・補修
別館エレベーターリニューアル工事
電話交換主装置入替
ホスピス冷却水ポンプ交換
エアコン修理（外来、ドック室、北4、療養、分娩室、栄養科、南3、手術室）
直流電源装置整流器冷却ファン交換
別館自動ドア予防保全部品交換

**【2018年度教育研修実施状況】**

研修名（研修タイトル）	年月日	開催場所	出席者数
新入職員研修会	2018. 4. 1～2	第1会議室	10名
医学の見地からみたガイドラインと医療訴訟	2018. 6. 27	戸塚ホール	38名
標準予防策研修会①	2018. 7. 19	第1会議室	35名
個人情報保護法への医療機関の対応	2018. 7. 23	戸塚ホール	14名
認知症サポーター養成講座	2018. 7. 24	第1会議室	43名
認知症の方とのコミュニケーション（ユマニチュード）	2018. 8. 22	〃	38名
標準予防策研修会②	2018. 9. 26	〃	20名
スピリチュアルケア研修会「チームで行うスピリチュアルケア」	2018. 10. 26	戸塚ホール	25名
標準予防策研修会③	2018. 11. 6	第1会議室	38名
スピリチュアルケア研修会「スピリチュアルペインとそのケア」	2018. 12. 10	別館3階講義室	33名
医療安全研修会「医療事故の初期対応」	2019. 1. 16	戸塚ホール	49名
認知症サポーター養成講座	2019. 1. 29	〃	12名
スピリチュアルケア研修会「涙も笑いも力になる」	2019. 2. 8	別館3階講義室	19名
2018年度院内研究発表会	2019. 3. 9	第1会議室	40名
結核と院内感染	2019. 3. 11	戸塚ホール	61名

**【市民講座】**

研修内容	年月日	開催場所	出席者数
①膝関節痛の原因と治療 ②膝痛予防体操	2018. 6. 23	戸塚ホール	46名
①喘息とCOPD ②誤嚥性肺炎予防の嚥下体操	2018. 11. 17	〃	20名

<2018 年度さくらまち保育所>

項 目	実 績
保育児数	保育児延べ数 1,566 人（前年度 3,060 人）
	平日 1,336 人、休日 21 人（前年度平日 2,893 人、休日 167 人）
24 時間保育	延べ回数 55 回（前年度 69 回）
	延べ保育児数 57 人（前年度 112 人）
職員数	延べ数 1,357 人（前年度 1,688 人）
行事等	定期健康診断 5 月、11 月

<2018 年度桜町児童ショートステイ>

項 目	実 績
短期入所 利用者数	365 人（前年度 332 人）
利用日数	1,081 日（前年度 1,019 日）
日中一時支援利用者数	131 人（前年度 108 人）
利用日数	197 日（前年度 152 日）
利用者住所地	小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市

## 4. 公益事業部門

### I 小金井訪問看護ステーション（訪問看護）

#### 【2018年度利用状況報告】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医保利用者数	10	9	6	6	6	6	6	7	8	8	8	9	
訪問件数	49	37	29	26	31	27	34	34	39	40	35	45	430
介保利用者数	35	38	42	41	43	42	44	42	42	38	40	42	
訪問件数	136	163	173	173	200	159	189	183	172	160	165	177	2050
(訪問リハ件数)	15	19	15	15	27	15	23	21	22	14	15	20	221

#### 【職 員】

- ・正職員 3名（就任2名うち1名は非常勤より移行・退任1名）
- ・非常勤職員 2名（退任 1名）

#### 【施設運営状況】

- ・2018年度は地域包括システムを支える事業所となるため24時間訪問体制を整えることを目標に人材の確保と育成に取り組んだ。当初常勤職員の採用に難航したが10月に1名、来年度早々もう1名の採用が見込めたことから、12月に法人内外の関係機関に24時間体制での支援を行うお知らせの文書を作成し、配布していった。2月には桜町病院の訪問診療との連携について担当する医師、MSWと話し合いを持ち、ガン末期の利用者への支援も行うことができた。利用者に対し質の高い看護を提供することも重視し、業務カンファレンスにおいて日々の業務、記録についての話し合い、事例検討や伝達講習などスタッフ全員で検討、学ぶ機会をつくっていった。

次年度の課題として、ターミナル期の利用者が増えると職員の時間外の出勤も必要となることから代休の確保など職員の健康管理を考えながら運営体制をつくることと考えている。また担当看護師が不在な時でも十分な支援を行う体制を整えることも課題である。

- ・地域との連携に関しては医師会主催の研修会への参加、市事業者連絡会などへの参加を行っている。法人内の連携会議への出席は管理者だけでなく、スタッフも参加し地域、法人を支える一員としての自覚を持つことを目指した。
- ・利用者に関しては昨年に比べわずかではあるが、新規の依頼を多く受けることができた。訪問リハビリは桜町病院との連携のもと支援を行っているが、利用者が減っている状況であった（2017年度年間トータル309件・2018年度年間トータル221件）。リハビリスタッフと密に連携がとれる体制にあることを強みとして、近隣のケアマネージャー方に声かけを行い利用者獲得に努めた。退院時から引き続きリハビリを行うことで生活への移行がよりスムーズになるため入院中からサービスの導入を検討していただくことも必要と考えている。

**【利用者支援状況】**

1. 利用者数（年間登録者）…74名（男 31名 女 43名）※前年度 78名
2. 利用者の住所…小金井市 74名
3. 主治医…桜町病院 40名（前年度より+4名）  
 その他の病院9名（前年度より+2名）  
 市内の開業医院12名（前年度より-1名）  
 他市の開業医院3名（前年度より-1名）  
 訪問診療10名（前年度より-8名）

4. 新規利用者紹介元

2019年度新規利用者26名（前年度22名）

包括	ケアマネ	医療機関	市役所	個人
0	19	7	0	0

- ・新規利用者は桜町病院を主治医とする方が26名中17名と半数以上である。しかし退院後ケアマネを通じての訪問依頼が多く、退院時共同指導（入院、入所中に退院に向けて共同で指導を実施した場合に算定）の算定出来た方は2018年度3名と少ない状況にある。入院中からの情報交換を密にとれる体制づくりが必要と考える。

5. 訪問終了者25名（前年度30名）

終了理由

死亡	入院	特養・グループホーム	有料ホーム	障害施設	他 ST へ移行	その他
3	9	4	3	0	2	4

**【教育研修】**

- ・東京有明医療大学看護部学生実習受け入れ（4名）

**【職員研修】**

研修名	年月日	主催	出席者
摂食嚥下	2018.6/5	多摩クリニック	1名
栄養ケア	2018.7/2	多摩府中保健所	1名
認知症サポーター養成講座	2018.7/24	桜町病院	1名
摂食嚥下	2018.9/27	多摩クリニック	1名
持ち上げない介護	2018.10/16	法人本部	1名
他職種研修	2018.10/25	市地域包括ケア	1名
新入職者研修	2018.10/22-11/13	ステーション、病院内	1名
誤嚥を防ぐ	2018.11/22	法人本部	1名
医療連携	2018.11/29	市地域連携協議会	1名
退院支援	2018.12/7	病院看護部	1名
誤嚥性肺炎予防	2018.12/14	多摩総合医療センター	1名
ヨハネ会障害福祉部門見学	2018.12/14	梶野町東京事務所	1名
精神訪問看護	2019.1/26・2/16・3/9	東京看護協会	1名

## I 聖ヨハネホスピスケア研究所

### 【2018年度活動状況報告】

#### 1) ホスピスセミナー

主に看護学生など対象に実施。

計1回実施。 参加者41名

#### 2) 音楽療法

非常勤研究員の音楽療法士による、入院患者1人1人のニーズに応える個別の音楽療法「音楽宅配便」を、基本的に週1回実施した。

#### 3) 講演会

ケアタウン小平と共催にて実施。

テーマ「山崎章郎 いのちを語る」 講師：山崎章郎 所長

(3月7日 小金井市民交流センター 大ホール)

参加者 519名

#### 4) ホスピスボランティア講座

聖ヨハネホスピスと共催で5月～6月の2ヶ月間に計7回の講習を実施。

参加者 20名

#### 5) 研修会の実施

主に地域医療に従事する職業を対象に、以下研修会を実施した。

「どう支える 看取りまでの1週間」

(聖ヨハネホスピスと共催 1月 三枝先生)

参加者 37名

### 【職員】

特になし。

### 【施設運営状況】

特になし。

### 【施設整備状況】

特になし。



## 5. 収益事業部門

施設名 : シニアハイムさくら (高齢者賃貸住宅)

### 【施設運営】

小金井の地で医療・介護・福祉サービスを展開している中で、入院や特養入所にいたる前の段階で小規模でも安心して生活できる場の形成が必要との考えから、高齢者賃貸住宅を提供することの意義があると考え本事業をスタートし6年目を迎えた。地域包括ケアシステムを構築する過程で老後を自宅又は小金井市内にて居住したいとの要望は大変高いが、全くの在宅独居の生活は不安だという高齢者の方の住まいが求められており、高齢福祉部門としても介護保険事業だけでは本来目指そうとしている高齢者の安心につながるサポートを充実できないという考えでこの事業を開始した。対象者は自立された方で在宅介護サービスを利用し自立生活可能な方とし、介護スタッフは配置せず管理人を配置し、ケアマネジャーは桜町ケアマネジメントセンターが基本的に受け持つという基本方針を進めることとなった。

これまでの経験から、利用者の前住居の整理、荷物の取捨選択といったところに時間をかなり要することがわかってきた。また入居後に身体の衰えなどで特養への入所に移ってしまうケースも予想していた以上に多いということがわかった。今年度は昨年度から1名が増え、80%の入所率となった。

居室は全個室で5戸。現在、5名の受付ボランティアが月曜日～土曜日の10:30～16:00常駐し対応して頂いている。今後は、法人内のサービス連携（デイサービス、配食等）をより具体的に進めていきたい。

### 【2018年度利用状況報告】

種別	定員	1日平均利用者数	2018年度利用率
シニアハイムさくら	5室	4名	80.0%

### 【施設整備状況】

特になし

### 三 理事会

第 307 回 2018 年 4 月 20 日（金） 本館戸塚ホール

- （議案） 1 施設長等の選任の件  
2 内部管理体制の構築に係る規程の整備の件

第 308 回 2018 年 6 月 6 日（水） 本館戸塚ホール

- （報告） 1 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告の件  
（議案） 1 2017 年度監事監査報告の承認の件  
2 2017 年度事業報告及び 2017 年度計算書類等の承認の件  
3 社会福祉充実残額の承認の件  
4 評議員候補者の選出の件  
5 評議員選任・解任委員会の招集の件  
6 施設長等の人事の件  
(1)富士聖ヨハネ学園診療所長  
(2)障害福祉部門統括施設長  
7 諸規程の制定及び改訂の件  
(1)桜町病院 職員給与規程  
8 基本財産の追加の件  
9 定時評議員会の招集事項の決定の件

理事会決議の省略 2018 年 6 月 13 日

- （議案） 1 諸規程の制定及び改訂の件  
(1)桜町病院職員給与規程

第 309 回 2018 年 9 月 28 日（金） 本館戸塚ホール

- （議案） 1 諸規程の制定及び改訂の件  
(1)桜町聖ヨハネホーム 運営規程  
(2)桜町高齢者在宅サービスセンター 運営規程  
(3)本町高齢者在宅サービスセンター 運営規程  
(4)小金井聖ヨハネ支援センター 運営規程  
(5) " 重要事項説明書  
(6)障害福祉部門 組織規程  
(7)経理規程  
(8)桜町病院 給与規程

2 桜町地区敷地の利用の件

第 310 回 2018 年 11 月 21 日（水） 本館戸塚ホール

- （報告） 1 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告の件（上半期実績報告）  
2 桜町地区敷地外構工事入札報告の件  
3 業務監査状況報告の件  
4 会計監査人期中監査報告の件  
（議案） 1 2018 年度補正予算の承認の件  
2 諸規程の制定及び改訂の件

- (1)障害福祉部門 職員給与規程
- (2)富士吉田聖ヨハネケアビレッジ運営規程
- 3 障害福祉部門新グループホーム建設の件
- 4 法人の基金設置に関する件
- 5 法人活動の SNS 利用の件
- 6 会計監査人の報酬の件
- 7 評議員候補者の選出の件
- 8 評議員選任・解任委員会の招集の件
- 9 桂川障害防止事業に伴う基本財産の処分の件
- 10 評議員会の招集事項決定の件
- 11 病児保育事業の開設の件

第 311 回 2019 年 3 月 20 日（水） 本館戸塚ホール

- (議案)
- 1 2019 年度事業計画及び予算の承認の件
  - 2 諸規程の制定及び改訂について
    - (1)寄附金等取扱規程
    - (2)桜町病院就業規則関係
    - (3)桜町児童ショートステイ運営規程
    - (4)桜町病院職員給与規程
    - (5)障害福祉部門就業規則関係
    - (6) // 運営規程関係
    - (7)高齢福祉部門就業規則関係
    - (8)法人本部就業規則関係
  - 3 施設長等の選任の件
  - 4 小金井聖ヨハネ支援センター国有地購入の件
  - 5 老朽化に伴う小金井地区新グループホーム建設の経過の件
  - 6 名誉理事長職の設置の件
  - 7 積立金の取り崩しの件（高齢福祉部門）
  - 8 基本財産担保提供承認申請の件
  - 9 評議員会の招集事項決定の件

## 四 評議員会

- 第94回 2018年6月25日(月) 本館戸塚ホール
- (報告) 1 2017年度決算監事監査報告の件  
2 2017年度事業報告の件
- (議案) 1 2017年度計算書類等の承認の件  
2 社会福祉充実残額の承認の件  
3 基本財産の追加の件  
4 定款変更認可申請の件
- 第95回 2018年12月18日(月) 本館戸塚ホール
- (議案) 1 桂川障害防止事業に伴う基本財産の処分の件  
2 基本財産処分承認申請の件
- 第96回 2019年3月29日(金) 本館戸塚ホール
- (議案) 1 2019年度事業計画及び予算の承認の件  
2 名誉理事長職の設置の件  
3 基本財産担保提供承認申請の件  
4 定款変更認可申請の件

## 五 経営会議

2018年4月25日（水）開催

### 【報告事項】

- (1) 月次報告（2018年1～2月度）について
- (2) 法人全体試算表報告について
- (3) 法人合同研修アンケートについて
- (4) 一般事業主行動計画について
- (5) 業務監査の実施について
- (6) 富士聖ヨハネ学園診療所長の交代について

### 【議案】

- (1) 自職場のらしさ（魅力）を発信する活動（職員採用チーム）について
- (2) 2017年度決算スケジュールについて
- (3) ヨハネ会の地域包括ケアシステムの構築のための法人内連携について
- (4) 内部管理体制の構築に伴う規程の整備について
- (5) 感染症（結核発症）の場合の職員検診について
- (6) 経営会議の在り方について

2018年5月23日（水）開催

### 【報告事項】

- (ア) 月次報告（2018年3月度）について
- (イ) 自職場のらしさ（魅力）を発信する活動（職員採用チーム）について
- (ウ) ヨハネ会の地域包括ケアシステムの構築のための法人内連携について

### 【議案】

- (1) 障害者雇用について
- (2) 桜町地区敷地の利用検討について

2018年6月27日（水）開催

### 【報告事項】

- (1) 月次報告（2018年4月度）について
- (2) 2017年度決算報告について

### 【議案】

- (1) 桜町地区擁壁の点検について
- (2) 電気料金削減検討について
- (3) 法人合同研修日程について
- (4) 桜町地区敷地の利用検討について

2018年7月10日（火）開催

### 【議案】

- (1) 富士山登山の費用について
- (2) 一団地認定に関する東側道路工事及び南側擁壁工事について  
（高齢福祉部門の車両駐車場所の検討も含む）
- (3) 桜町地区の敷地利用に関する検討について

(4) 桜町センター敷地の契約対応について

2018年7月25日(水)開催

【報告事項】

(1) 月次報告(2018年5月度)について

(2) 法人全体試算表報告について

(3) 寄付金内訳報告について

【議案】

(1) 桜町聖ヨハネ祭の運営について

(2) 保育事業への取り組みとさくらまち保育所の運営について

2018年7月30日(火)開催

【議案】

(1) 桜町センター敷地の契約対応について

(2) さくらまち保育所の運営について

(3) 特養等複合型施設の資金計画と収支予想について

2018年8月22日(水)開催

【報告事項】

(1) 月次報告(2018年6月度)について

(2) 法人全体試算表報告について

【議案】

(1) 特養等複合型施設の建て替えについて

(2) 小金井市内障害者グループホームについて

(3) 病児保育について

(4) 法人全体の収支予想と資金調達ポイントについて

2018年9月26日(水)開催

【報告事項】

(1) 月次報告(2018年7月度)について

(2) 法人全体試算表報告について

(3) ボーリング大会開催について

(4) 富士山登山レクリエーション費用報告

(5) 寄付金内訳報告

(6) 法人合同研修アンケート結果報告

【議案】

(1) 魅力発信チームからの依頼について(SNSの活用)

(2) 諸規程の制定及び改訂について

(3) 桜町地区敷地の利用等について

(4) 補正予算理事会について

2018年10月31日(水)開催

【報告事項】

(1) 月次報告(2018年8月度)について

(2) 桜町ヨハネ祭開催報告について

(3) 寄付金内訳報告

(4) 法人合同研修アンケート結果報告

**【議 案】**

- (1) SNS の活用について
- (2) 2018 年度補正予算について
- (3) 業務監査の状況について
- (4) 月次報告内容について
- (5) 小金井新GHについて
- (6) 桂川障害防止事業に伴う基本財産の処分について
- (7) 法人の基金設置について
- (8) 一団地及びC B外構工事の入札について
- (9) 障害福祉部門給与規程について
- (10) 病児保育事業について

2018 年 11 月 28 日（水）開催

**【報告事項】**

- (1) 月次報告（2018 年 9 月度）について
- (2) ボーリング大会報告
- (3) 東京都の監査報告について

**【議 案】**

- (1) 理事長年頭挨拶の日程について
- (2) 2019 年度事業計画及び予算作成スケジュールについて
- (3) 法人活動に関する SNS 利用について
- (4) 聖ヨハネ会基金の考え方について
- (5) 福利厚生のご案内について
- (6) 電気料金削減について
- (7) TOKYO働きやすい福祉の職場宣言について

2018 年 12 月 17 日（月）開催

**【報告事項】**

- (1) 月次報告（2018 年 10 月度）について
- (2) 寄付金報告
- (3) 東京都地域公益活動推進協議会会費について

**【議 案】**

- (1) 顧問社会保険労務士の契約について
- (2) 電気料金削減について
- (3) 高齢福祉部門「通所リハ」開設検討について
- (4) 一団地工事について

2019 年 1 月 23 日（水）開催

**【報告事項】**

- (1) 月次報告（2018 年 11 月度）について
- (2) 寄付金報告について
- (3) 福利厚生制度加入について
- (4) 通所リハ事業に関する検討経過について

(5) インフルエンザ感染状況について

**【議 案】**

- (1) 一団地工事の工程等について
- (2) 寄付金取扱規程について
- (3) 高齢福祉部門「非常勤職員就業規則」について
- (4) 「職場紹介」の今後の運営について
- (5) コラボヨハネの協議内容について
- (6) 5月の10連休対応について
- (7) 法人本部の労務に関する取り扱い等について

2019年2月27日（水）開催

**【報告事項】**

- (1) 月次報告（2019年12月度）について
- (2) 寄付金報告について
- (3) 合同研修アンケート報告
- (4) 一団地工事進捗報告

**【議 案】**

- (1) 諸規程の改訂等について
- (2) 小金井GHの進捗状況について
- (3) 梶野町国有地の購入について
- (4) 寄附金積み立て預金について
- (5) 給与振込統合案について
- (6) 積立金の取り崩しについて（高齢福祉部門）
- (7) 名誉理事長について
- (8) 地域公益活動について
- (9) 事業計画及び予算のヒヤリング日程について
- (10) 入職式について
- (11) 決算スケジュールについて
- (12) Facebook の運用について